

第6期江戸川区障害福祉計画・ 第2期江戸川区障害児福祉計画 策定のための基礎調査

(江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査)

結果報告書

令和2年3月

 江戸川区

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査対象者及び回収状況	3
3 調査方法と調査期間	3
4 調査結果を見るうえでの注意事項	3
第 2 章 調査結果の詳細	5
1 回答者について	7
(1) 調査票回答者	7
2 本人の属性について	8
(1) 性別、年齢、居住地域	8
(2) 現在の生活場所	11
(3) 同居者	12
3 本人の状況について	14
(1) 障害者手帳の有無	14
(2) 手帳の種類と等級	14
(3) 身体障害の種類	18
(4) 介護保険の認定状況 (40歳以上の方のみ)	19
(5) 要支援・要介護度 (40歳以上の方のみ)	20
(6) 発達障害や難病等の診断状況	21
(7) 医療費の助成状況	22
(8) 普段の生活の中で介助や支援の必要性	23
(9) 介助や支援が必要な場面	25
(10) 主な介助者、支援者	28
4 保健・医療について	29
(1) 日常的な医療的ケアの状況	29
(2) 受けている医療的ケアの種類	30
(3) かかりつけ医師等の有無	31
(4) 健康管理や医療における困り事や不便に思うこと	38
5 相談や情報入手について	41
(1) 相談相手 (場所) の有無	41
(2) 相談相手 (場所)	43
(3) 悩み事や心配事の相談で感じる不便	46
(4) 相談相手がない理由	48
(5) 区の生活支援に関するサービスの情報の入手先	49
6 通園・通学について	53
(1) 保育園や幼稚園、学校への通園・通学状況	53
(2) 父親、母親の就労状況	54

(3) 通園・通学先	55
(4) 通園・通学するうえで困っていること	56
(5) 放課後や休みの日のサービス利用状況	57
(6) 卒業後の希望進路先	58
7 仕事の状況や今後の希望について	59
(1) 就労形態	59
(2) 就職と、疾患や障害の診断を受けたタイミング	61
(3) 就職する際に利用した機関	63
(4) 今後の就労意向	65
(5) 就労がしやすくなるための支援内容	67
8 趣味の活動や地域の活動について	70
(1) 外出頻度	70
(2) 最近1年間に行った活動	72
(3) 参加したい(参加中も含む)活動	74
(4) 「なごみの家」の利用状況	76
(5) なごみの家の未利用理由	79
(6) スポーツ(運動)の実施頻度	80
(7) スポーツ(運動)に対する考え	82
(8) スポーツ(運動)を行ううえで、必要な行政の支援	85
9 サービスの利用等について	88
(1) 障害福祉サービスの利用状況	88
(2) 障害福祉サービス利用時等の困り事や不便	90
10 災害時の対応について	94
(1) 大規模災害発生時の困り事や不安	94
11 障害者差別について	97
(1) 障害者差別解消法の理解	97
(2) 障害を理由に差別されていると感じる場面	99
(3) 差別を感じたときの相談の有無	101
(4) 相談しなかった(できなかった)理由	103
12 現在の暮らしと今後のことについて	105
(1) 江戸川区での暮らしの満足度	105
(2) 将来の暮らしの希望	108
(3) 今後の区の障害者(児)福祉で充実させていくこと	110
13 自由記述	113
(1) 区の障害者(児)福祉に対する意見・要望	113

第3章 調査票 119

(1) 江戸川区 生活ニーズに関するアンケート調査	121
---------------------------	-----

第 1 章 調査の概要

1 調査目的

本調査は令和3年度から令和5年度までを計画期間とする「第6期江戸川区障害福祉計画・第2期江戸川区障害児福祉計画」の策定にあたり、区内の障害や疾病のある方の実態や障害福祉サービス等に対する意向を把握するために実施した。

なお、アンケート調査名は「江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査」とした。

2 調査対象者及び回収状況

	調査対象者	発送数	回収数	回収率	本文中での表記
1	身体障害者手帳所持者	800件	536件	67.0%	身体障害
2	愛の手帳所持者	200件	127件	63.5%	知的障害
3	精神障害者保健福祉手帳所持者	200件	133件	66.5%	精神障害
4	難病手当受給者	150件	97件	64.7%	難病
5	児童通所受給者証所持者	150件	95件	63.3%	児童通所
	合計	1,500件	988件	65.9%	

(令和元年9月27日現在、無作為抽出した区民)

3 調査方法と調査期間

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：令和元年10月23日（水）～11月13日（水）

4 調査結果を見るうえでの注意事項

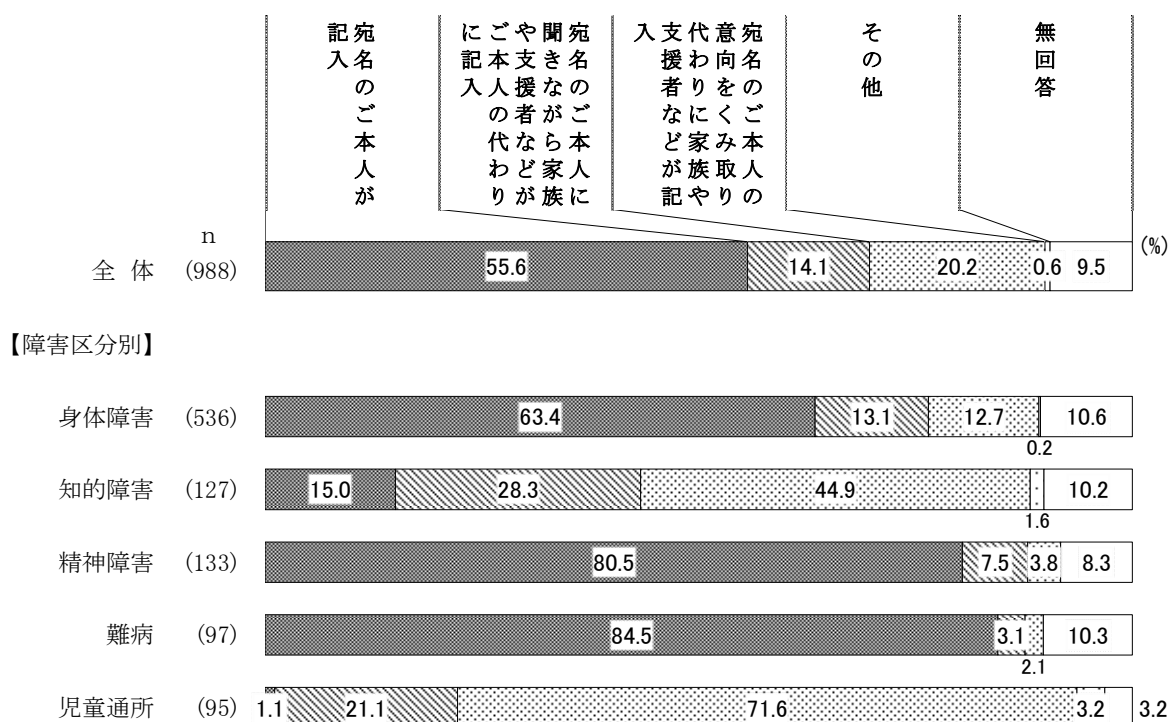
- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足しあわせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

1 回答者について

(1) 調査票回答者

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)



調査票の回答者は、「宛名のご本人が記入」が最も多く55.6%となっている。

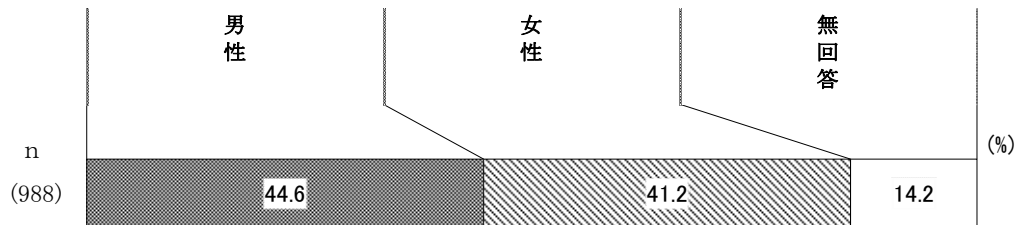
障害区分別にみると、「宛名のご本人が記入」は精神障害（80.5%）、難病（84.5%）が8割台、身体障害が63.4%となっている。一方、知的障害と児童通所では「宛名のご本人の意向をくみ取り代わりに家族や支援者などが記入」が多く、以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

2 本人の属性について

(1) 性別、年齢、居住地域

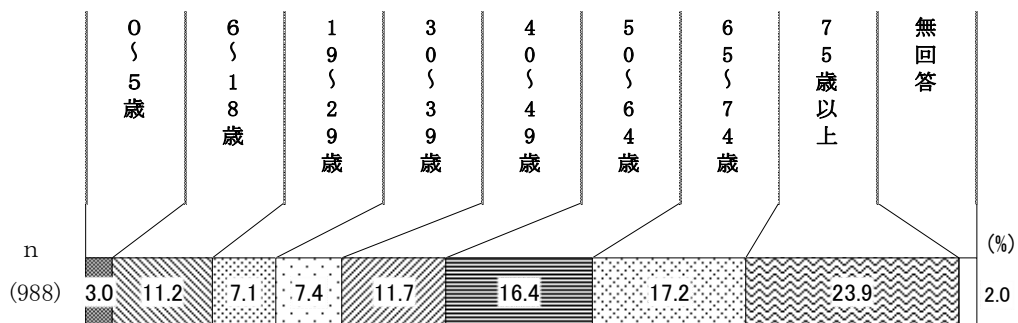
問2 あなたの性別と年齢、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

① 性別



性別は、「男性」が44.6%、「女性」が41.2%となっている。

② 年齢

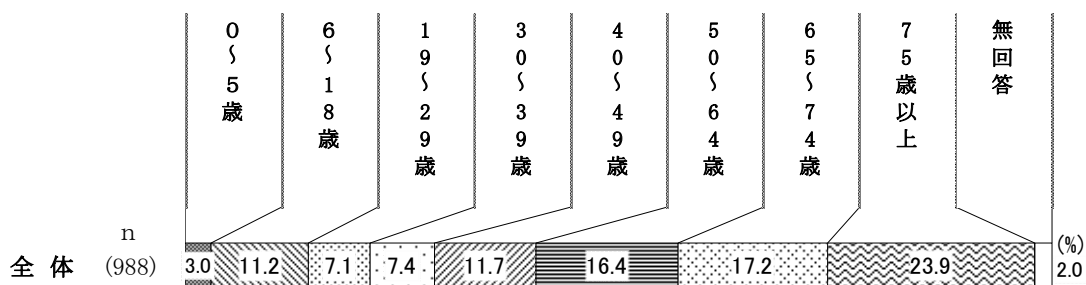


年齢は、「75歳以上」が23.9%と多く、「65～74歳」は17.2%、65歳以上の高齢者は41.1%となっている。また、「50～64歳」(16.4%)、「40～49歳」(11.7%)、「6～18歳」(11.2%)が1割台となっている。

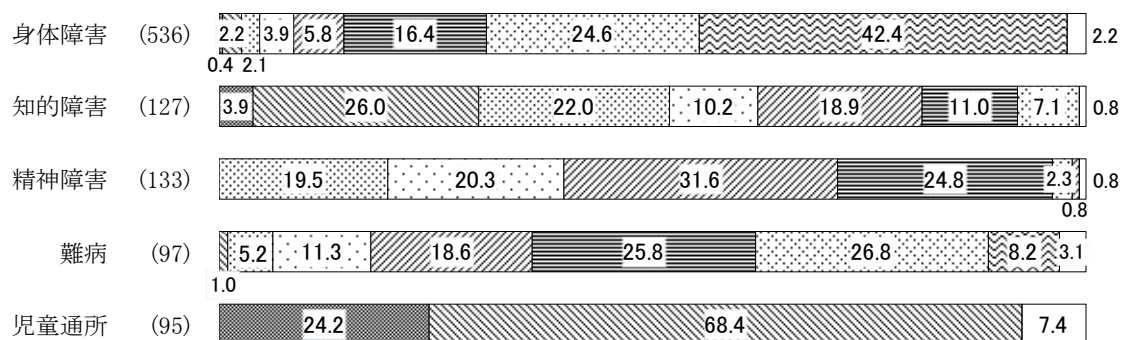
障害区分別にみると、身体障害では65歳以上の高齢者が67.0%を占める。知的障害では6歳から29歳の若年層、精神障害では40歳から64歳の年齢層、難病では50歳以上が多くなっている。

なお、18歳までを対象とする児童通所では、0～5歳が24.2%、6～18歳が68.4%を占めている。

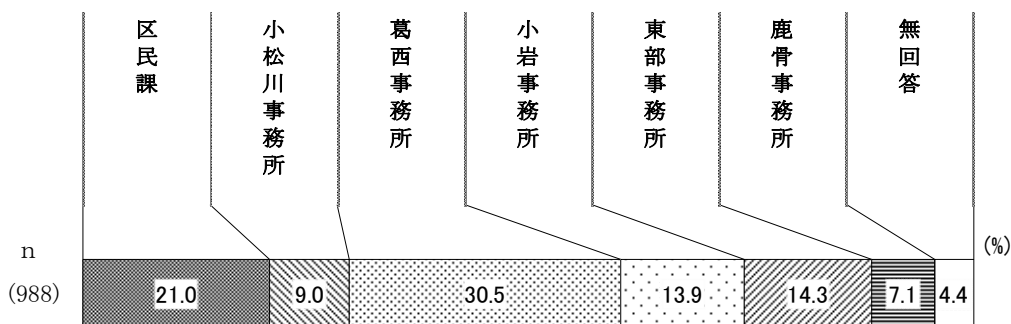
障害区分別



【障害区分別】



③ 居住地域



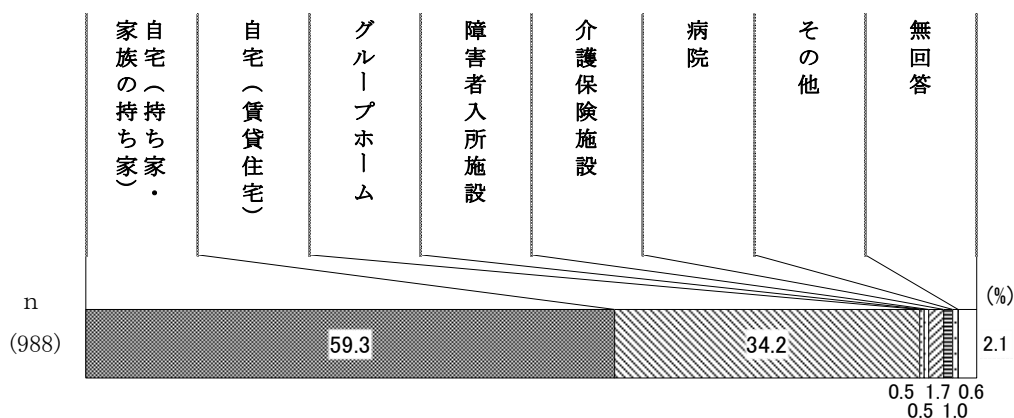
区民課	中央1～4丁目、松島1～4丁目、松江1～7丁目、東小松川1～4丁目、西小松川町、大杉1～5丁目、西一之江1～4丁目、春江町4丁目、上一色1～3丁目、本一色1～3丁目、一之江1～8丁目、西瑞江4丁目1・2・10～27、江戸川4丁目15～25、松本1・2丁目、興宮町
小松川事務所	小松川1～4丁目、平井1～7丁目
葛西事務所	春江町5丁目、西瑞江5丁目、江戸川5・6丁目、一之江町、二之江町、船堀1～7丁目、宇喜田町、東葛西1～9丁目、西葛西1～8丁目、中葛西1～8丁目、南葛西1～7丁目、北葛西1～5丁目、清新町1・2丁目、臨海町1～6丁目、堀江町
小岩事務所	東小岩1～6丁目、西小岩1～5丁目、南小岩1～8丁目、北小岩1～8丁目
東部事務所	春江町2・3丁目、東瑞江1～3丁目、西瑞江3丁目・4丁目5～9、江戸川1～3丁目・4丁目1～14、谷河内2丁目、下篠崎町、篠崎町3～6丁目、南篠崎町1～5丁目、東篠崎町、東篠崎1・2丁目、瑞江1～4丁目
鹿骨事務所	新堀1・2丁目、春江町1丁目、谷河内1丁目、鹿骨町、鹿骨1～6丁目、上篠崎1～4丁目、篠崎町1・2・7・8丁目、西篠崎1・2丁目、北篠崎1・2丁目、東松本1・2丁目

居住地域は、葛西事務所が30.5%、「区民課」が21.0%、「東部事務所」(14.3%)と「小岩事務所」(13.9%)が1割台となっている。

(2) 現在の生活場所

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、一番長く生活している場所をお答えください。



現在の生活場所は、「自宅(持ち家・家族の持ち家)」が59.3%、「自宅(賃貸住宅)」が34.2%となっている。

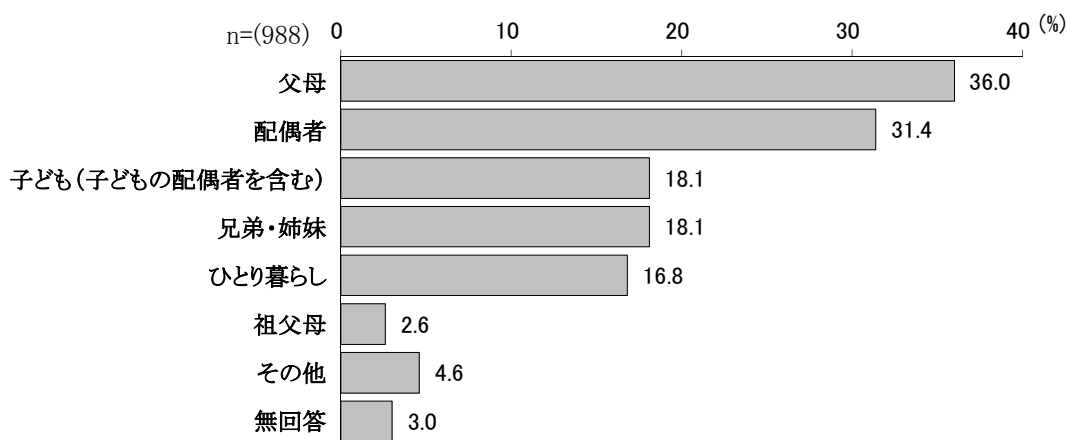
障害区別にみると、「自宅(持ち家・家族の持ち家)」はいずれの障害区分でも5割以上となっている。「自宅(賃貸住宅)」は精神障害(47.4%)と児童通所(43.2%)が4割台となっている。

障害区分別

	調査数	自宅(持ち家・家族の持ち家)	自宅(賃貸住宅)	グループホーム	障害者入所施設	介護保険施設	病院	その他	無回答
全体	988	59.3	34.2	0.5	0.5	1.7	1.0	0.6	2.1
身体障害	536	61.8	30.0	0.2	0.2	3.0	1.5	0.9	2.4
知的障害	127	58.3	32.3	3.1	3.1	0.8	0.8	-	1.6
精神障害	133	50.4	47.4	-	-	-	0.8	0.8	0.8
難病	97	63.9	33.0	-	-	-	-	-	3.1
児童通所	95	54.7	43.2	-	-	-	-	-	2.1

(3) 同居者

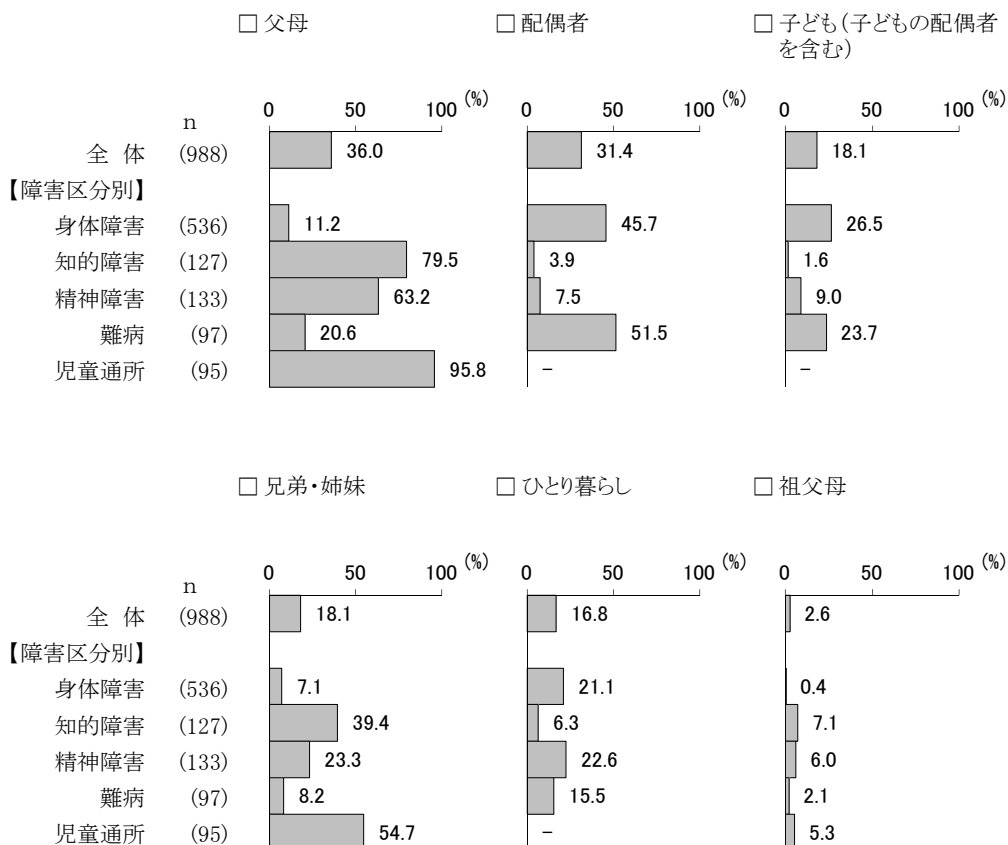
問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)



同居者は、「父母」(36.0%)、「配偶者」(31.4%)が3割台と多く、これに「子ども(子どもの配偶者を含む)」、「兄弟・姉妹」(18.1%)、「ひとり暮らし」(16.8%)が1割台と続いている。

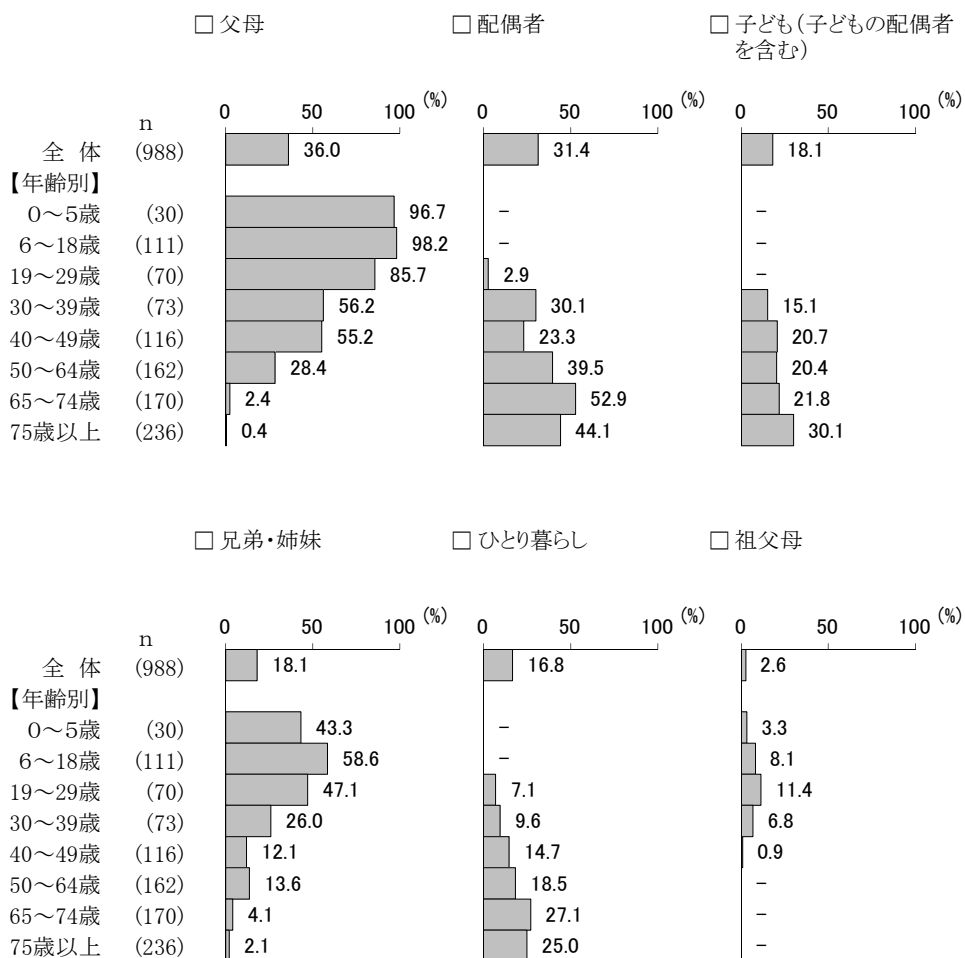
障害区分別にみると、児童通所では「父母」が95.8%を占め、知的障害(79.5%)と精神障害(63.2%)でも多くなっている。この他、児童通所では「兄弟・姉妹」も54.7%と多く、身体障害と難病では「配偶者」が4割から5割台、「子ども(子どもの配偶者を含む)」が2割台となっている。

障害区分別



年齢別にみると、「父母」は0歳から29歳までは8割以上と多く、30歳から49歳の年齢にかけても5割台と多くなっている。「配偶者」は65～74歳を中心とした高齢層で、「兄弟・姉妹」は6～18歳を中心とした若年層で多くなっている。また、「ひとり暮らし」は65歳以上が2割台となっている。

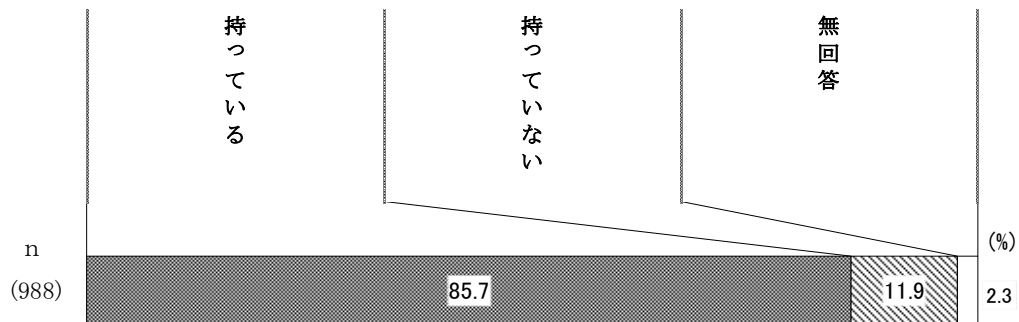
年齢別



3 本人の状況について

(1) 障害者手帳の有無

問5 あなたは、障害者手帳をお持ちですか。(1つに○)



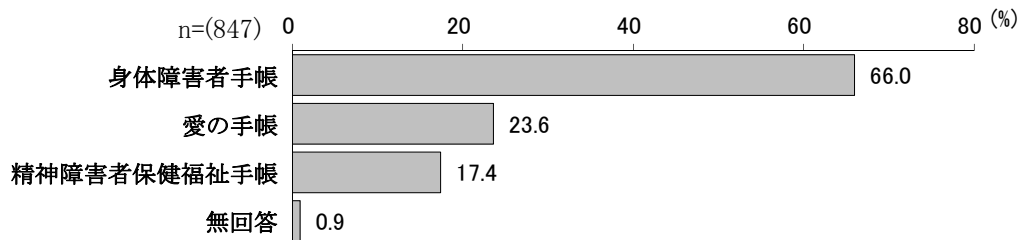
障害者手帳を「持っている」は85.7%、「持っていない」は11.9%となっている。

(2) 手帳の種類と等級

【問5で「持っている」と回答した方にお聞きします。】

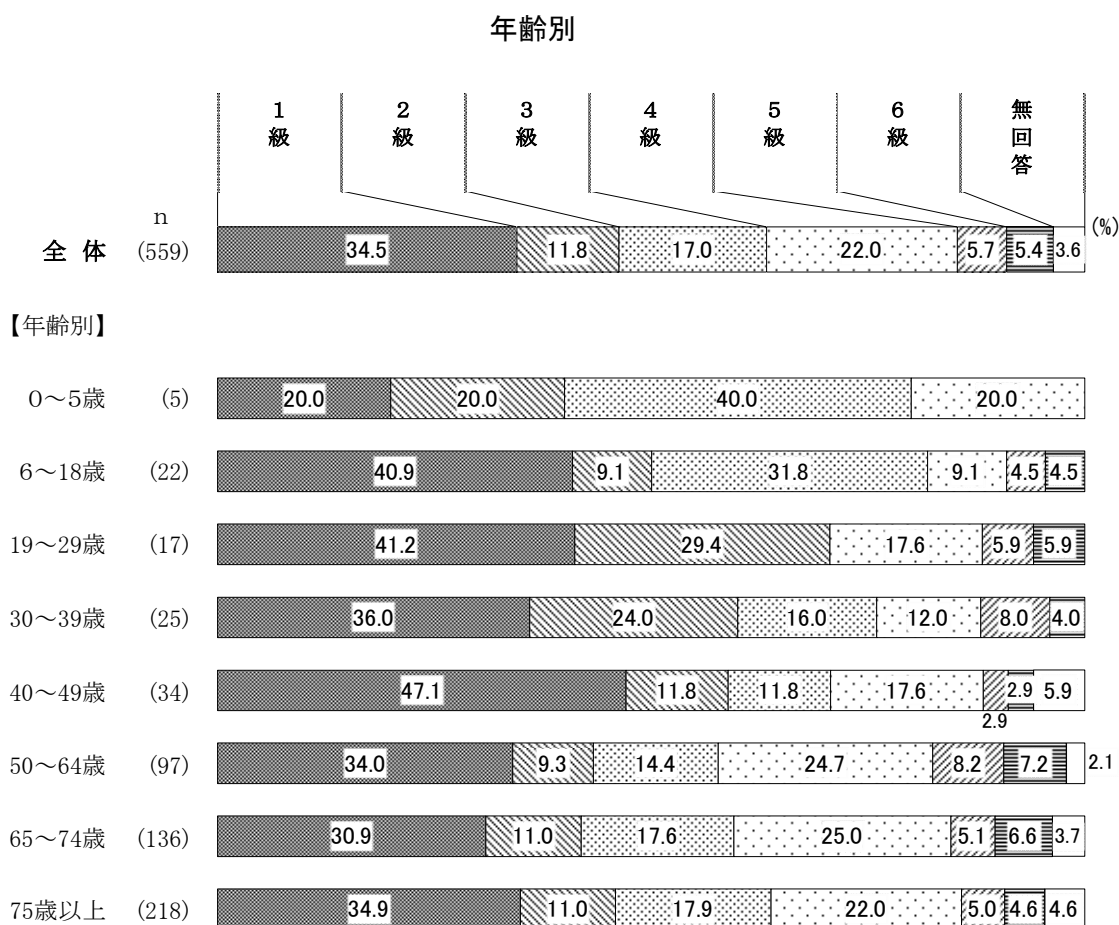
問6 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○をつけて記入)



所持している手帳の種類は、「身体障害者手帳」が66.0%、「愛の手帳」が23.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が17.4%となっている。

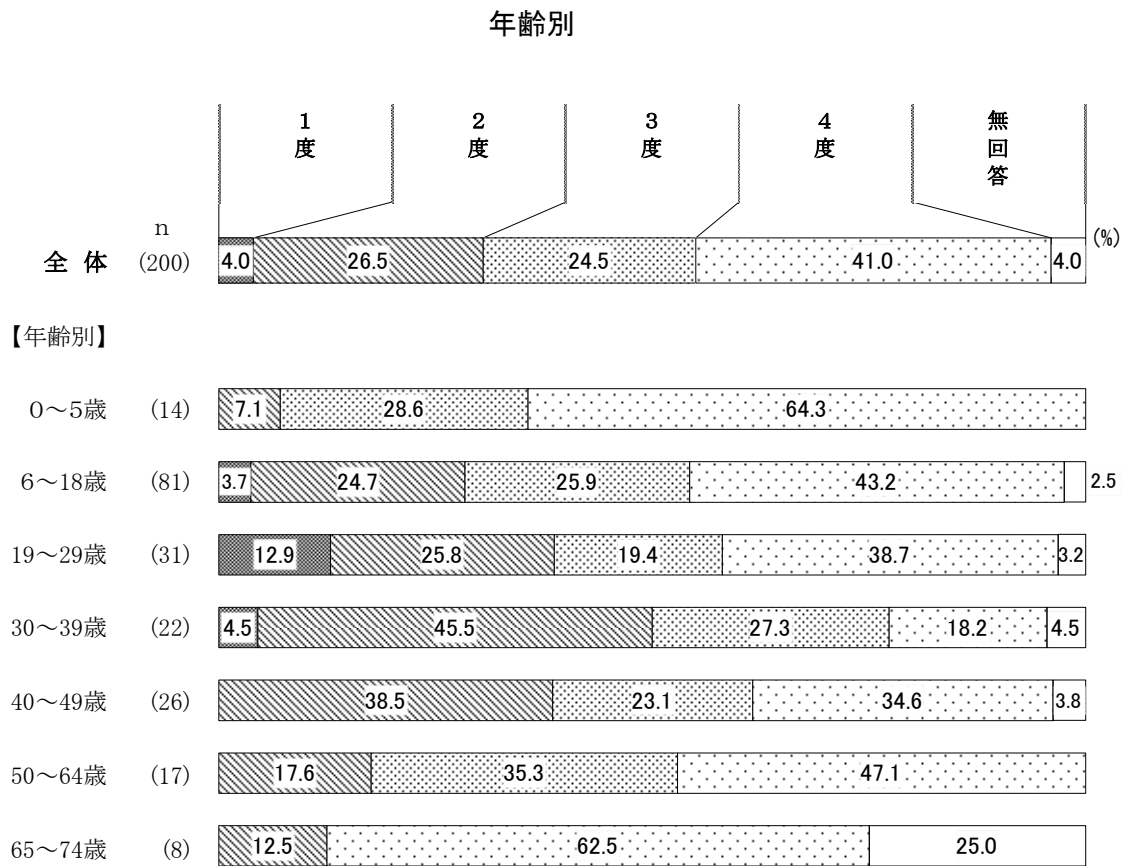
①身体障害者手帳等級



身体障害者手帳の等級は、「1級」が34.5%、「4級」が22.0%、「3級」が17.0%、「2級」が11.8%となっている。

年齢別にみると、19歳から49歳の年齢層では「1級」と「2級」が多くなっている。

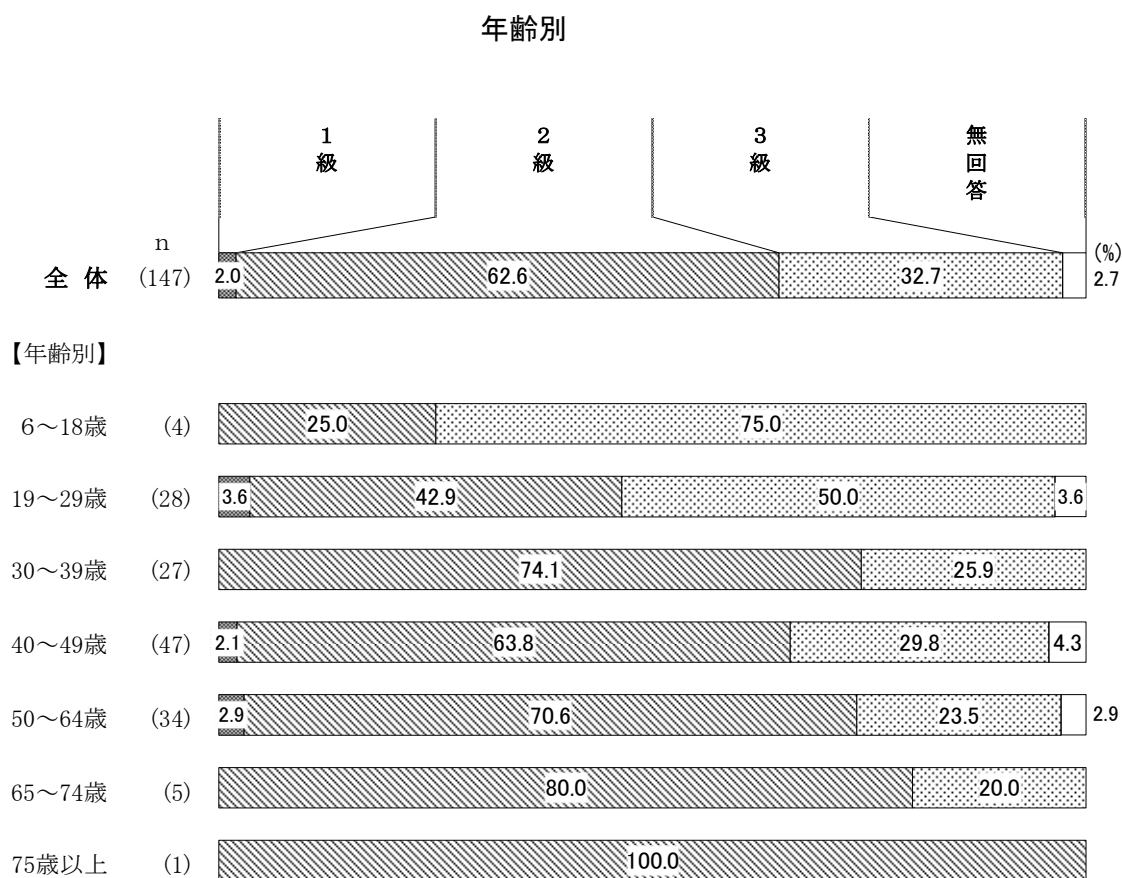
②愛の手帳等級



愛の手帳の等級は、「4度」が41.0%、「2度」が26.5%、「3度」が24.5%となっている。

年齢別にみると、19～29歳では「1度」（最重度）が12.9%と他の年齢よりも多くみられる。また、30～39歳では「2度」が45.5%と多くなっている。

③精神障害者保健福祉手帳等級



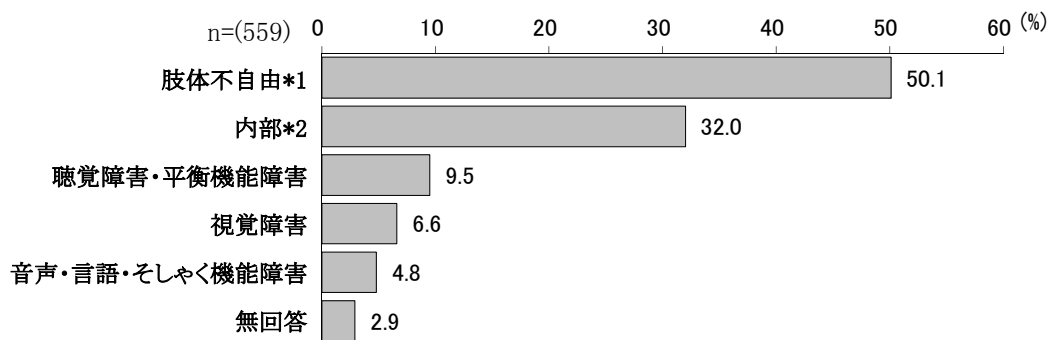
精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が62.6%、「3級」が32.7%となっている。

年齢別にみると、30歳以上の年齢では「2級」が多くを占めている。

(3) 身体障害の種類

【問6で「身体障害者手帳」と回答した方にお聞きします。】

問6-1 障害の種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)



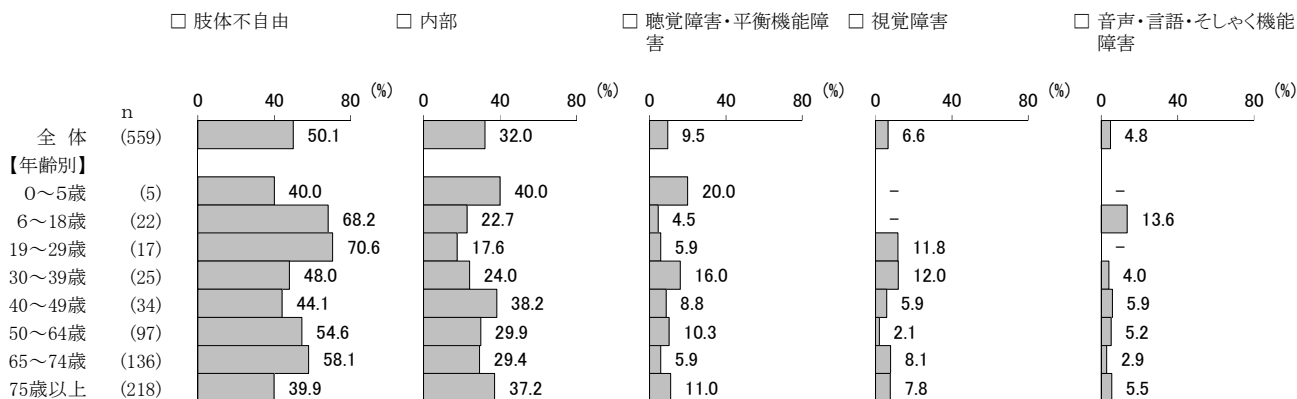
*1 : 上肢・下肢・体幹・乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害

*2 : 心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸機能障害・肝臓機能障害・免疫機能障害

身体障害の種類は、「肢体不自由」が50.1%と最も多く、これに「内部」が32.0%と続いている。

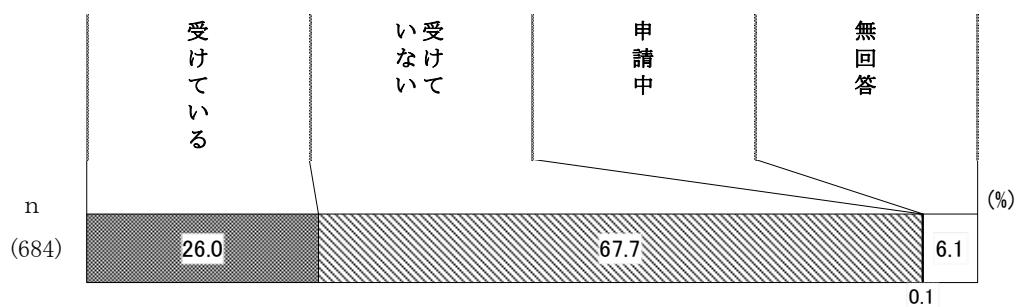
年齢別にみると、「肢体不自由」は6歳から29歳と50歳から74歳の年齢層で、「内部」は40歳以上の年齢で多くなっている。

年齢別



(4) 介護保険の認定状況 (40歳以上の方のみ)

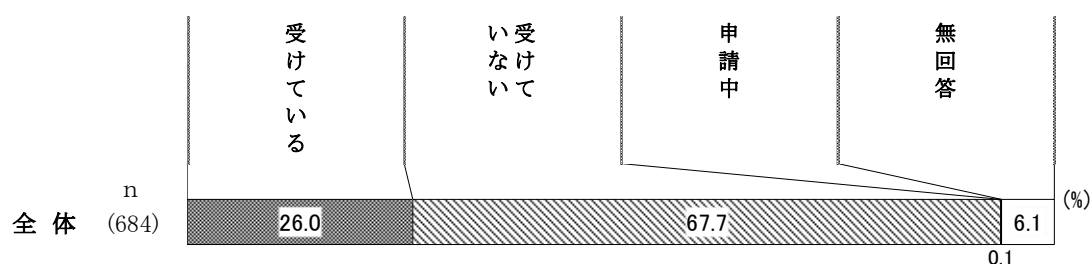
問7 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)



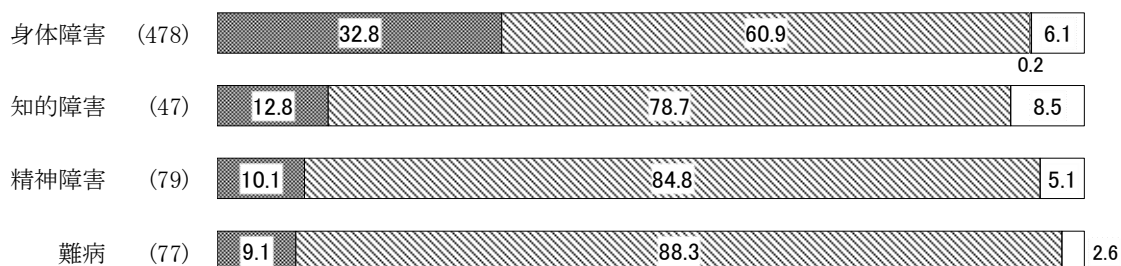
現在、介護保険の認定を「受けている」は26.0%、「受けていない」は67.7%となっている。

障害区別にみると、「受けている」は身体障害が32.8%、知的障害、精神障害、難病は1割前後となっている。

障害区分別

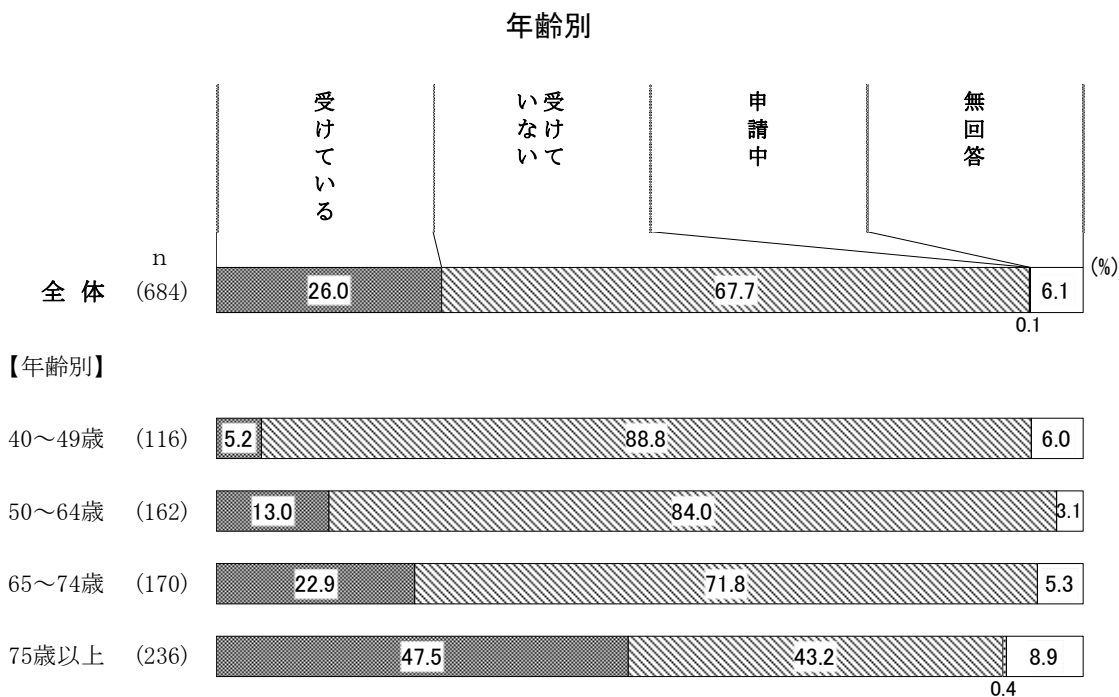


【障害区分別】



第2章 調査結果の詳細

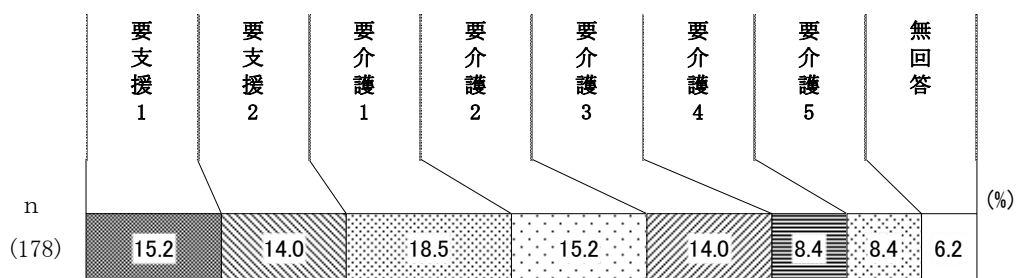
年齢別にみると、「受けている」は75歳以上が47.5%、65～74歳が22.9%となっている。



(5) 要支援・要介護度 (40歳以上の方のみ)

【問7で、「受けている」と回答した方にお聞きします。】

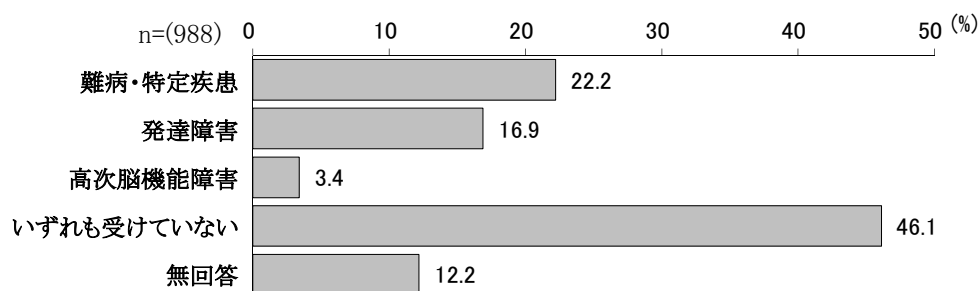
問7-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)



認定内容は幅広く分布しており、「要介護1」(18.5%)を中心に要支援1と2、要介護2と3が15%前後となっている。

(6) 発達障害や難病等の診断状況

問8 あなたは現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

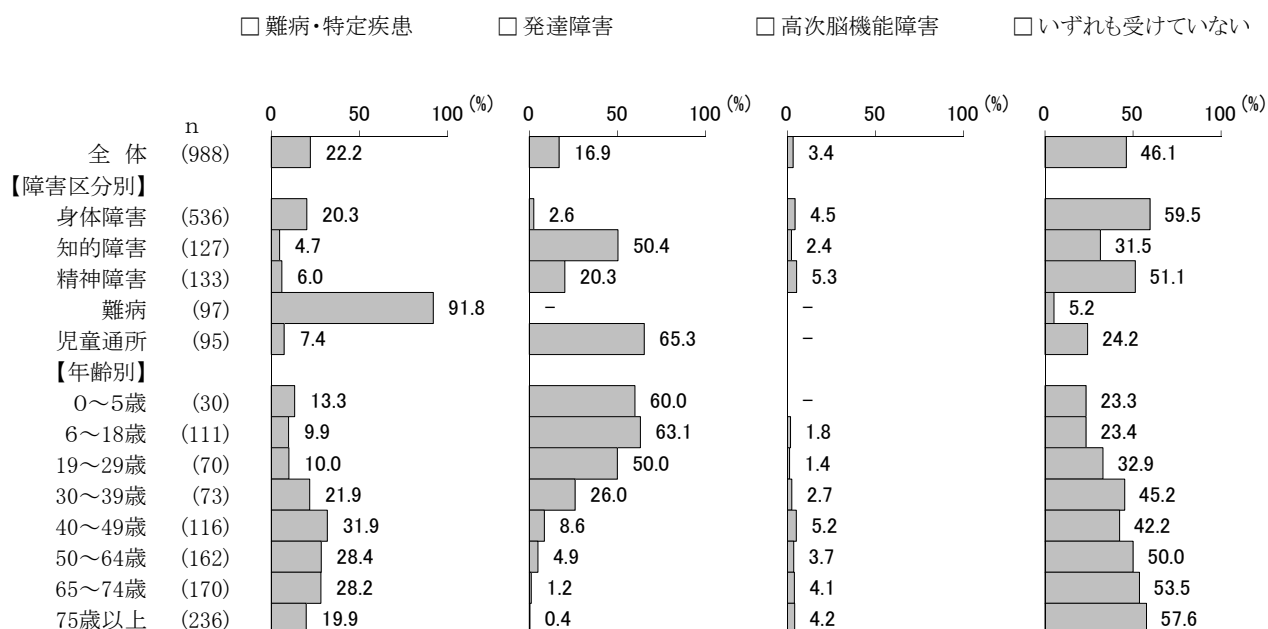


障害や疾患の診断状況は、「難病・特定疾患」が22.2%、「発達障害」が16.9%、「高次脳機能障害」が3.4%となっている。また、「いずれも受けていない」は46.1%となっている。

障害区分別にみると、「発達障害」は児童通所が65.3%、知的障害が50.4%、「難病・特定疾患」は難病が91.8%と多くなっている。

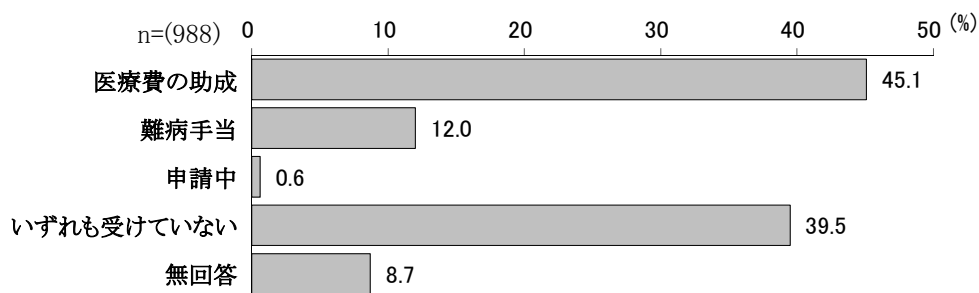
年齢別にみると、「発達障害」は0歳から29歳が5割以上と多く、「難病・特定疾患」は40歳から74歳の年齢にかけて3割前後となっている。

障害区分別、年齢別



(7) 医療費の助成状況

問9 あなたは、以下の医療費の助成などを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)
 ※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、マル都（難病、人工透析、肝炎など）、
 小児慢性疾患医療費助成制度が含まれます。

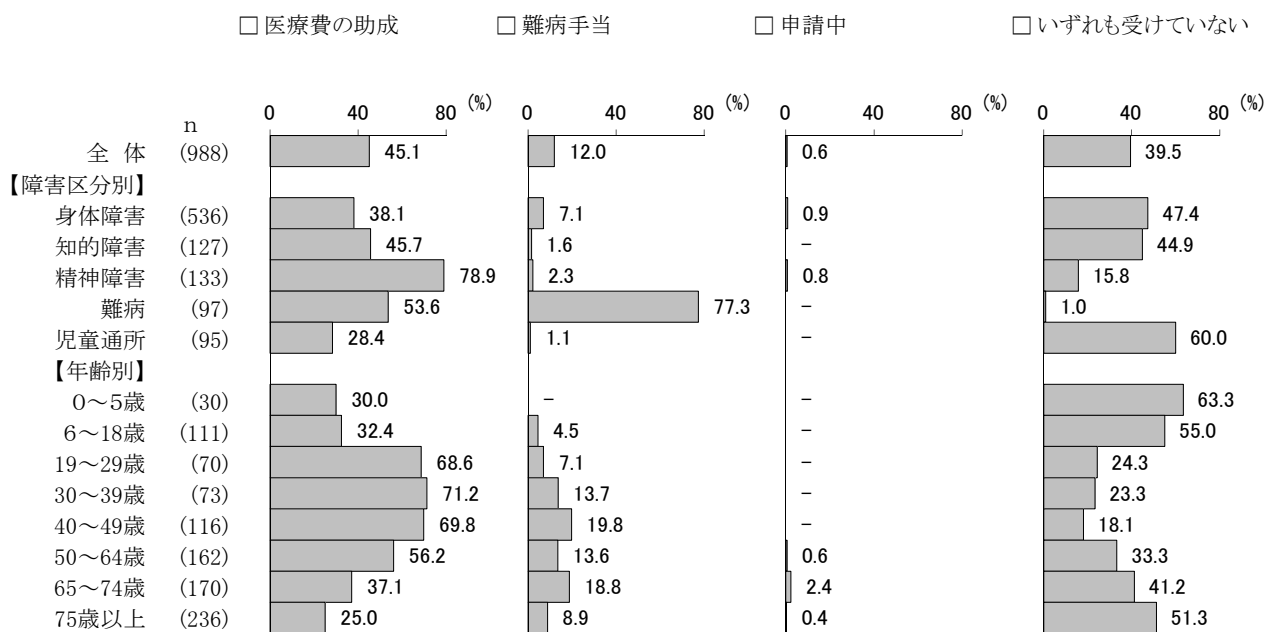


医療費の助成状況は、「医療費の助成」が45.1%と最も多く、「難病手当」は12.0%となっている。また、「いずれも受けていない」は39.5%となっている。

障害区別にみると、「医療費の助成」は精神障害が78.9%、難病が53.6%、知的障害が45.7%となっている。「難病手当」は難病が77.3%となっている。

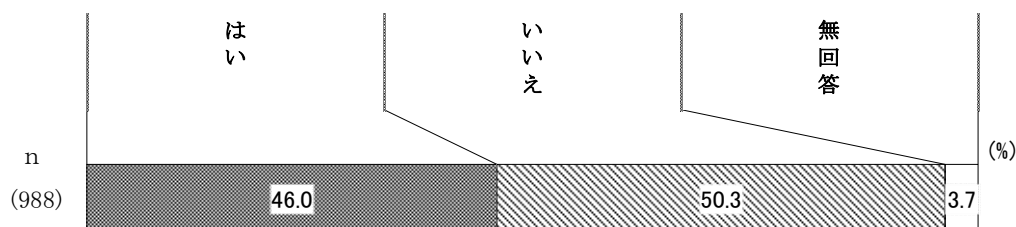
年齢別にみると、「医療費の助成」は19歳から64歳の年齢にかけて5割以上と多くなっている。「いずれも受けていない」は、0歳から18歳、75歳以上が5割以上となっている。

障害区分別、年齢別



(8) 普段の生活の中で介助や支援の必要性

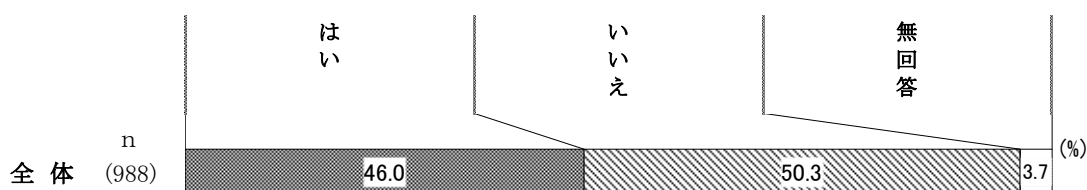
問10 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)



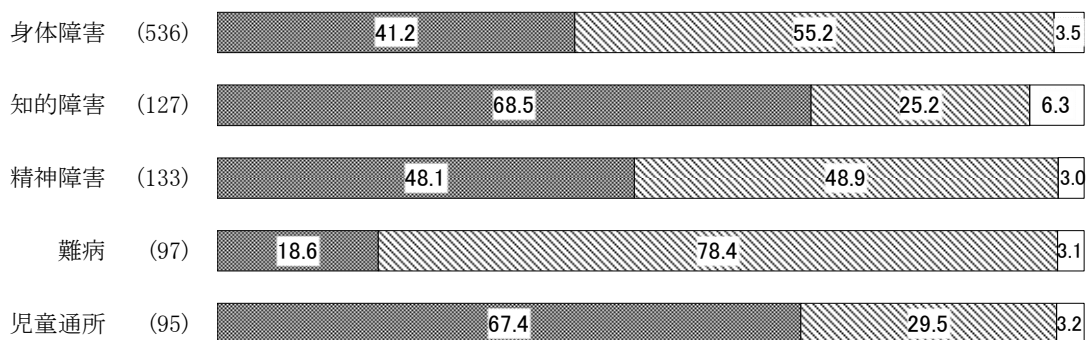
普段の生活の中で、何らかの介助や支援が「必要」(はい)は46.0%、「不要」(いいえ)は50.3%となっている。

障害区分別にみると、「必要」(はい)は知的障害(68.5%)と児童通所(67.4%)が6割以上となっている。

障害区分別

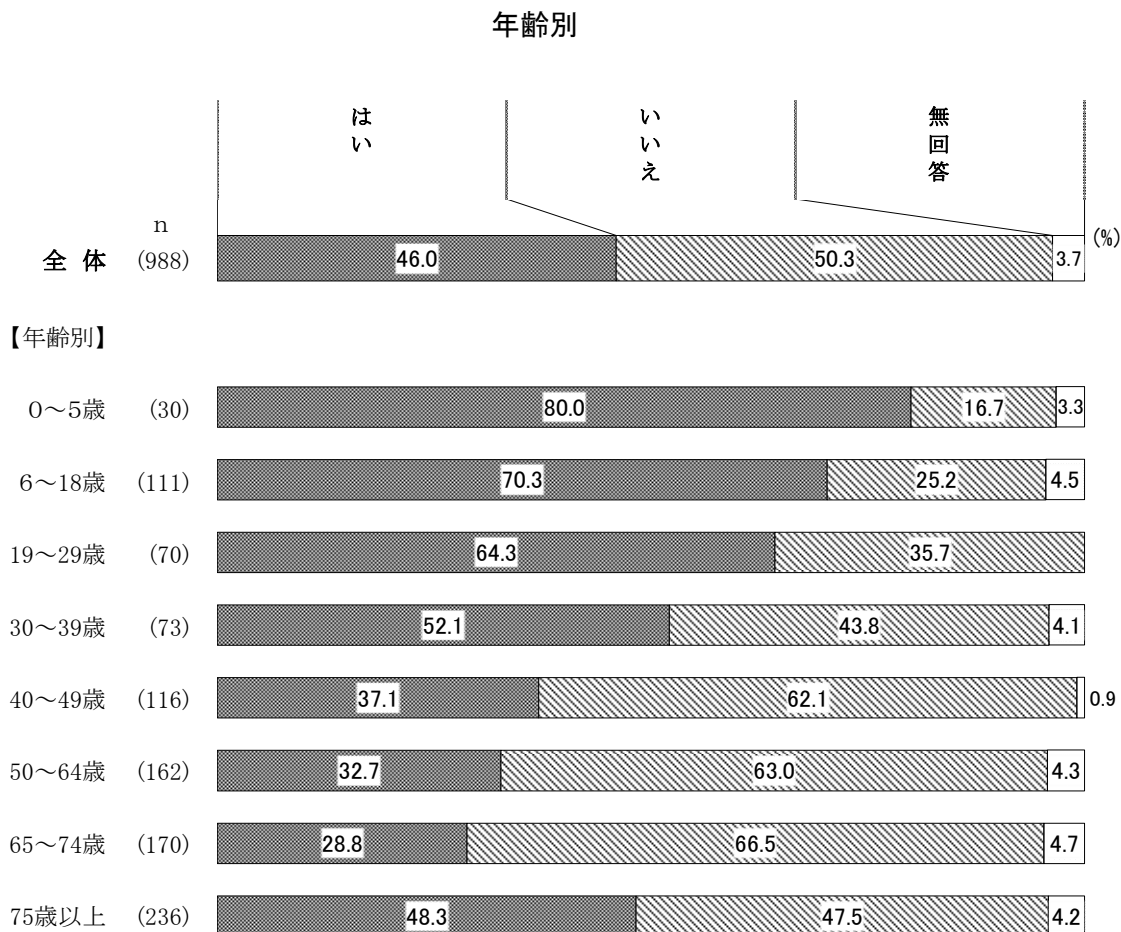


【障害区分別】



第2章 調査結果の詳細

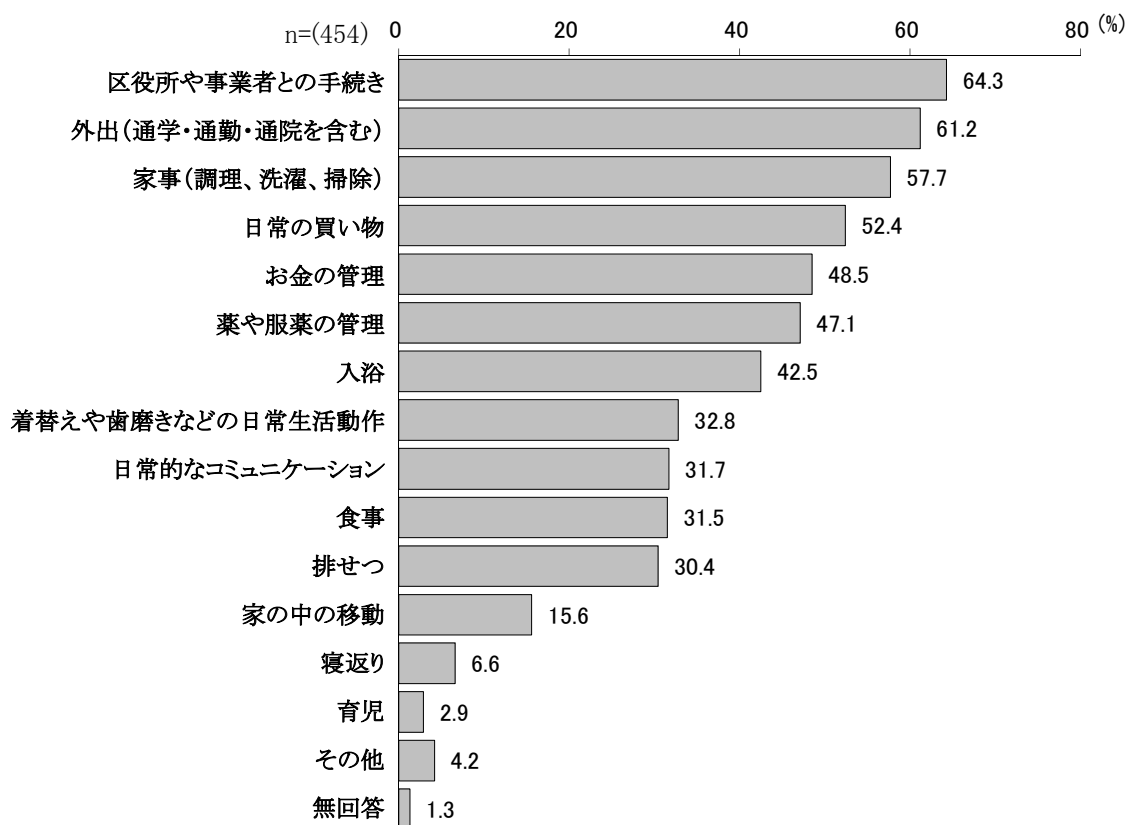
年齢別にみると、「必要」(はい)は0～5歳の80.0%を中心に、年齢が高くなるほど減少しており、0歳から39歳までは5割以上を占める。40歳以上の年齢からは4割を下回るが、75歳以上では48.3%となっている。



(9) 介助や支援が必要な場面

【問10で「はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 どのような場面で介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

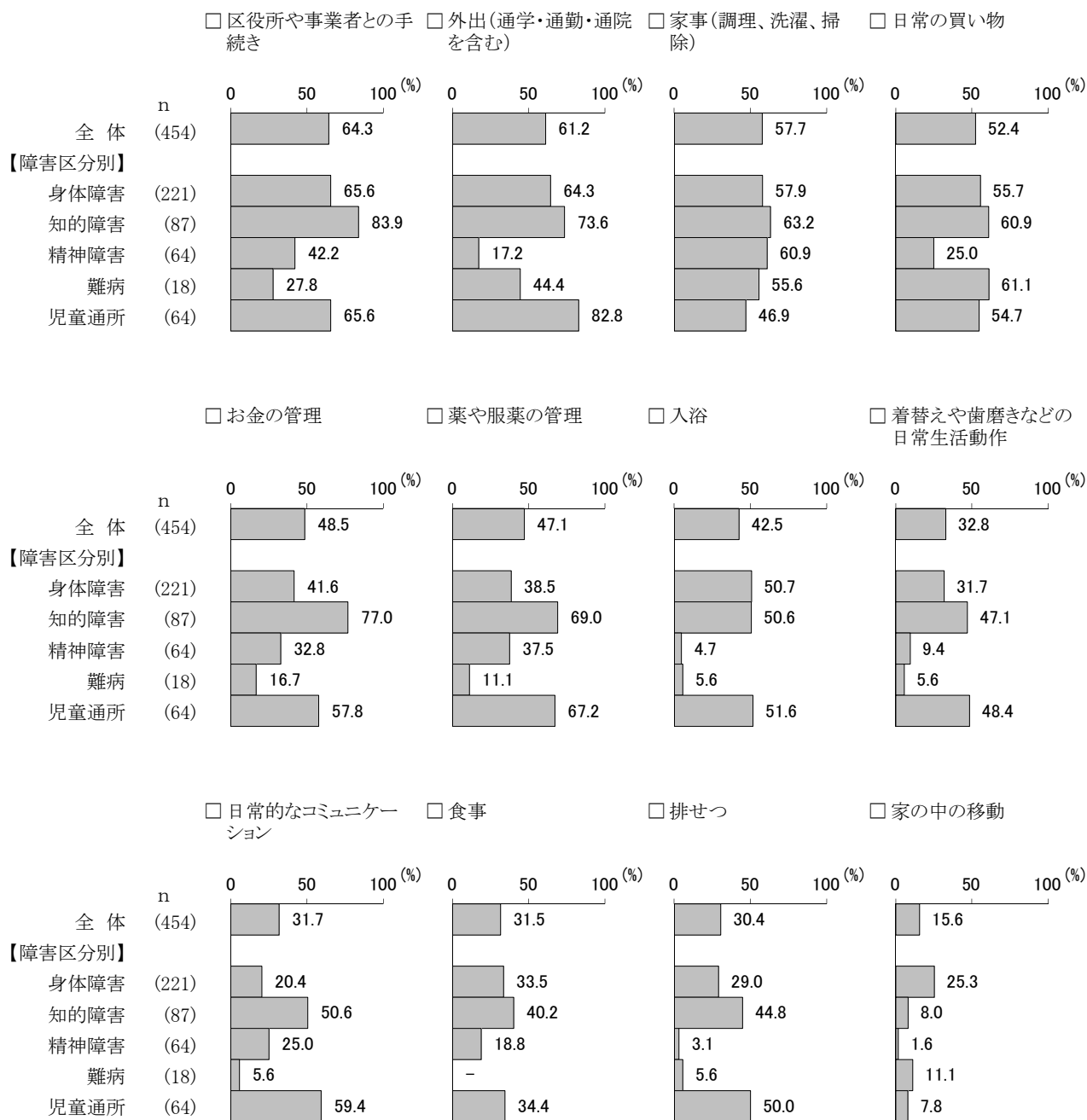


介助や支援が必要になる場面は、「区役所や事業者との手続き」(64.3%)、「外出(通学・通勤・通院を含む)」(61.2%)が6割台と多くなっている。以下、「家事(調理、洗濯、掃除)」(57.7%)、「日常の買い物」(52.4%)が5割台、「お金の管理」(48.5%)、「薬や服薬の管理」(47.1%)、「入浴」(42.5%)が4割台と続いている。

第2章 調査結果の詳細

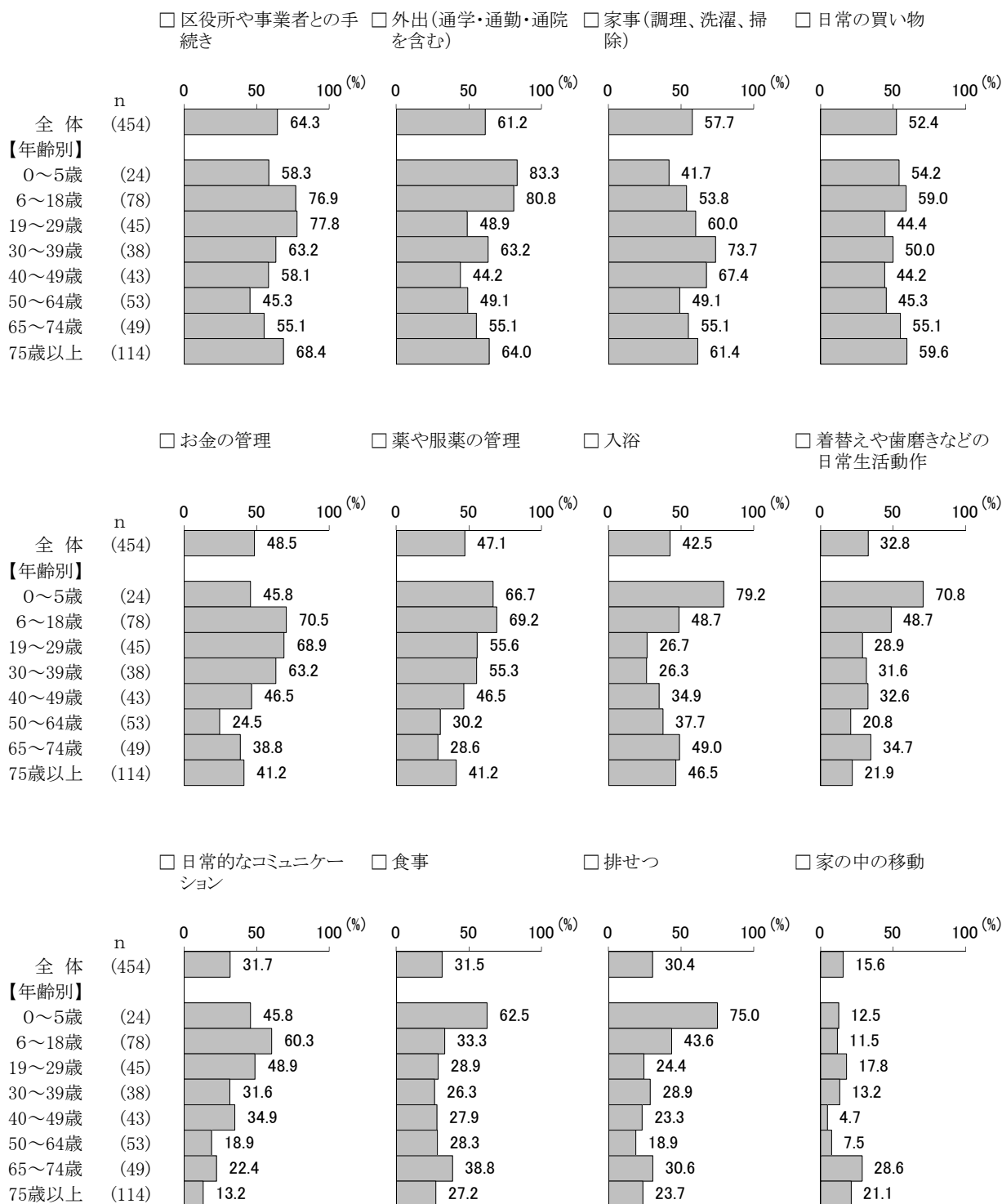
障害区分別にみると、「家事（調理、洗濯、掃除）」は身体障害、知的障害、精神障害、難病が5割以上、児童通所でも46.9%と区分に関わらず共通した項目となっている。「区役所や事業者との手続き」は知的障害が8割を超え、「外出（通学・通勤・通院を含む）」は知的障害が7割、児童通所では8割を超える。知的障害と児童通所ではこの他、「日常の買い物」、「お金の管理」、「薬や服薬の管理」、「入浴」、「着替えや歯磨きなどの日常生活動作」、「日常的なコミュニケーション」、「食事」、「排せつ」など、多くの場面で介助や支援が必要とされている。また、身体障害では「外出」と「家の中の移動」、精神障害では「区役所や事業者との手続き」、「お金の管理」、「薬や服薬の管理」、難病では「日常の買い物」が多くなっている。

障害区分別（上位12項目）



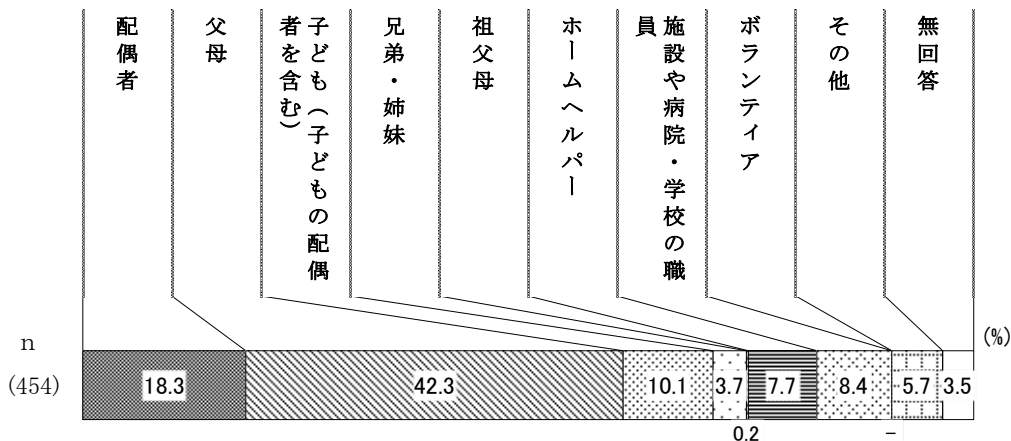
年齢別にみると、「区役所や事業者との手続き」、「外出（通学・通勤・通院を含む）」、「お金の管理」、「薬や服薬の管理」、「日常的なコミュニケーション」は幼少期に多く、中高年にかけて減少するが、40～49歳でも「日常的なコミュニケーション」を除き4割以上となっている。「入浴」、「着替えや歯磨きなどの日常生活動作」、「食事」、「排せつ」は幼児期を過ぎると大幅に減少するが、各年齢で2割から3割と一定層で介助や支援を必要としている。一方、「家事（調理、洗濯、掃除）」はむしろ30歳から49歳の年齢にかけて多くなっている。

年齢別（上位12項目）



(10) 主な介助者、支援者

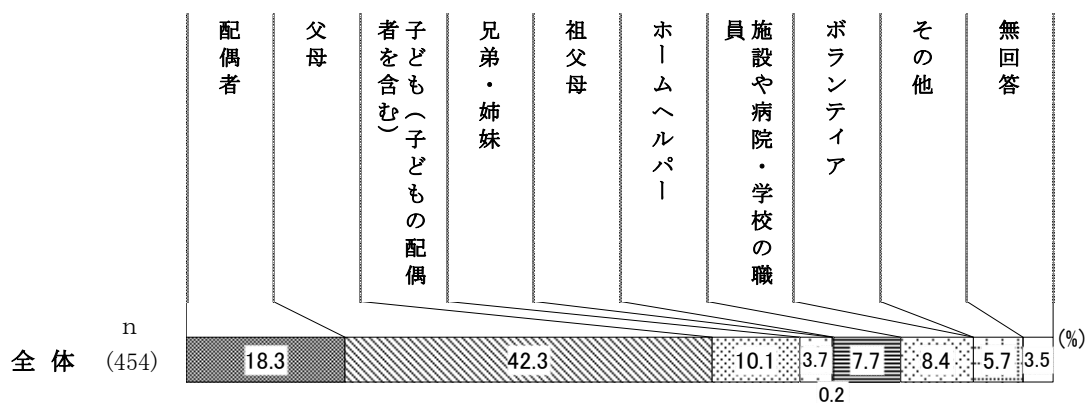
【問10で「はい」と回答した方にお聞きします。】
 問10-2 介助や支援をしている方は、主にどなたですか。(主なもの1つに○)



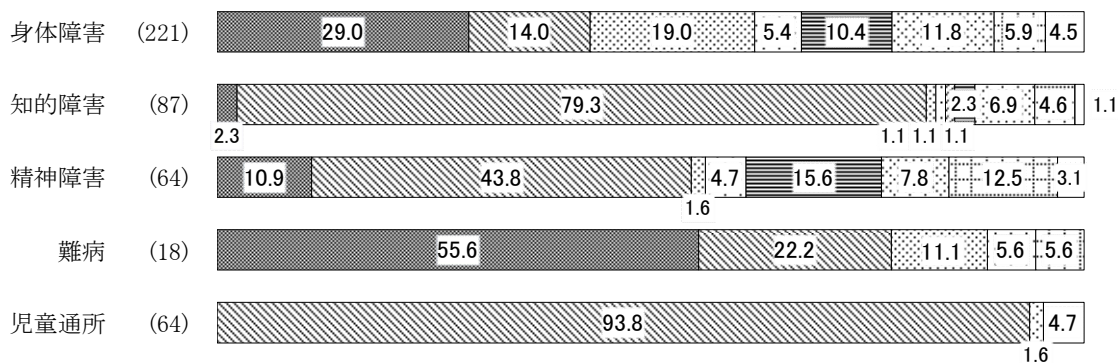
主な介助者、支援者は、「父母」が42.3%、「配偶者」が18.3%、「子ども(子どもの配偶者を含む)」が10.1%となっている。

障害区別にみると、「父母」は児童通所が93.8%、知的障害が79.3%と他の障害区分より多く、精神障害でも43.8%となっている。「配偶者」は難病が55.6%、身体障害が29.0%、「ホームヘルパー」は精神障害が15.6%となっている。

障害区分別



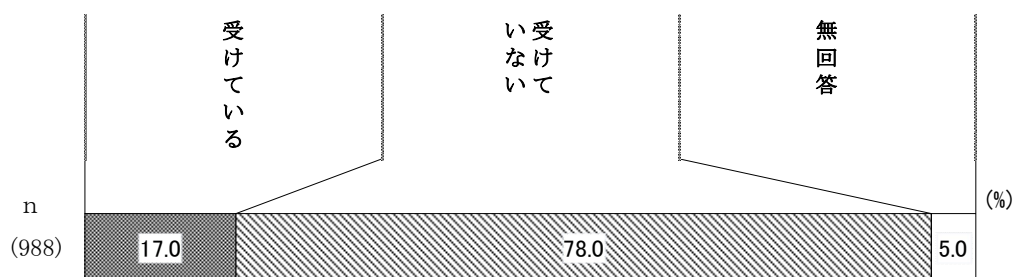
【障害区分別】



4 保健・医療について

(1) 日常的な医療的ケアの状況

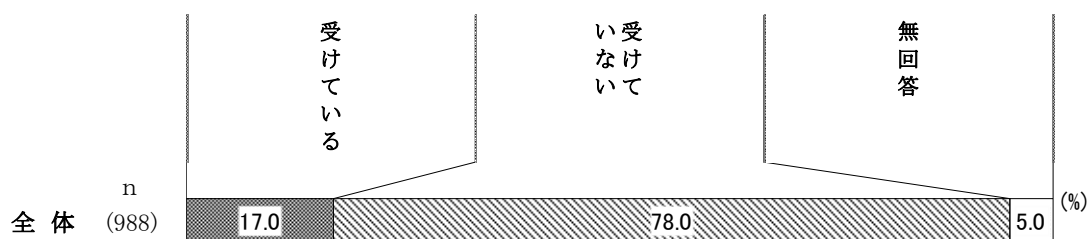
問11 あなたは現在、日常的に医療的ケアを受けていますか。(1つに○)



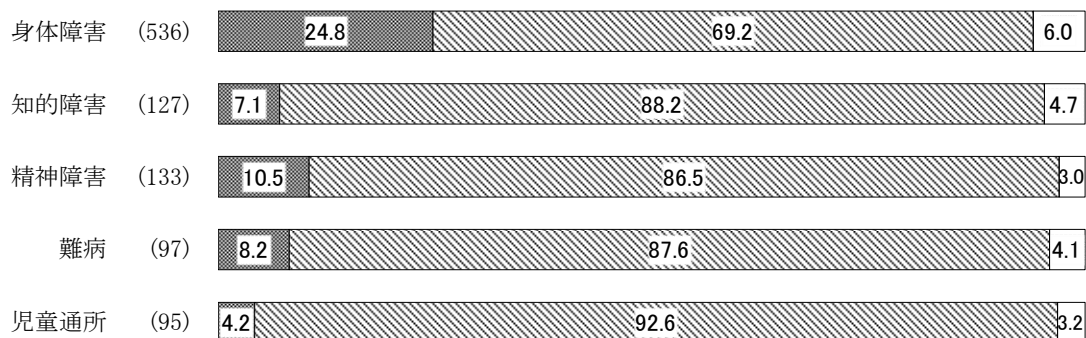
現在の日常的な医療的ケアの状況は、「受けている」が17.0%、「受けていない」が78.0%となっている。

障害区別にみると、「受けている」は身体障害が24.8%と他の障害区分より多くなっている。「受けていない」は知的障害、精神障害、難病、児童通所が8割以上となっている。

障害区分別



【障害区分別】

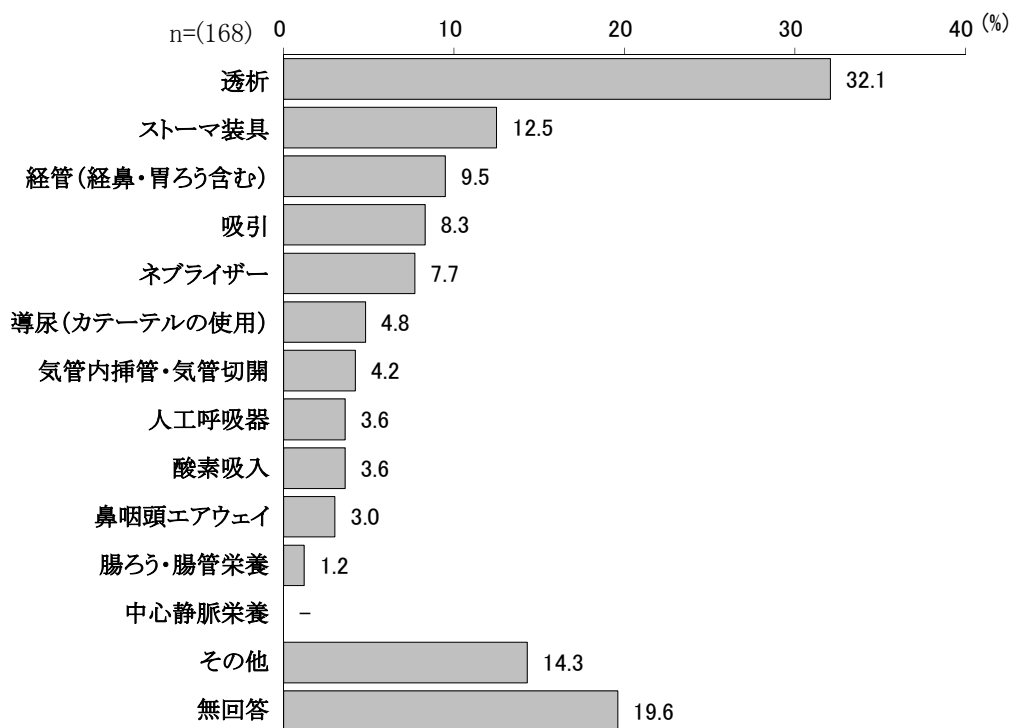


(2) 受けている医療的ケアの種類

【問11で「受けている」と回答した方にお聞きします。】

問11-1 あなたが現在受けている医療的ケアの種類は次のどれですか。

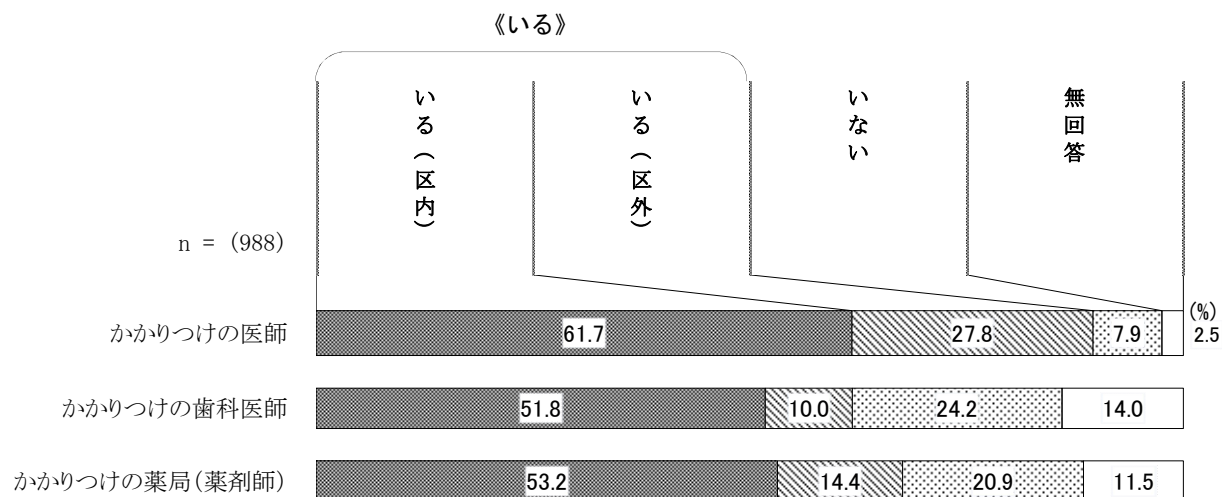
(あてはまるものすべてに○)



現在受けている医療的ケアの種類は、「透析」が32.1%と多く、以下、「ストーマ装具」が12.5%、「経管（経鼻・胃ろう含む）」が9.5%、「吸引」が8.3%、「ネブライザー」が7.7%となっている。

(3) かかりつけ医師等の有無

問12 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれたりするかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。（それぞれ1つに○）



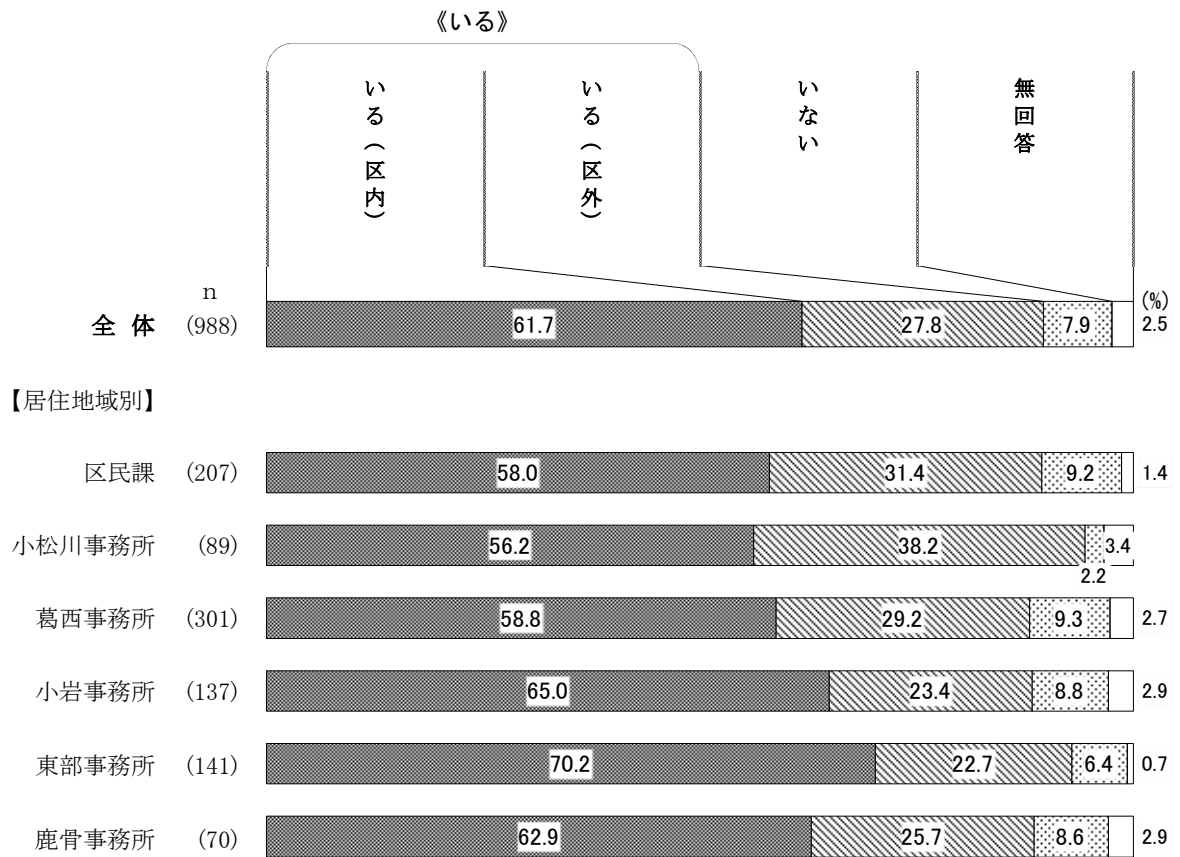
かかりつけ医師等の有無では、かかりつけの「医師」、「歯科医師」、「薬局（薬剤師）」はいずれも区内に「いる」が5割以上となっており、特に「医師」は61.7%と多い。区内・区外をあわせた《いる》で見ると、いずれも6割以上となっており、特に「医師」は89.5%を占めている。

一方、「いない」は「歯科医師」が24.2%、「薬局（薬剤師）」が20.9%となっている。

第2章 調査結果の詳細

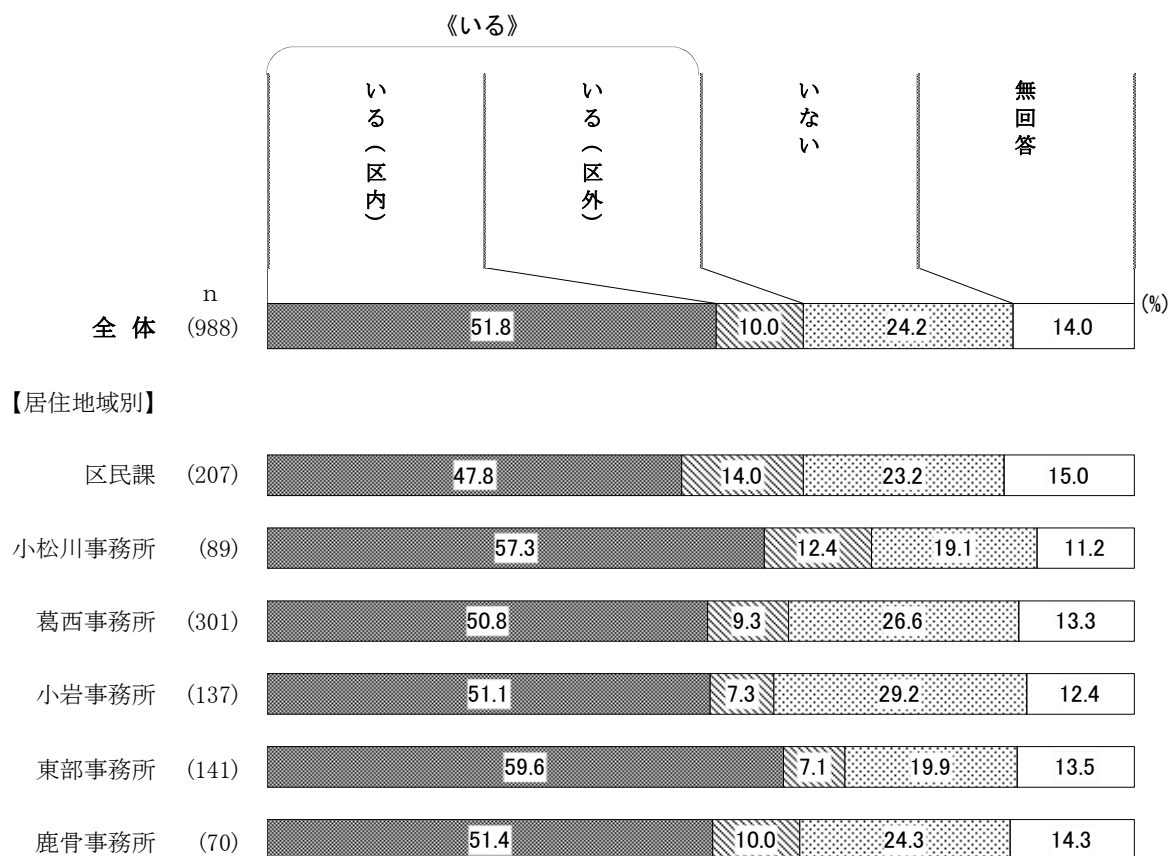
居住地域別にかかりつけの医師をみると、「いる（区内）」は東部事務所が70.2%と多く、区内・区外をあわせた《いる》は小松川事務所（94.4%）、東部事務所（92.9%）が9割台となっている。

居住地域別<かかりつけの医師>



居住地域別にかかりつけの歯科医師をみると、「いる（区内）」は東部事務所（59.6%）、小松川事務所（57.3%）が5割台と多く、区内・区外をあわせた《いる》は小松川事務所（69.7%）が約7割となっている。

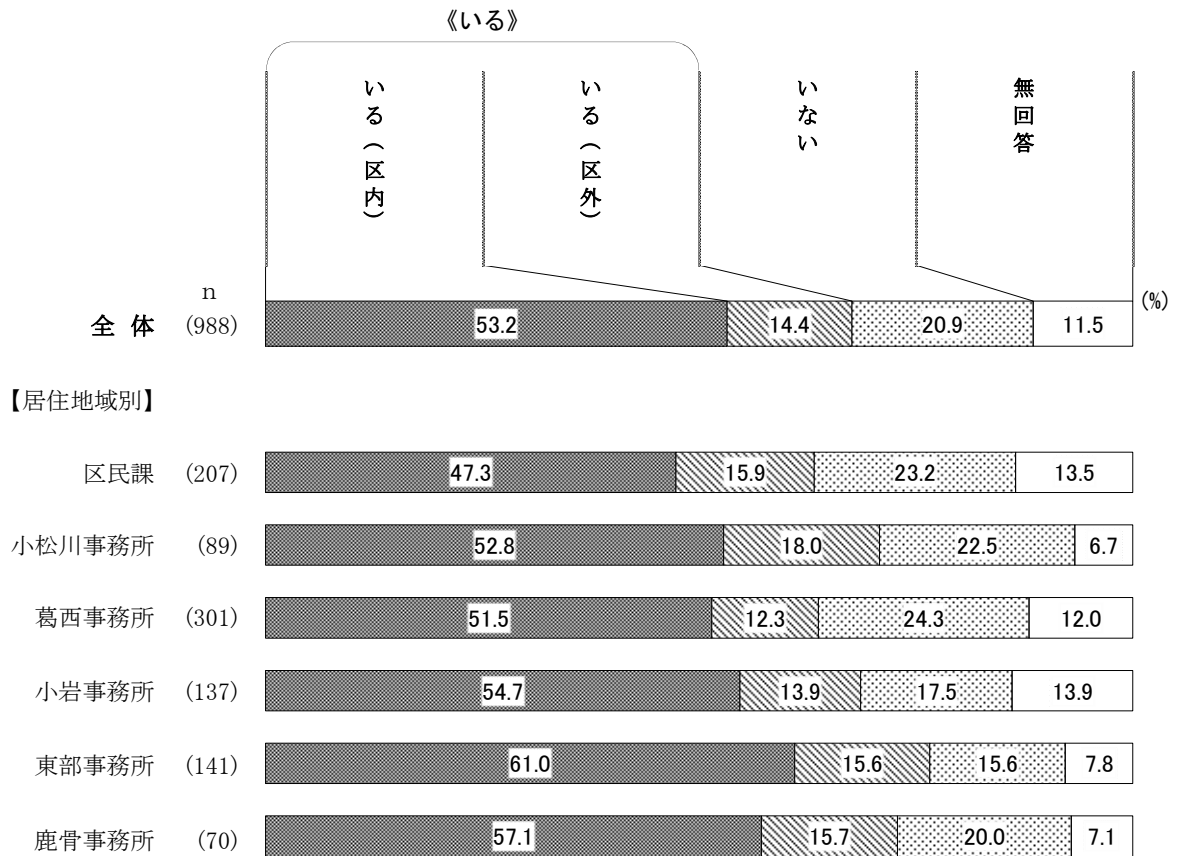
居住地域別<かかりつけの歯科医師>



第2章 調査結果の詳細

居住地域別にかかりつけの薬局（薬剤師）をみると、「いる（区内）」は東部事務所が61.0%と多く、区内・区外をあわせた《いる》は東部事務所（76.6%）、鹿骨事務所（72.8%）、小松川事務所（70.8%）が7割台となっている。

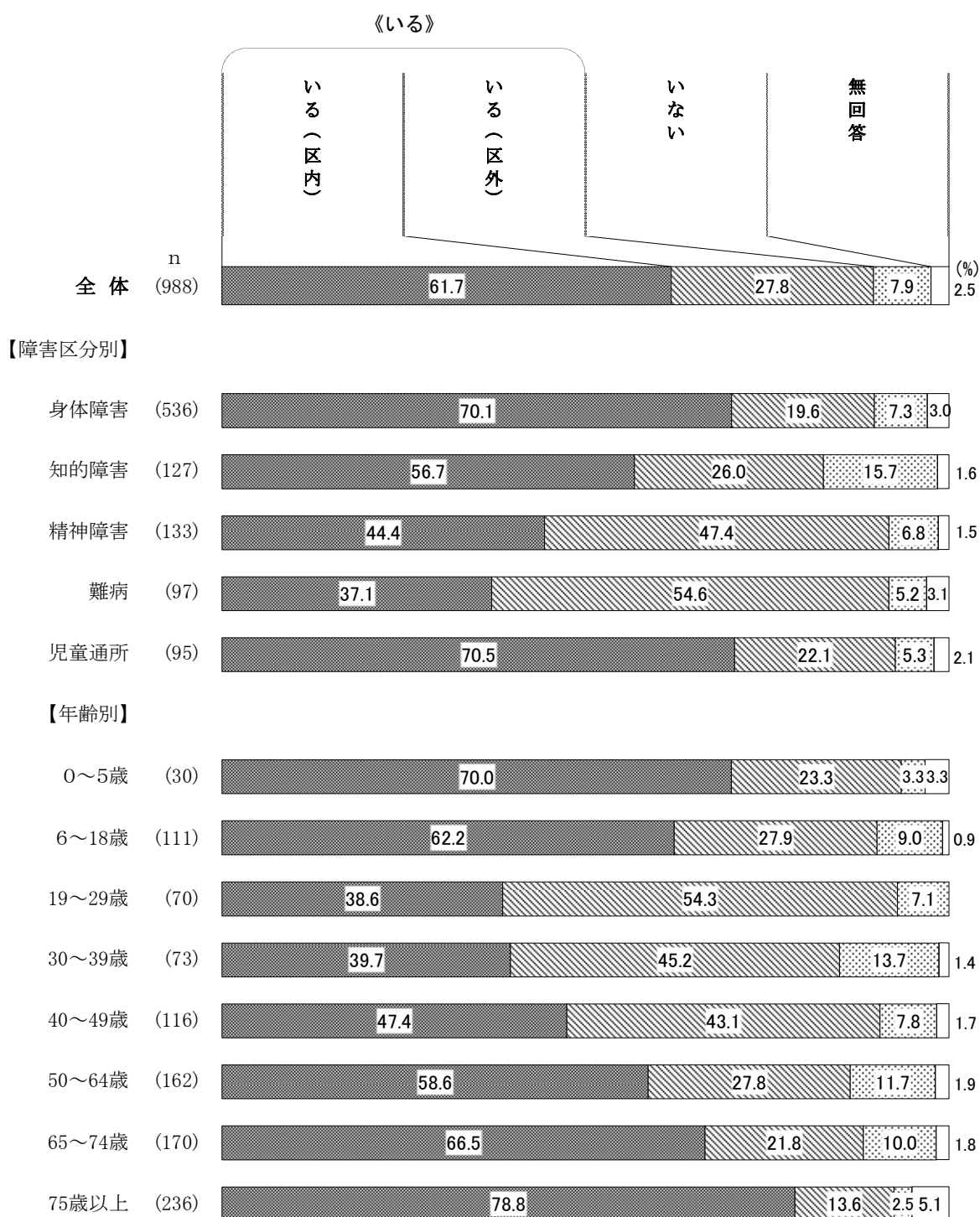
居住地域別<かかりつけの薬局（薬剤師）>



障害区分別にかかりつけの医師をみると、区内に「いる」は身体障害と児童通所が7割台と多くなっている。区内・区外をあわせた《いる》では、いずれも8割以上となっている。

年齢別にみると、区内に「いる」は0～5歳と75歳以上が7割台、6～18歳と65～74歳が6割台となっている。《いる》では、いずれも8割以上となっている。

障害区分別、年齢別<かかりつけの医師>

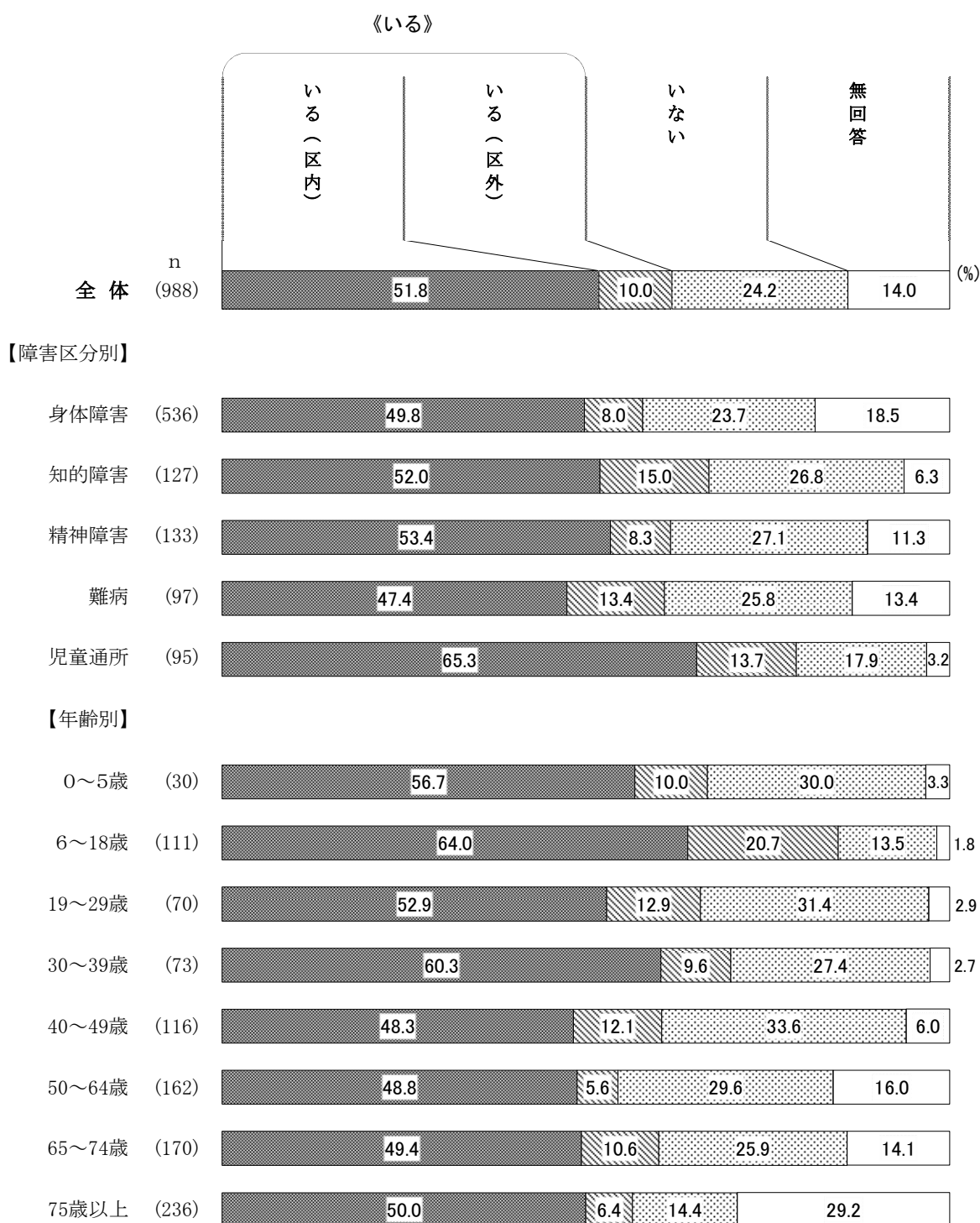


第2章 調査結果の詳細

障害区分別にかかりつけの歯科医師をみると、区内・区外をあわせた《いる》は、いずれも5割以上となっており、特に児童通所では79.0%と多くなっている。

年齢別にみると、《いる》は、いずれの年齢でも5割以上となっており、特に6～18歳では84.7%と多くなっている。一方、「いない」は0～5歳、19歳から64歳の年齢にかけて3割前後となっている。

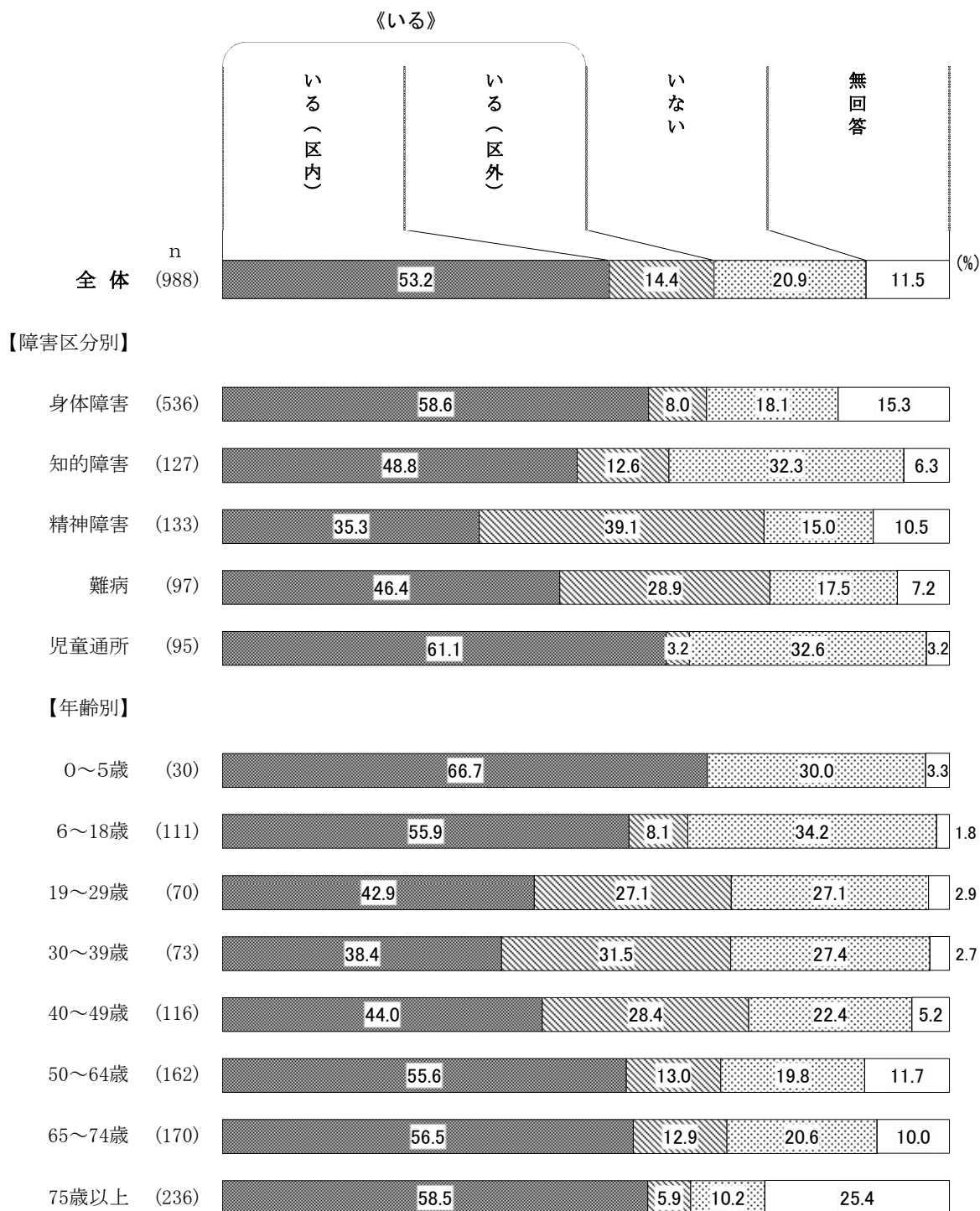
障害区分別、年齢別<かかりつけの歯科医師>



障害区分別にかかりつけの薬局（薬剤師）をみると、区内・区外をあわせた《いる》は、いずれも6割以上となっている。精神障害では区内に「いる」は35.3%と他の障害区分より少ないが、区外に「いる」が39.1%と多くなっている。

年齢別にみると、《いる》は、いずれも6割以上となっており、0～5歳では区内に「いる」が66.7%と多くなっている。一方、「いない」は0歳から39歳の年齢にかけて3割前後となっている。

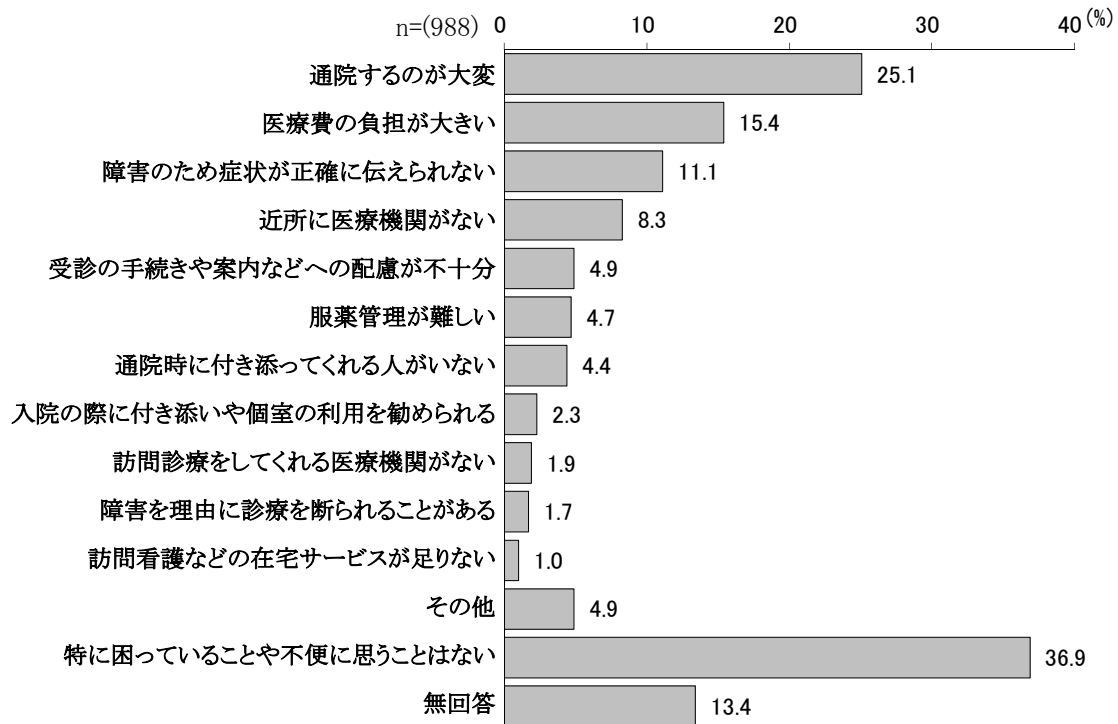
障害区分別、年齢別にかかりつけの薬局（薬剤師）>



(4) 健康管理や医療における困り事や不便に思うこと

問13 健康管理や医療について、困ったり不便に思ったりすることはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

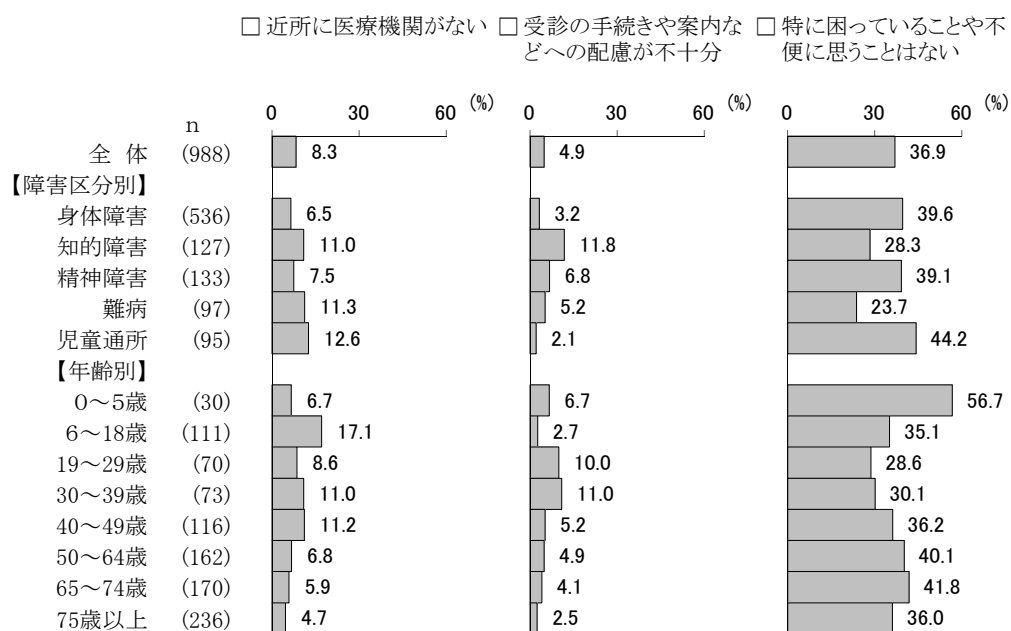
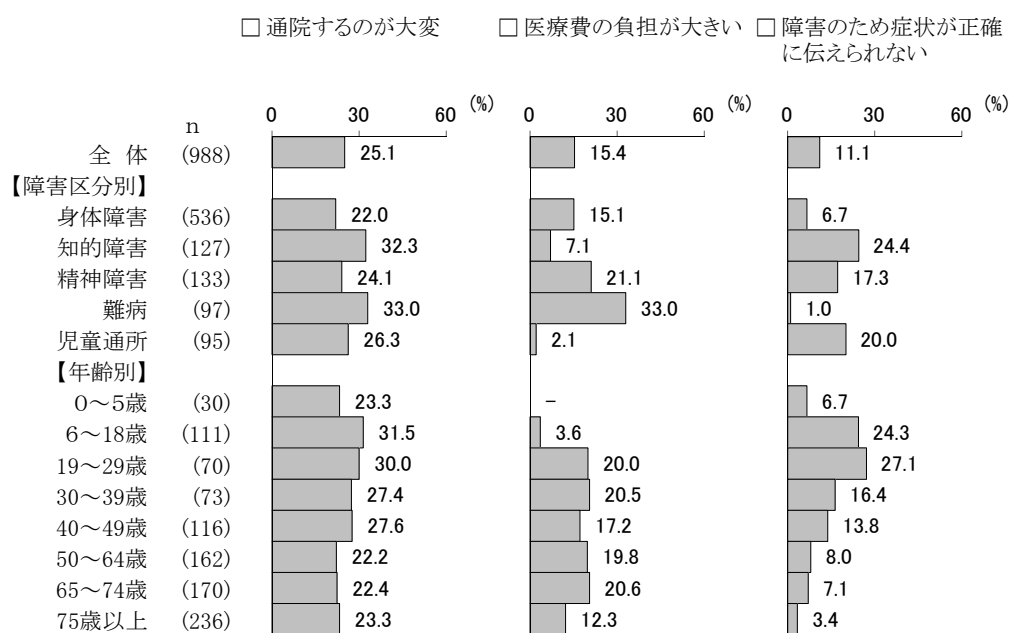


健康管理や医療で困ったり不便に思ったりすることは、「通院するのが大変」が25.1%と多く、以下、「医療費の負担が大きい」が15.4%、「障害のため症状が正確に伝えられない」が11.1%と続いている。なお、「特に困っていることや不便に思うことはない」は36.9%となっている。

障害区分別にみると、難病では「医療費の負担が大きい」が33.0%と他の障害区分より多くなっている。「通院するのが大変」はいずれの障害区分でも2割から3割台、「障害のため症状が正確に伝えられない」は知的障害と児童通所が2割台となっている。

年齢別にみると、「通院するのが大変」はいずれの年齢でも2割から3割台となっている。「医療費の負担が大きい」は19歳から74歳の年齢にかけて概ね2割前後となっている。「障害のため症状が正確に伝えられない」は6歳から29歳が2割台となっており、年齢が高くなるほど少なくなっている。

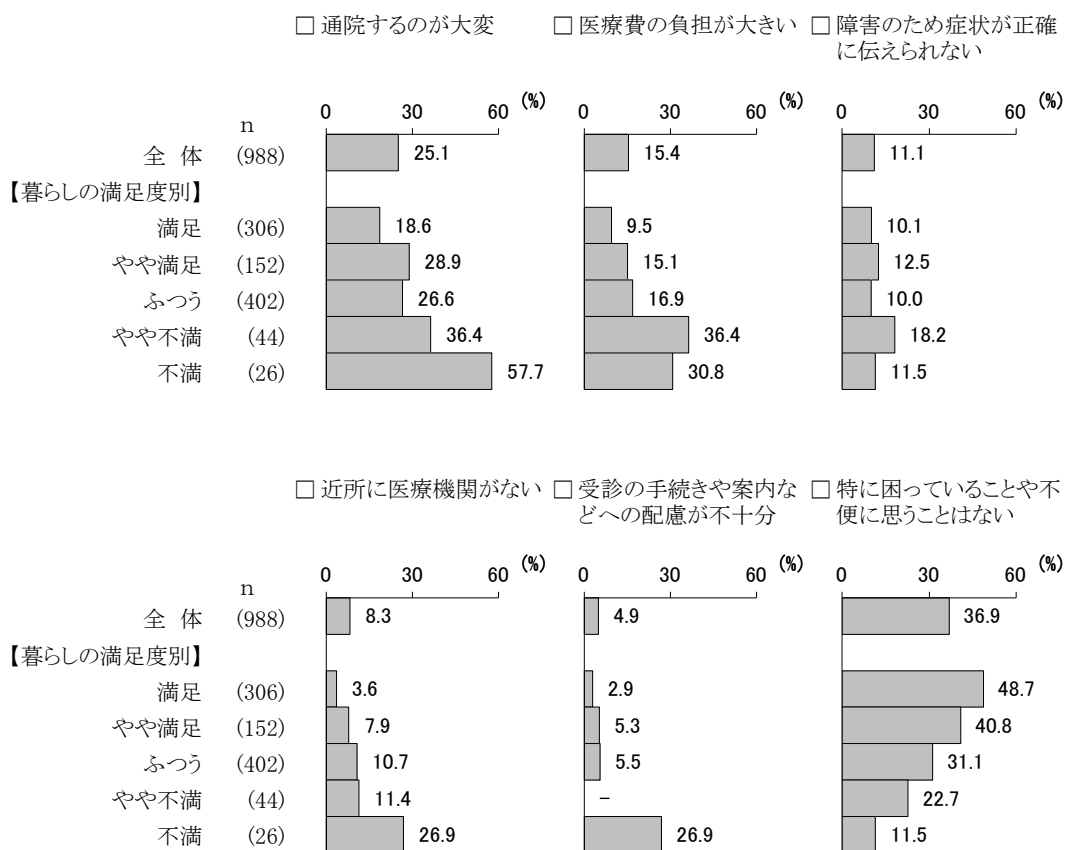
障害区分別、年齢別（上位5項目+「特に困っていることや不便に思うことはない」）



第2章 調査結果の詳細

江戸川区での暮らしの満足度別（問35）にみると、「通院するのが大変」や「医療費の負担が大きい」は満足度が低いほど多くなっている。一方、満足度が高い層では、「特に困っていることや不便に思うことはない」が多くなっている。

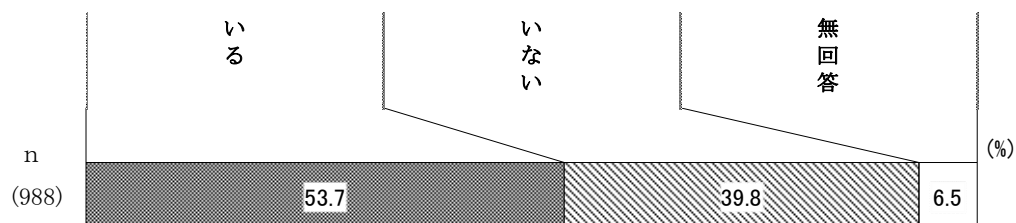
江戸川区での暮らしの満足度別（問35）
（上位5項目＋「特に困っていることや不便に思うことはない」）



5 相談や情報入手について

(1) 相談相手（場所）の有無

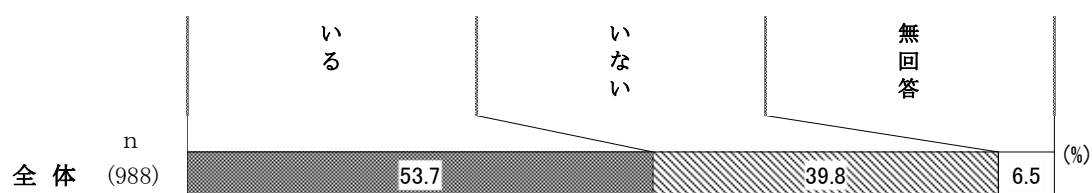
問14 日常生活において困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕
(1つに○)



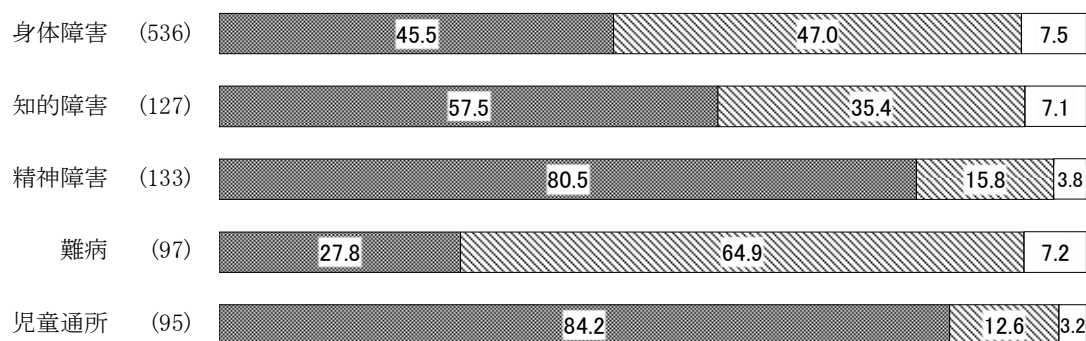
困っていることを相談する人が「いる」は53.7%、「いない」は39.8%となっている。

障害区別にみると、「いる」は児童通所、精神障害が8割台、知的障害でも57.5%となっている。難病は「いる」が27.8%と少なく、「いない」が64.9%となっている。

障害区分別

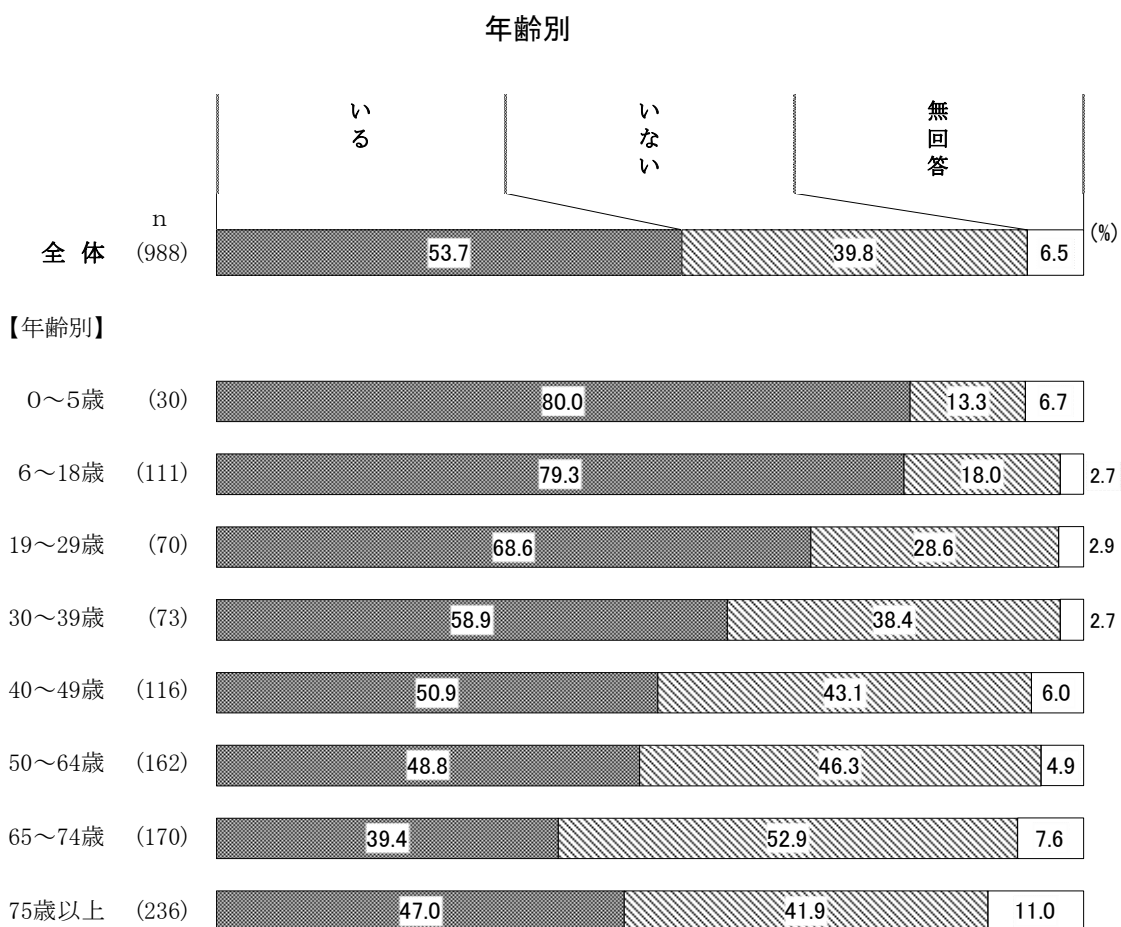


【障害区分別】

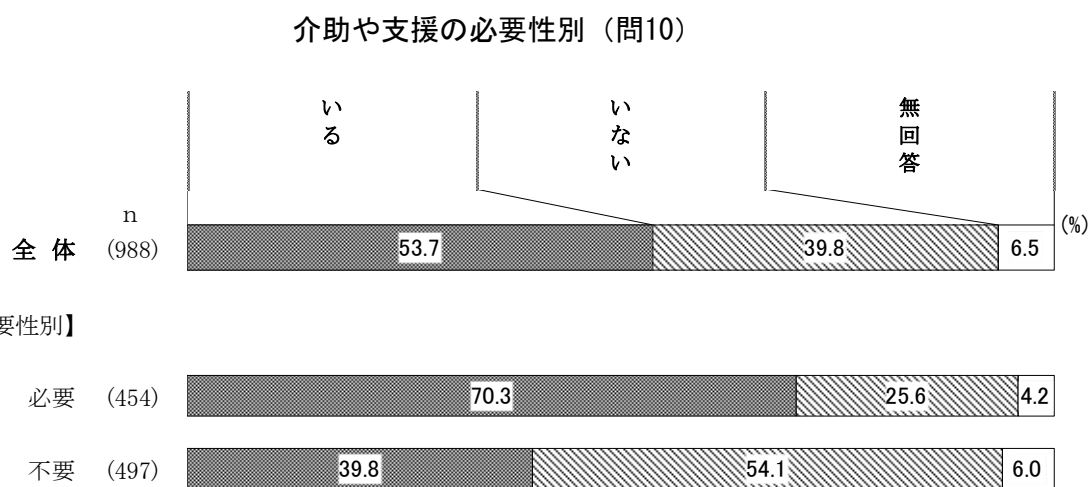


第2章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「いる」は0～5歳が80.0%を占め、年齢が高くなるほど少なくなるが、75歳以上では47.0%となっている。



介助や支援の必要性別（問10）にみると、「いる」は「必要」が70.3%と多く、「いない」は「不要」が54.1%と多くなっている。

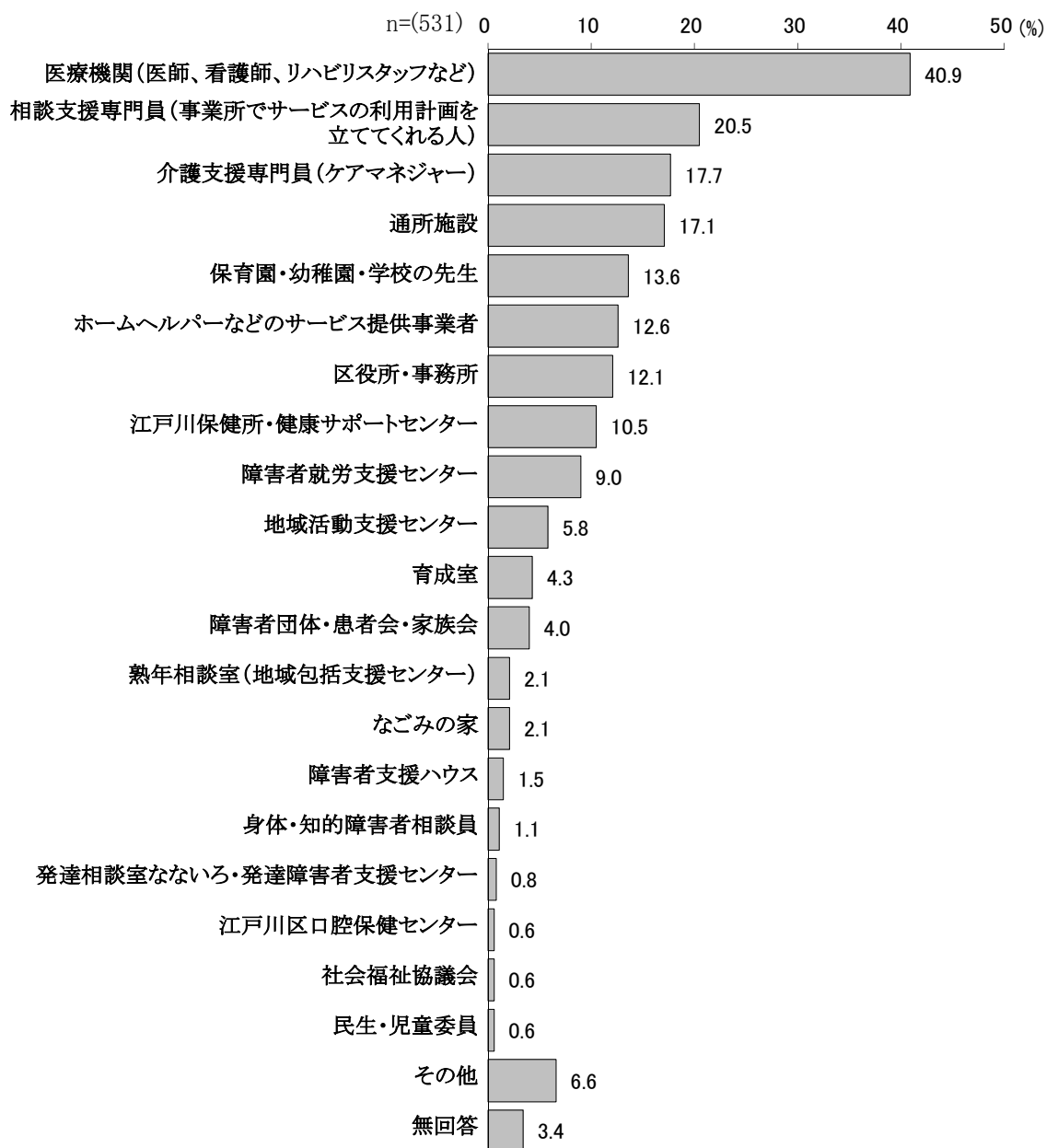


(2) 相談相手（場所）

【問14で「いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-1 相談相手（場所）は、次のうちどれにあたりますか。

（あてはまるものすべてに○）

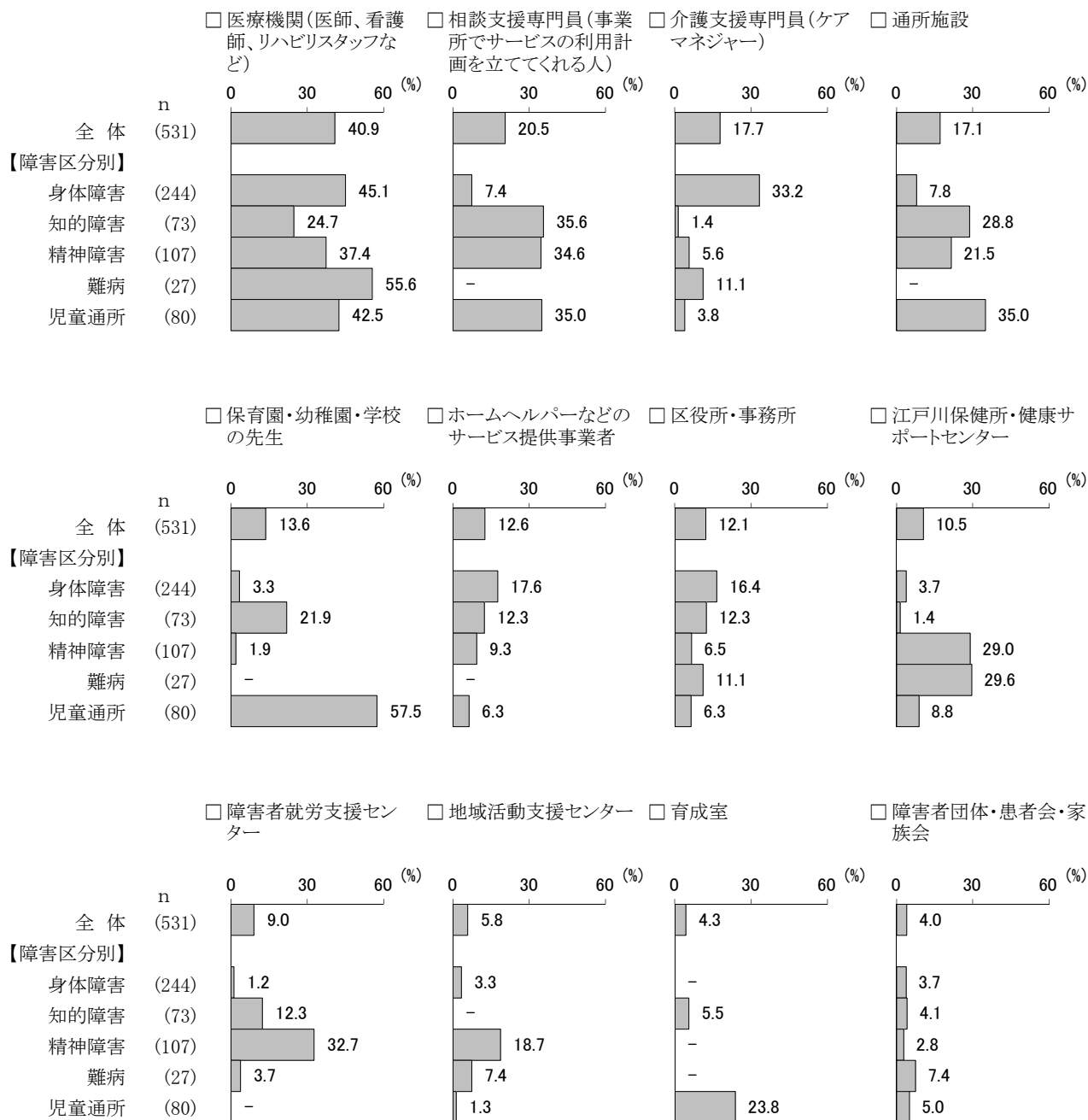


相談相手（場所）は、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」が40.9%と特に多く、以下、「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」が20.5%、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が17.7%、「通所施設」が17.1%となっている。

第2章 調査結果の詳細

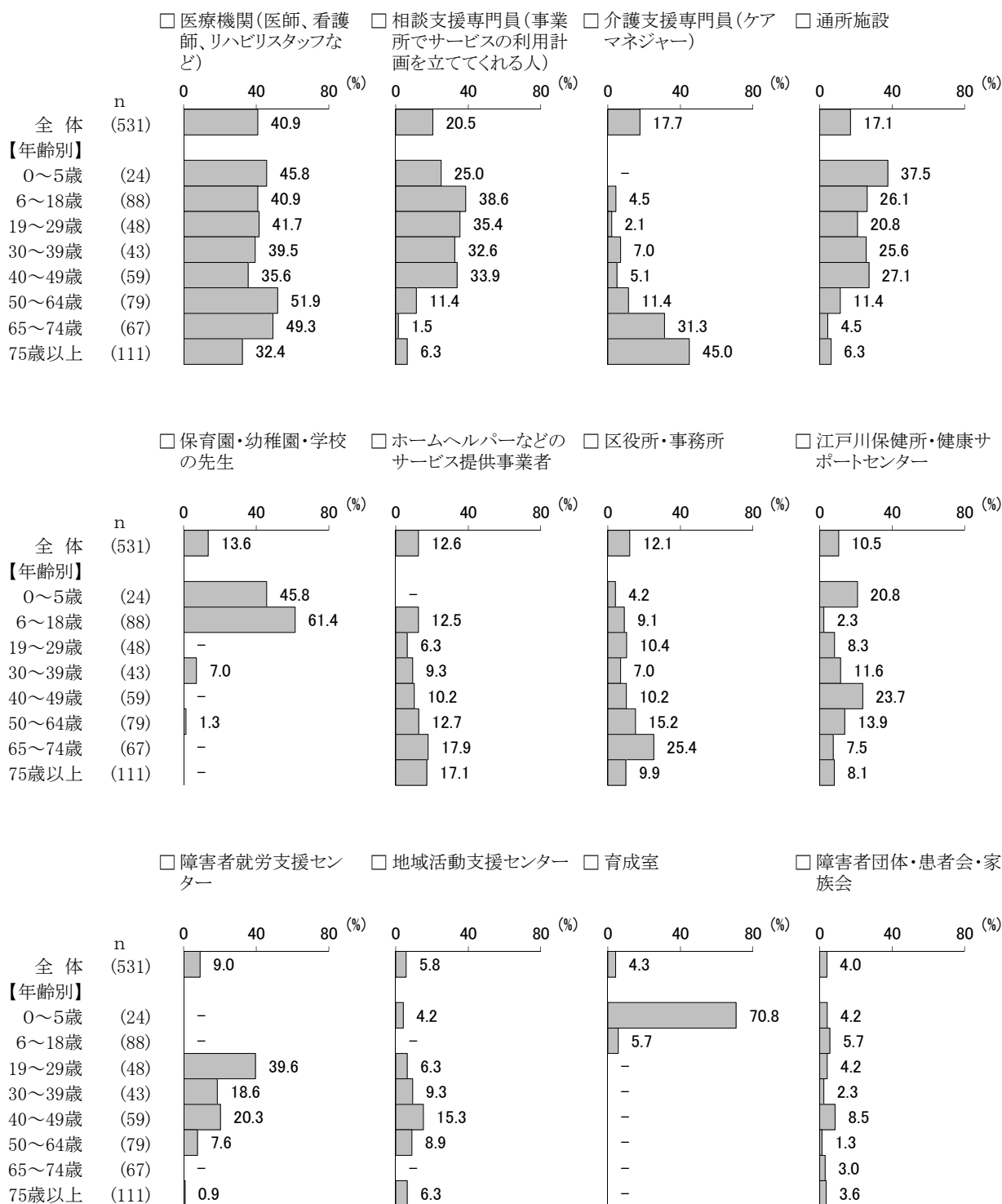
障害区別にみると、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」は難病が55.6%、身体障害と児童通所でも4割台となっている。「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」は知的障害、精神障害や児童通所で、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」は身体障害で3割台と多くなっている。この他、児童通所では「通所施設」が35.0%、「保育園・幼稚園・学校の先生」が57.5%、「育成室」が23.8%、精神障害と難病では「江戸川保健所・健康サポートセンター」が約3割、精神障害では「障害者就労支援センター」も32.7%と他の障害区分より多くなっている。

障害区分別（上位12項目）



年齢別にみると、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」はいずれの年齢も3割以上となっており、特に50歳から74歳では5割前後となっている。6歳から49歳の年齢にかけては「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」が3割台、「通所施設」が2割台となっている。また、0～5歳は「育成室」が70.8%、6～18歳では「保育園・幼稚園・学校の先生」が61.4%、19～29歳では「障害者就労支援センター」、65歳以上では「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が3割以上と他の年齢より多くなっている。

年齢別（上位12項目）

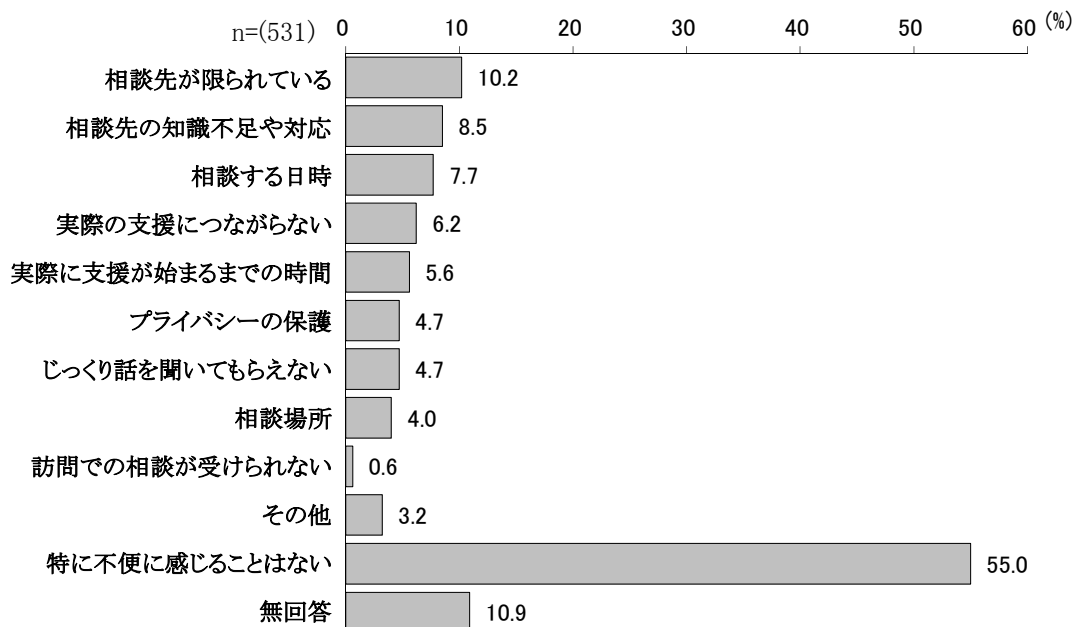


(3) 悩み事や心配事の相談で感じる不便

【問14で「いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-2 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

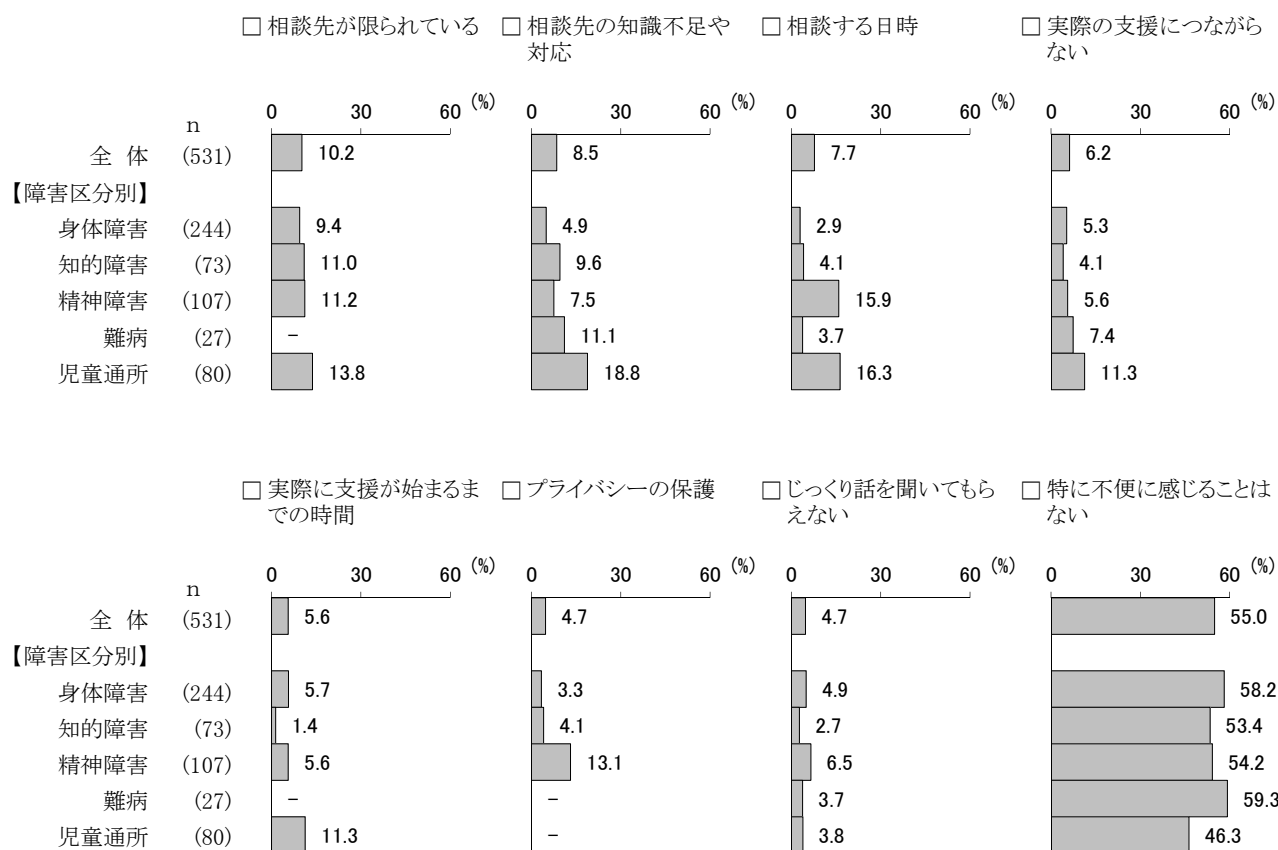


悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることは、「相談先が限られている」が10.2%、「相談先の知識不足や対応」が8.5%、「相談する日時」が7.7%と続いている。

なお、「特に不便を感じることはない」が55.0%と多くなっている。

障害区別にみると、「相談する日時」は精神障害と児童通所が1割台となっている。この他、児童通所では「相談先が限られている」、「実際の支援につながらない」、「実際に支援が始まるまでの時間」、精神障害では「プライバシーの保護」が1割台と他の障害区分よりやや多くあげられている。

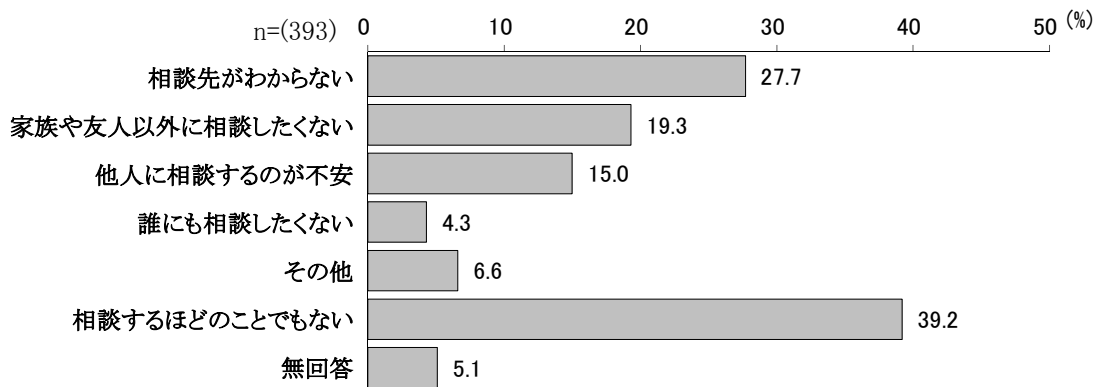
障害区別（上位7項目+「特に不便を感じることはない」）



(4) 相談相手がいない理由

【問14で「いない」と回答した方にお聞きします。】

問14-3 相談相手がいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

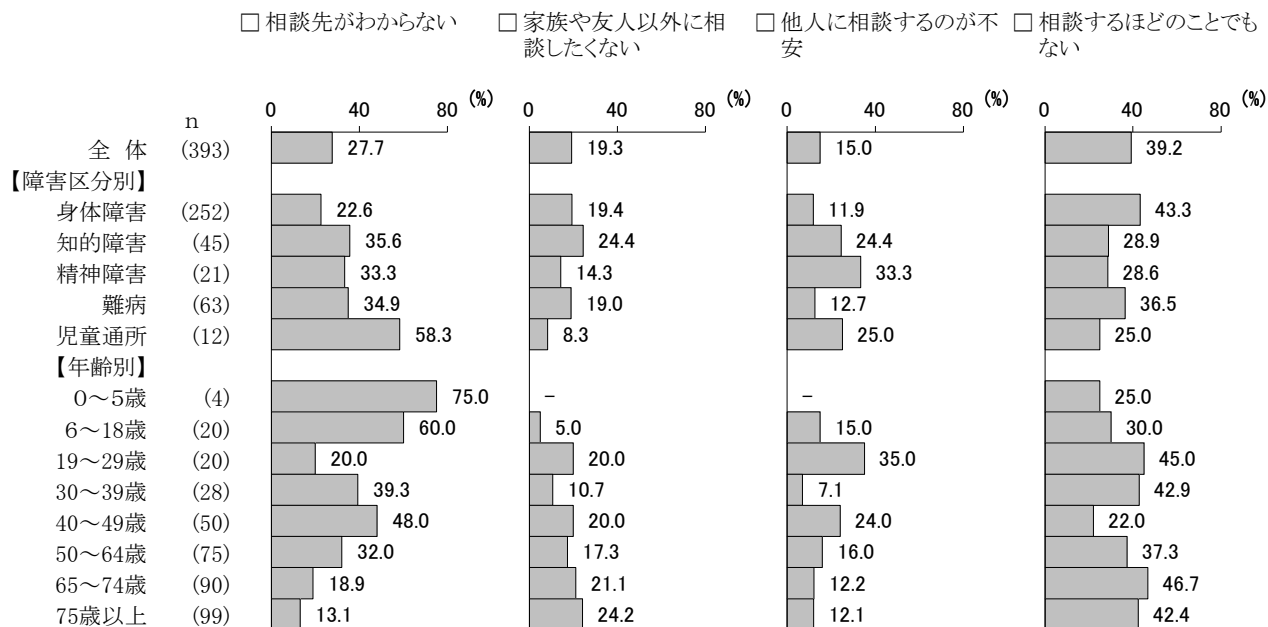


相談相手がいない理由は、「相談先がわからない」が27.7%と多く、「家族や友人以外に相談したくない」(19.3%)、「他人に相談するのが不安」(15.0%)が1割台となっている。

なお、「相談するほどのことでもない」は39.2%となっている。

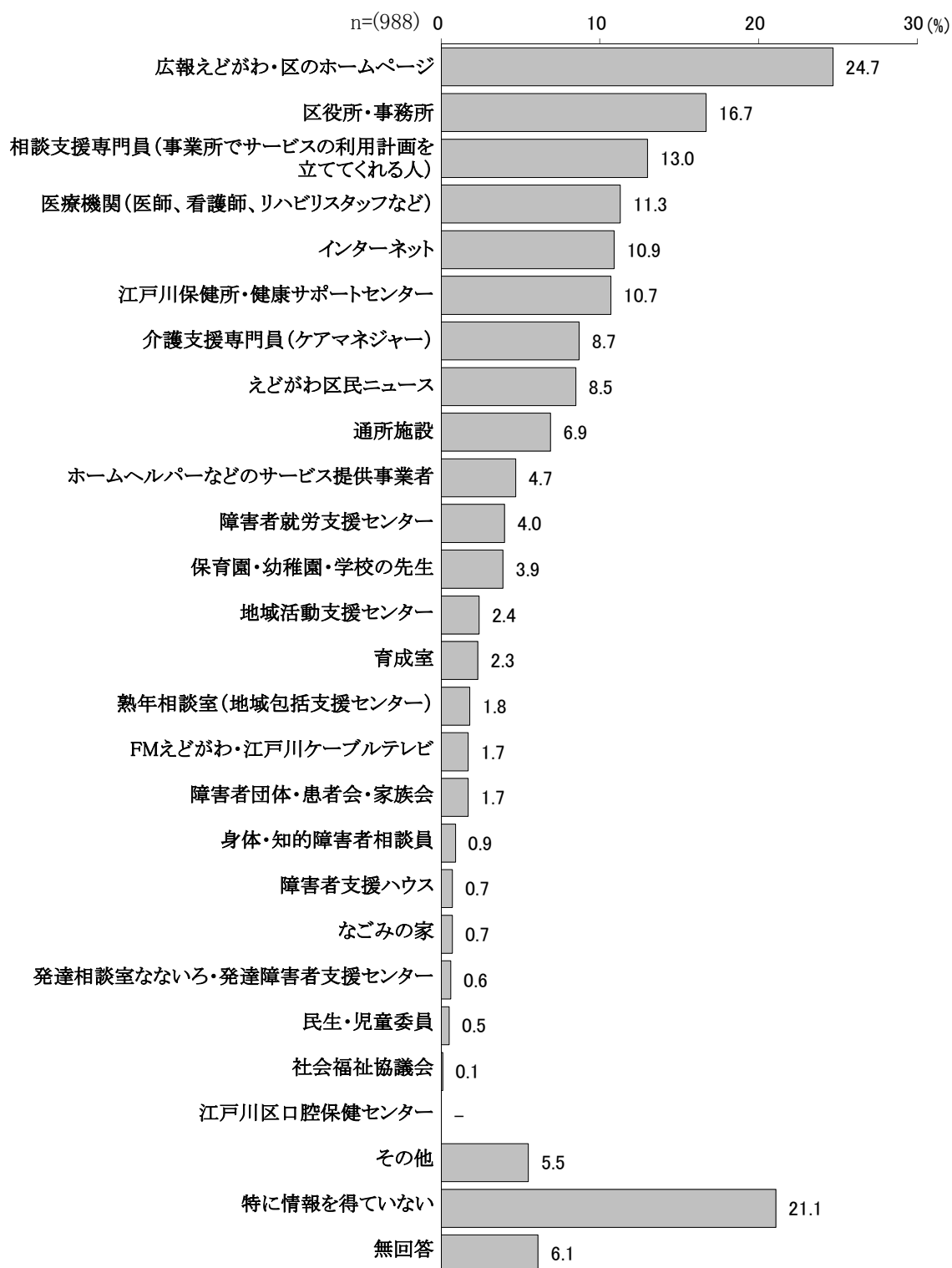
年齢別にみると、「相談先がわからない」は0歳から18歳が6割以上と多く、「他人に相談するのが不安」は19~29歳が35.0%となっている。

障害区分別、年齢別 (上位3項目+「相談するほどのことでもない」)



(5) 区の生活支援に関するサービスの情報の入手先

問15 区の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



区の生活支援に関するサービスの情報の入手先は、「広報えどがわ・区のホームページ」が24.7%と最も多く、「区役所・事務所」(16.7%)、「相談支援専門員(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)」(13.0%)、「医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)」(11.3%)、「インターネット」

第2章 調査結果の詳細

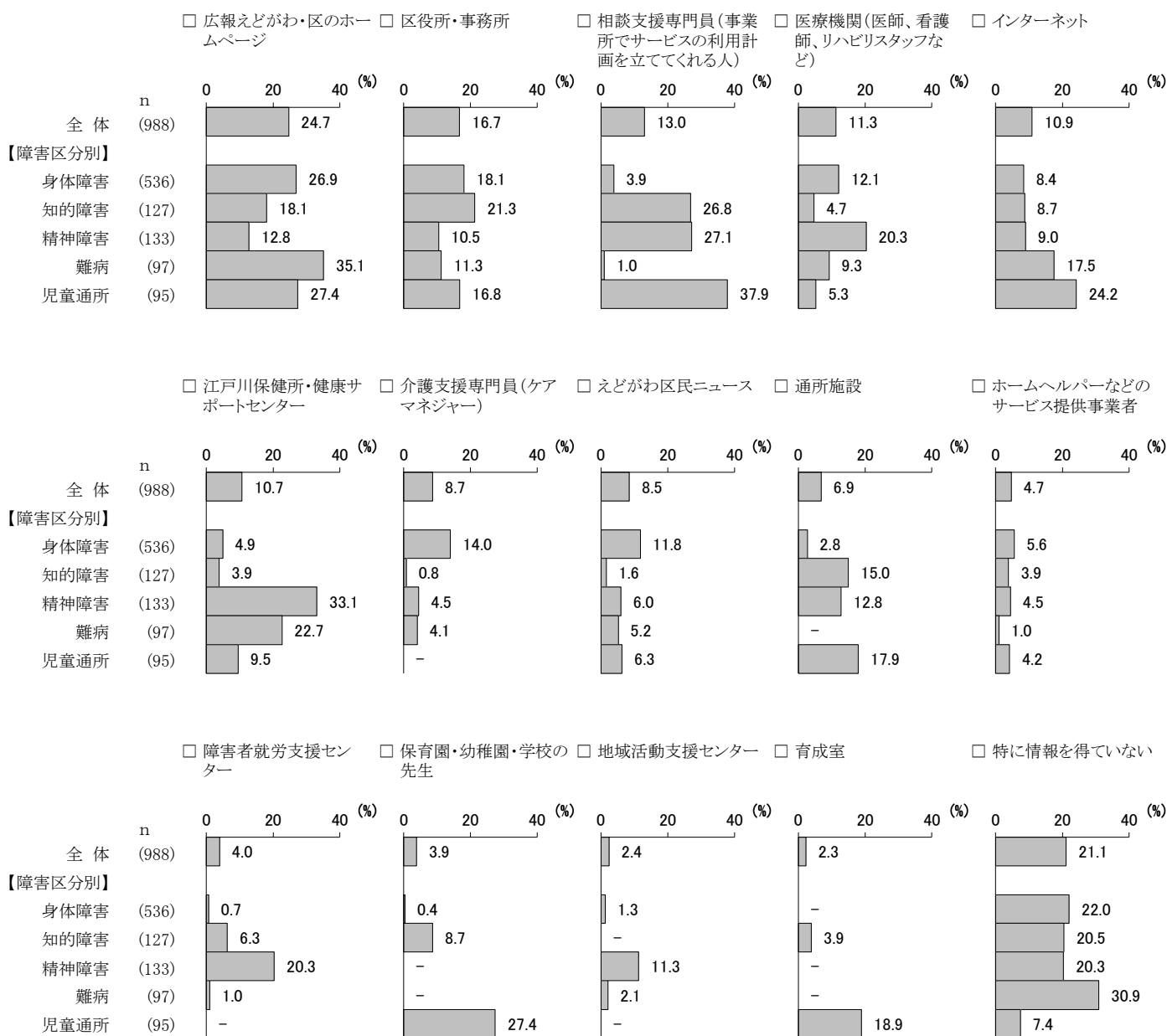
ト」(10.9%)、「江戸川保健所・健康サポートセンター」(10.7%)が1割台となっている。

なお、「特に情報を得ていない」は21.1%となっている。

障害区別にみると、「広報えどがわ・区のホームページ」は難病が35.1%、「相談支援専門員(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)」は児童通所が37.9%、「江戸川保健所・健康サポートセンター」は精神障害が33.1%と他の障害区分より多くなっている。また、児童通所では「インターネット」、「保育園・幼稚園・学校の先生」、精神障害では「医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)」、「障害者就労支援センター」が2割台と他の障害区分より多い。

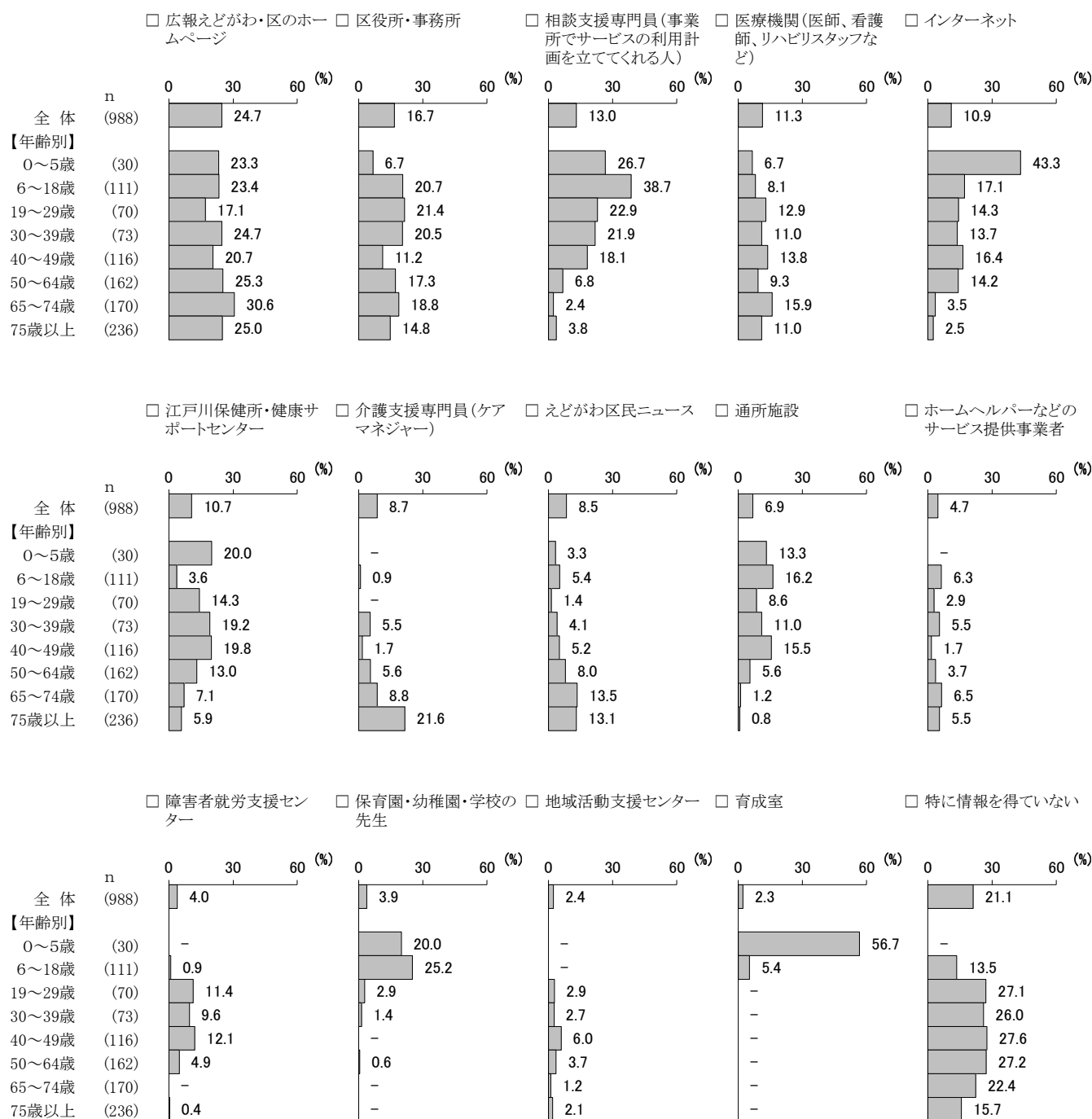
なお、「特に情報を得ていない」は難病が30.9%となっている。

障害区分別(上位14項目+「特に情報を得ていない」)



年齢別にみると、「広報えどがわ・区のホームページ」、「区役所・事務所」及び「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」は年齢に関わらず利用されている。この他、0～5歳では「育成室」（56.7%）や「インターネット」（43.3%）が特に多く、「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」は6～18歳が38.7%、18歳以下ではさらに「保育園・幼稚園・学校の先生」も2割台となっている。また、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」は75歳以上が21.6%と他の年齢より多くなっている。

年齢別（上位14項目＋「特に情報を得ていない」）

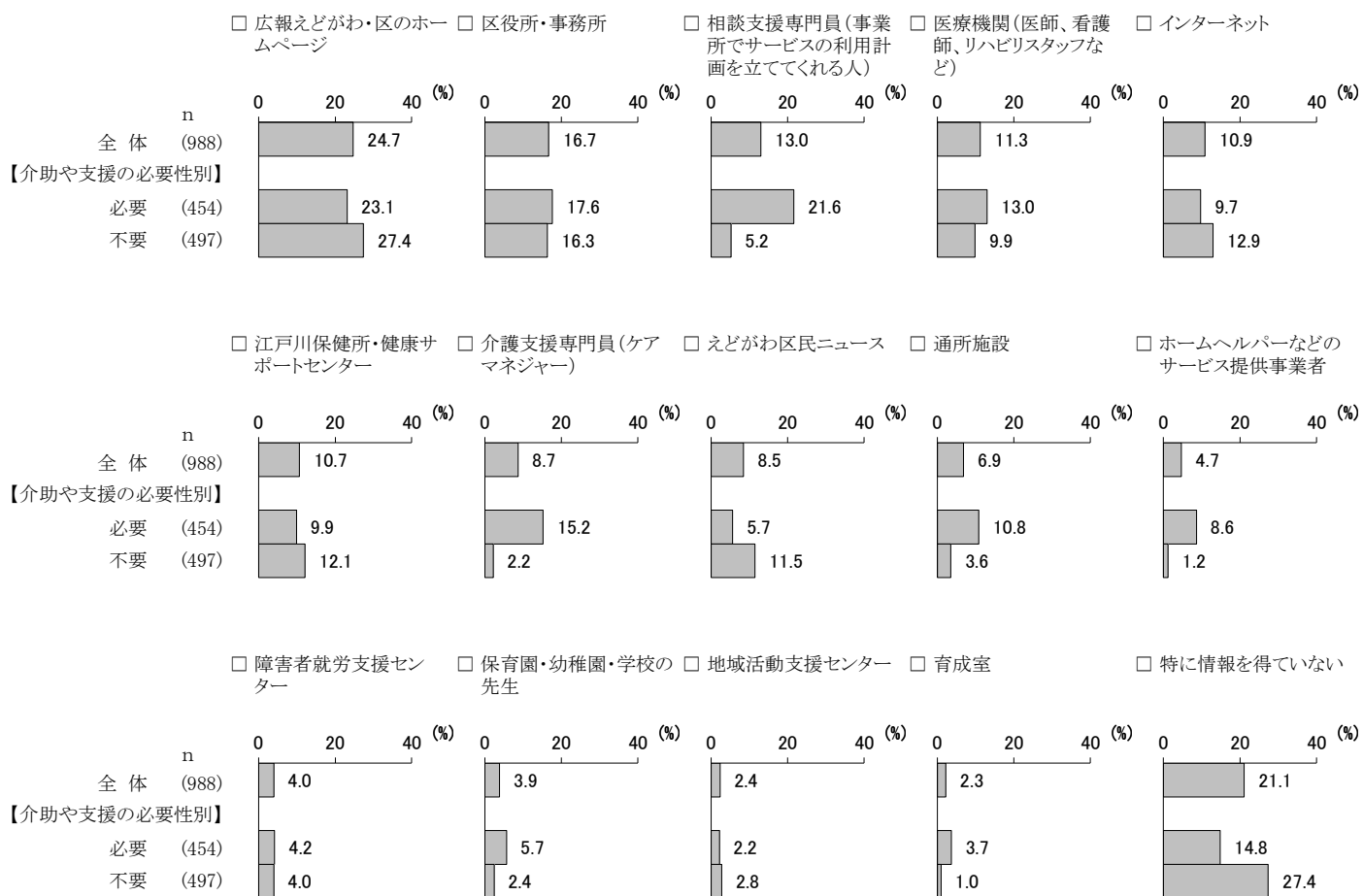


第2章 調査結果の詳細

介助や支援の必要性別（問10）にみると、「広報えどがわ・区のホームページ」は日常の介助や支援を必要とする人（23.1%）、不要とする人（27.4%）の両者ともに2割以上と多くなっている。「区役所・事務所」（17.6%）、「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」（21.6%）、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」（13.0%）、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」（15.2%）、「通所施設」（10.8%）などは、日常の介助や支援を不要とする人よりも必要とする人の方が多くなっている。

なお、日常の介助や支援を不要とする人で「特に情報を得ていない」は27.4%となっている。

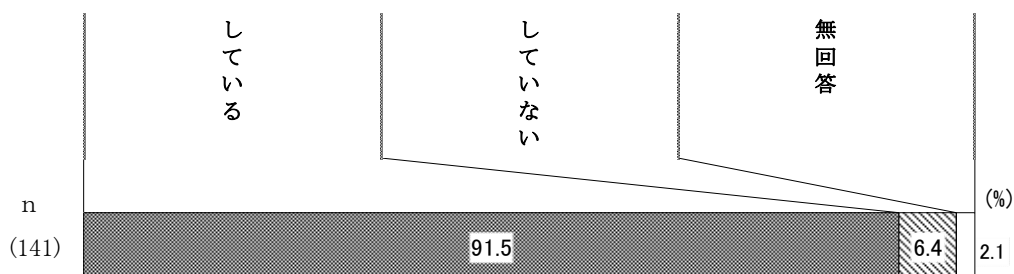
介助や支援の必要性別（問10）（上位14項目＋「特に情報を得ていない」）



6 通園・通学について

(1) 保育園や幼稚園、学校への通園・通学状況

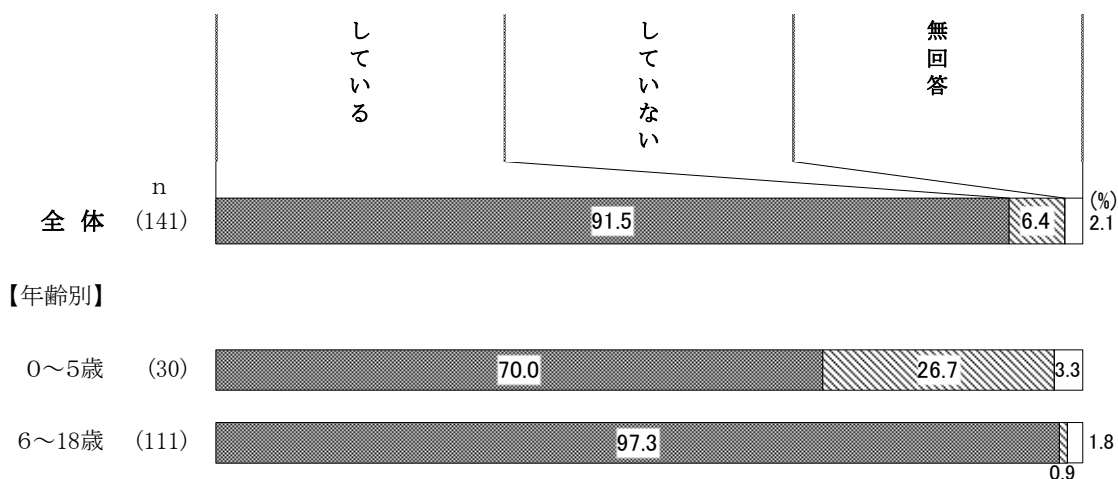
問16 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)



18歳以下の対象で、現在、保育園や幼稚園、学校への通園・通学状況は、「している」が91.5%を占めている。

年齢別にみると、「している」は6～18歳では97.3%を占め、0～5歳でも70.0%となっている。

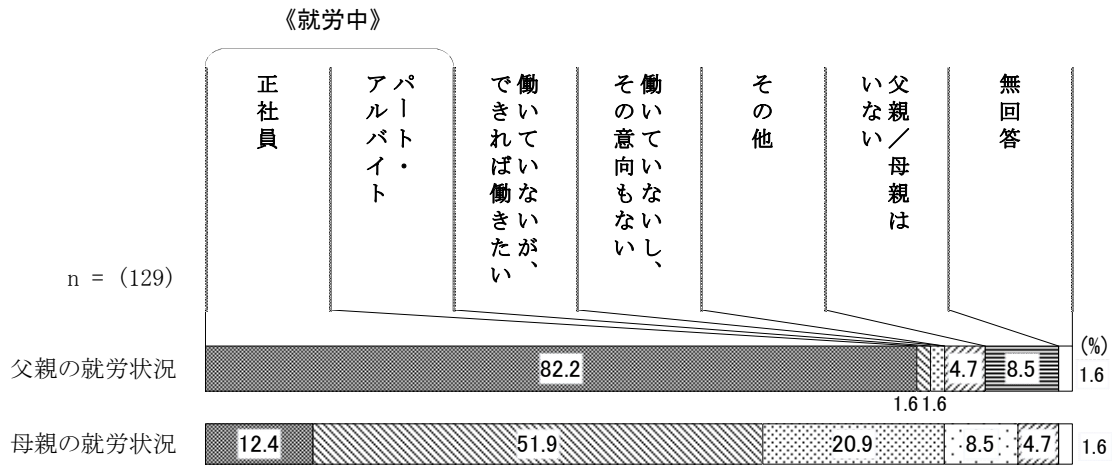
年齢別



(2) 父親、母親の就労状況

【問16で「している」と回答した方にお聞きします。】

問16-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

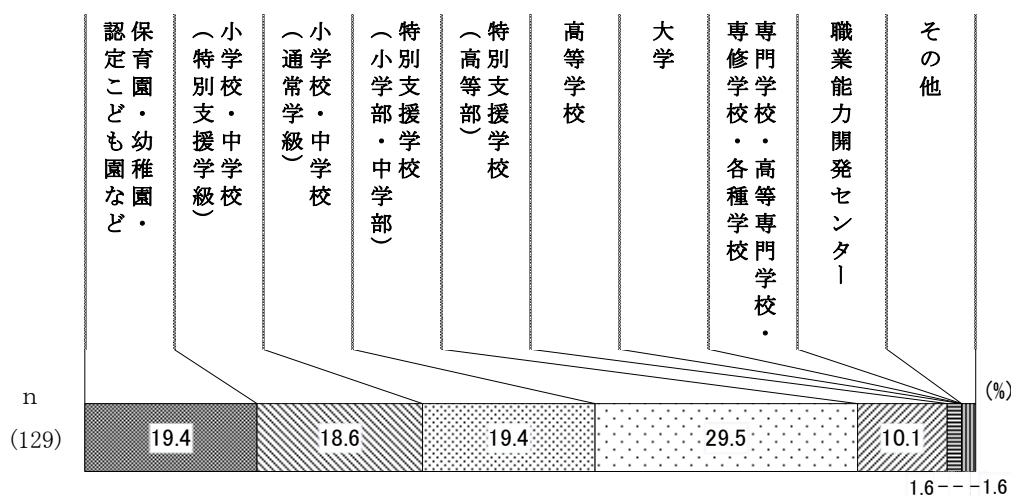


父親の就労状況は「正社員」が82.2%を占め、「パート・アルバイト」(1.6%)をあわせた《就労中》は83.8%となっている。

母親の就労状況は「正社員」が12.4%となっており、「パート・アルバイト」(51.9%)をあわせた《就労中》は64.3%となっている。また、「働いていないが、できれば働きたい」が20.9%となっている。

(3) 通園・通学先

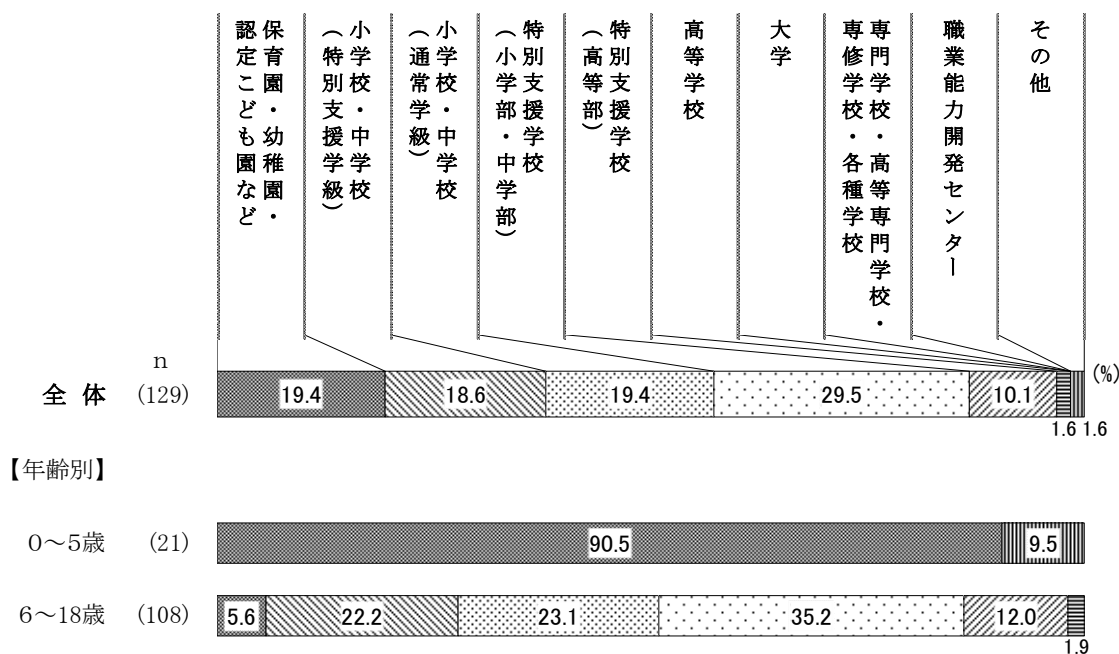
問17 通園・通学しているところはどこですか。(1つに〇)



通園・通学先は「特別支援学校 (小学部・中学部)」が29.5%と最も多く、「保育園・幼稚園・認定こども園など」、「小学校・中学校 (通常学級)」が19.4%、「小学校・中学校 (特別支援学級)」が18.6%となっている。

年齢別にみると、0～5歳は「保育園・幼稚園・認定こども園など」(90.5%)が大半を占め、6～18歳は「特別支援学校 (小学部・中学部)」が35.2%、「小学校・中学校 (通常学級)」が23.1%、「小学校・中学校 (特別支援学級)」が22.2%となっている。

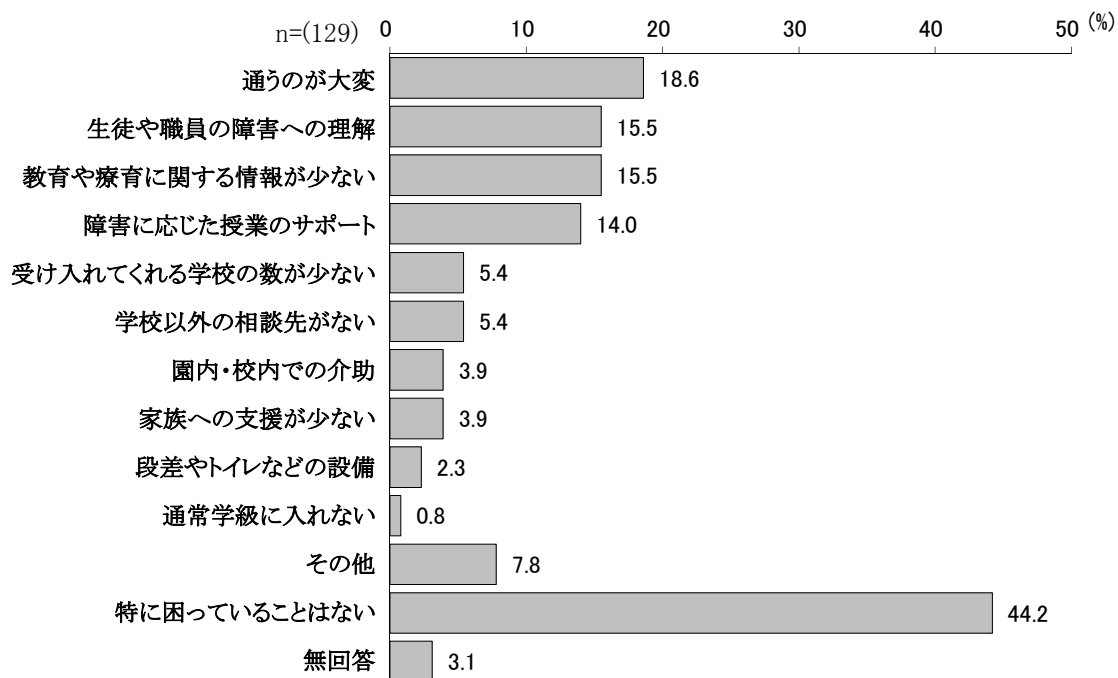
年齢別



(4) 通園・通学するうえで困っていること

問18 通園・通学するうえで困っていることはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)



通園・通学するうえで困っていることは、「通うのが大変」が18.6%となっており、「生徒や職員の障害への理解」、「教育や療育に関する情報が少ない」が15.5%、「障害に応じた授業のサポート」が14.0%となっている。

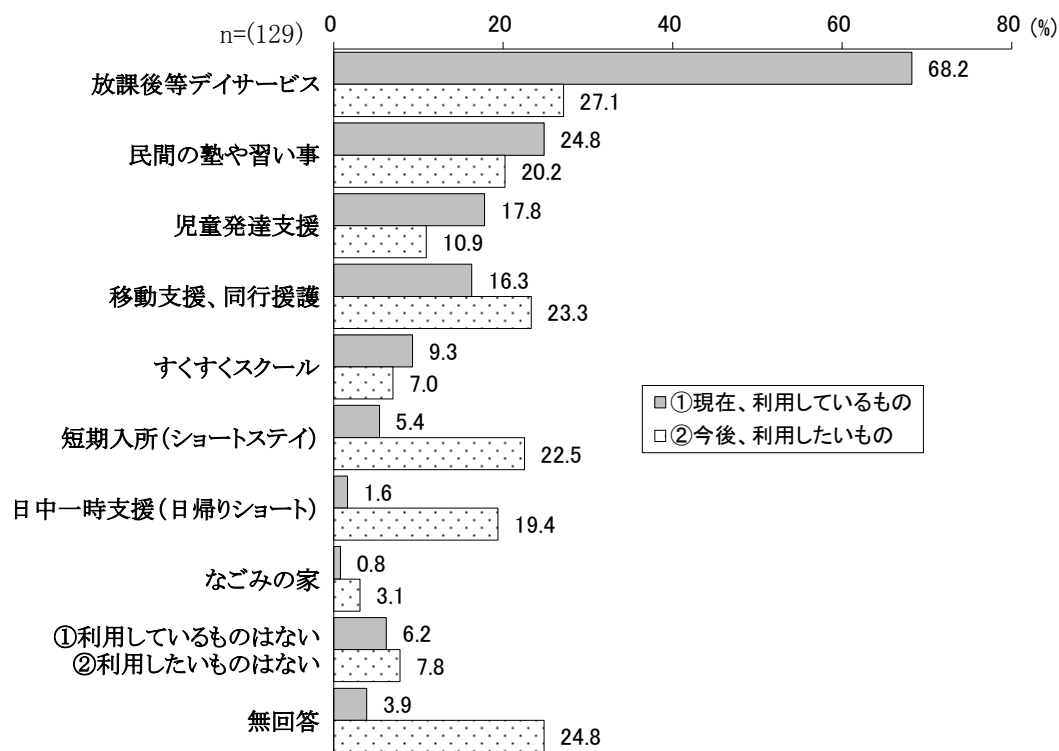
なお、「特に困っていることはない」が44.2%と多くなっている。

(5) 放課後や休みの日のサービス利用状況

問19 放課後や休みの日、以下のサービスを利用していますか。

- ①現在、利用しているもの、
 ②今後、利用したいもの
 をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

①現在利用しているもの／②今後、利用したいもの



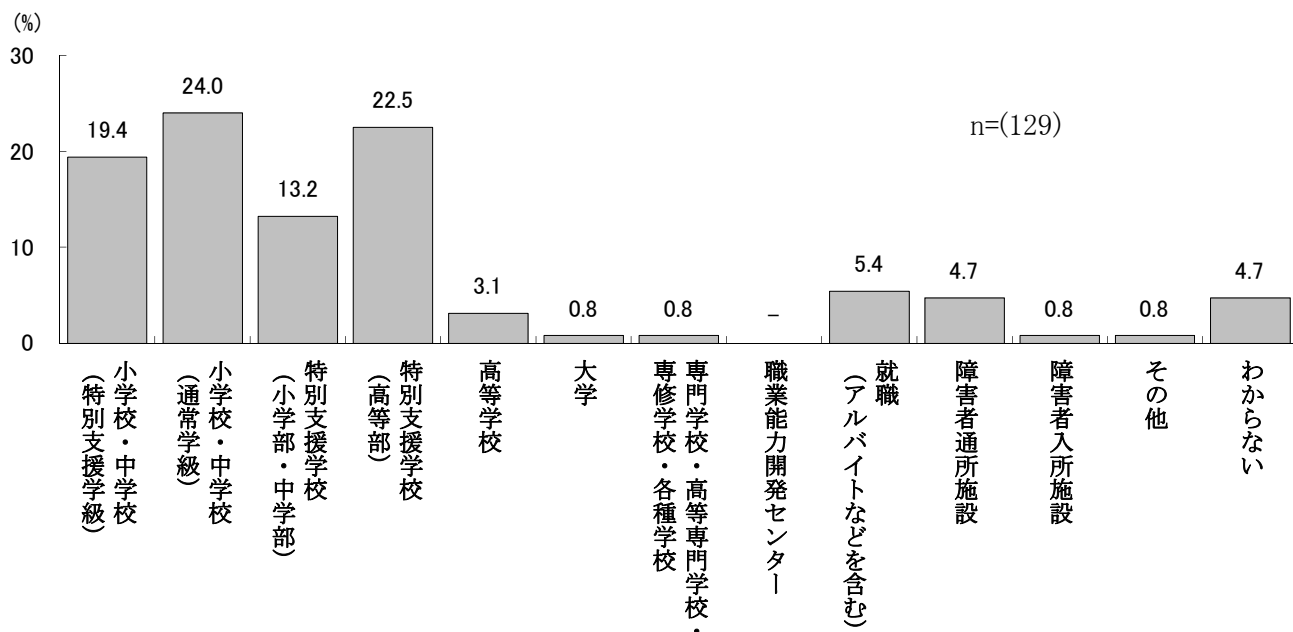
放課後や休みの日のサービス利用状況について、①現在利用しているものは、「放課後等デイサービス」が68.2%と最も多く、以下、「民間の塾や習い事」が24.8%、「児童発達支援」が17.8%、「移動支援、同行援護」が16.3%と続いている。

②今後、利用したいものは、「放課後等デイサービス」が27.1%と多く、以下、「移動支援、同行援護」が23.3%、「短期入所(ショートステイ)」が22.5%、「民間の塾や習い事」が20.2%と続いている。

「①現在利用しているもの」と「②今後、利用したいもの」を比較すると、現在の利用状況より今後の希望が伸びているサービスは、「日中一時支援(日帰りショート)」(17.8ポイント増)、「短期入所(ショートステイ)」(17.1ポイント増)、「移動支援、同行援護」(7.0ポイント増)となっている。

(6) 卒業後の希望進路先

問20 現在通っている学校などを卒業した後、どのような進路を希望しますか。(1つに○)



卒業後の希望進路先は、「小学校・中学校 (通常学級)」が24.0%、「特別支援学校 (高等部)」が22.5%、「小学校・中学校 (特別支援学級)」が19.4%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「小学校・中学校 (通常学級)」が57.1%と多く、6～18歳では「特別支援学校 (高等部)」(26.9%)の他、「小学校・中学校 (通常学級)」(17.6%)、「小学校・中学校 (特別支援学級)」(16.7%)、「特別支援学校 (小学部・中学部)」(14.8%)が1割台となっている。

年齢別

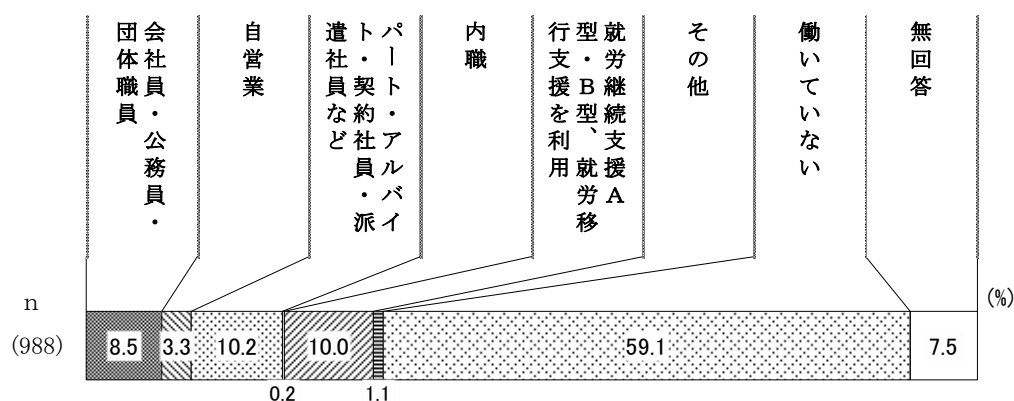
(%)

	調査数	小学校・中学校 (特別支援学級)	小学校・中学校 (通常学級)	特別支援学校 (小学部・中学部)	特別支援学校 (高等部)	高等学校	大学	専門学校・高等専門学校・専修学校・各種学校	職業能力開発センター	就職 (アルバイトなどを含む)	障害者通所施設	障害者入所施設	その他	わからない
全体	129	19.4	24.0	13.2	22.5	3.1	0.8	0.8	-	5.4	4.7	0.8	0.8	4.7
0～5歳	21	33.3	57.1	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8	-
6～18歳	108	16.7	17.6	14.8	26.9	3.7	0.9	0.9	-	6.5	5.6	0.9	-	5.6

7 仕事の状況や今後の希望について

(1) 就労形態

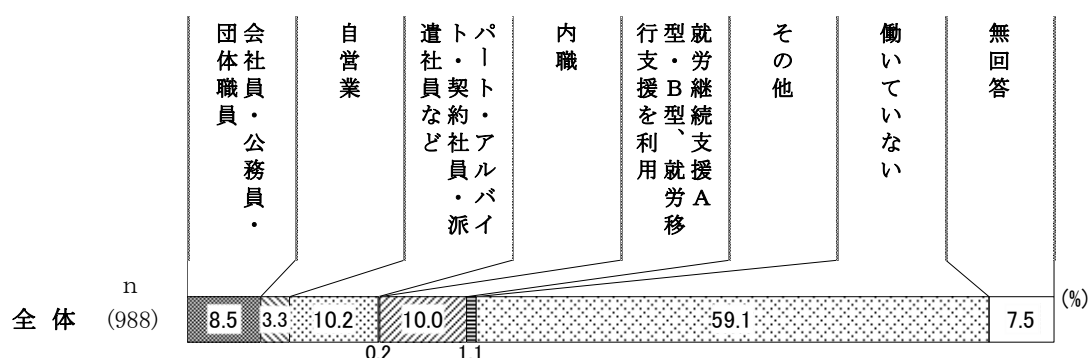
問21 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)



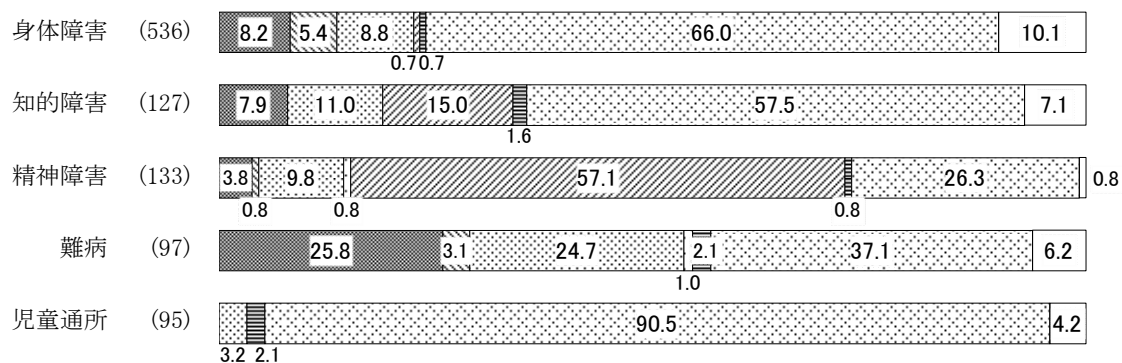
現在の就労形態は、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」(10.2%)、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」(10.0%)、「会社員・公務員・団体職員」(8.5%)が1割前後となっている。また、「働いていない」は59.1%となっている。

障害区分別にみると、難病では「会社員・公務員・団体職員」が25.8%、精神障害では「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」が57.1%と他の障害区分より多くなっている。「働いていない」は身体障害が66.0%、知的障害が57.5%と多くなっている。

障害区分別

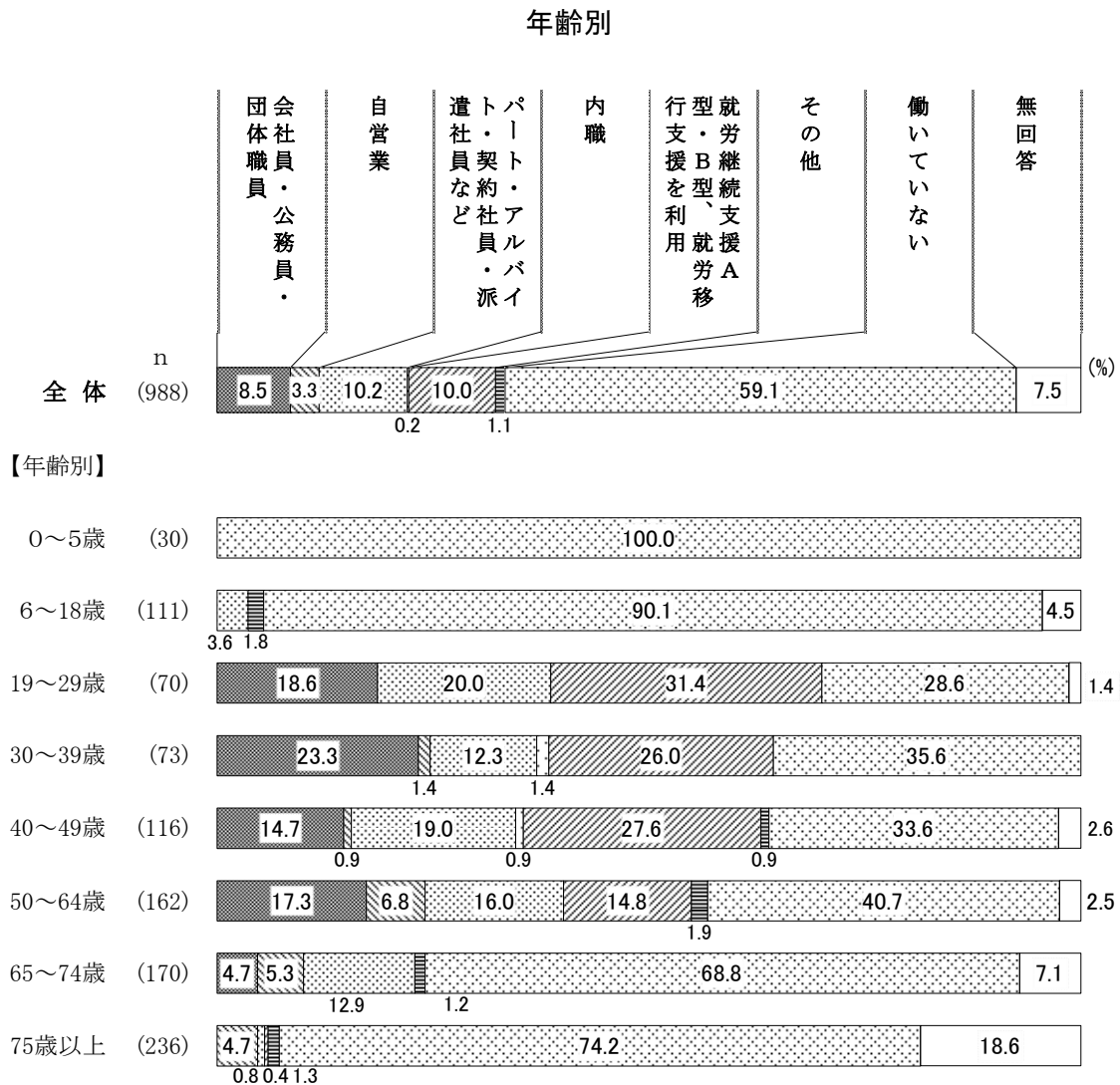


【障害区分別】



第2章 調査結果の詳細

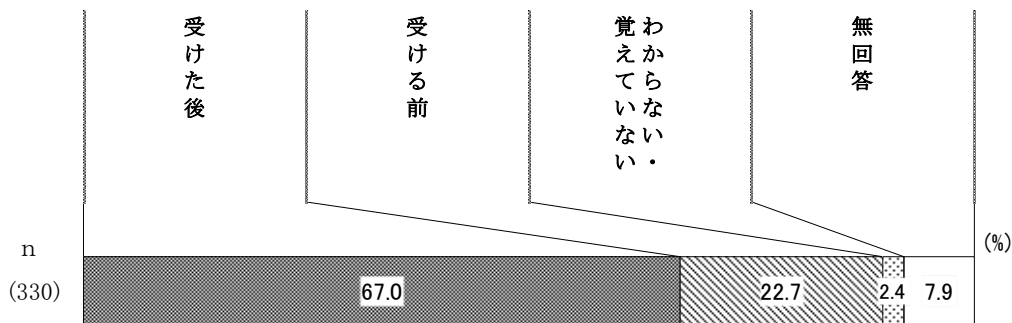
年齢別にみると、19歳から64歳の年齢にかけては「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」、「会社員・公務員・団体職員」、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」を中心に半数以上の方が就労しており、18歳以下と65歳以上は「働いていない」が多い。



(2) 就職と、疾患や障害の診断を受けたタイミング

【問21で「会社員・公務員・団体職員」、「自営業」、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」、「内職」、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」、「その他」と回答した方にお聞きします。】

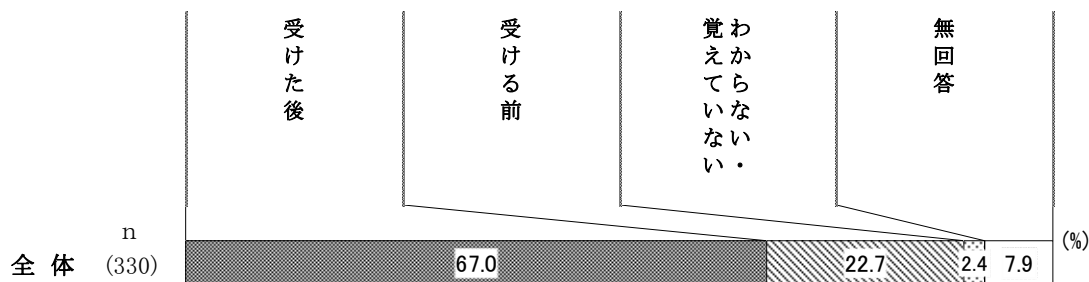
問21-1 現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を受けた後でしたか。(1つに○)



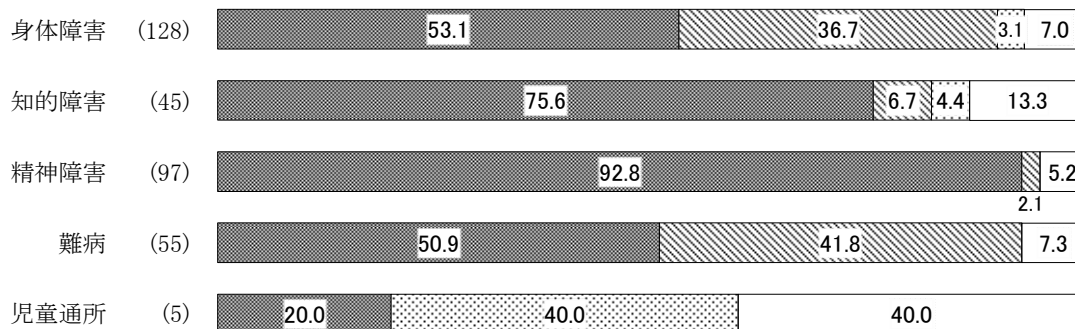
現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を「受けた後」が67.0%、「受ける前」が22.7%となっている。

障害区別にみると、診断を「受けた後」は精神障害が92.8%を占め、知的障害が75.6%となっている。一方、「受ける前」は難病が41.8%、身体障害が36.7%となっている。

障害区分別

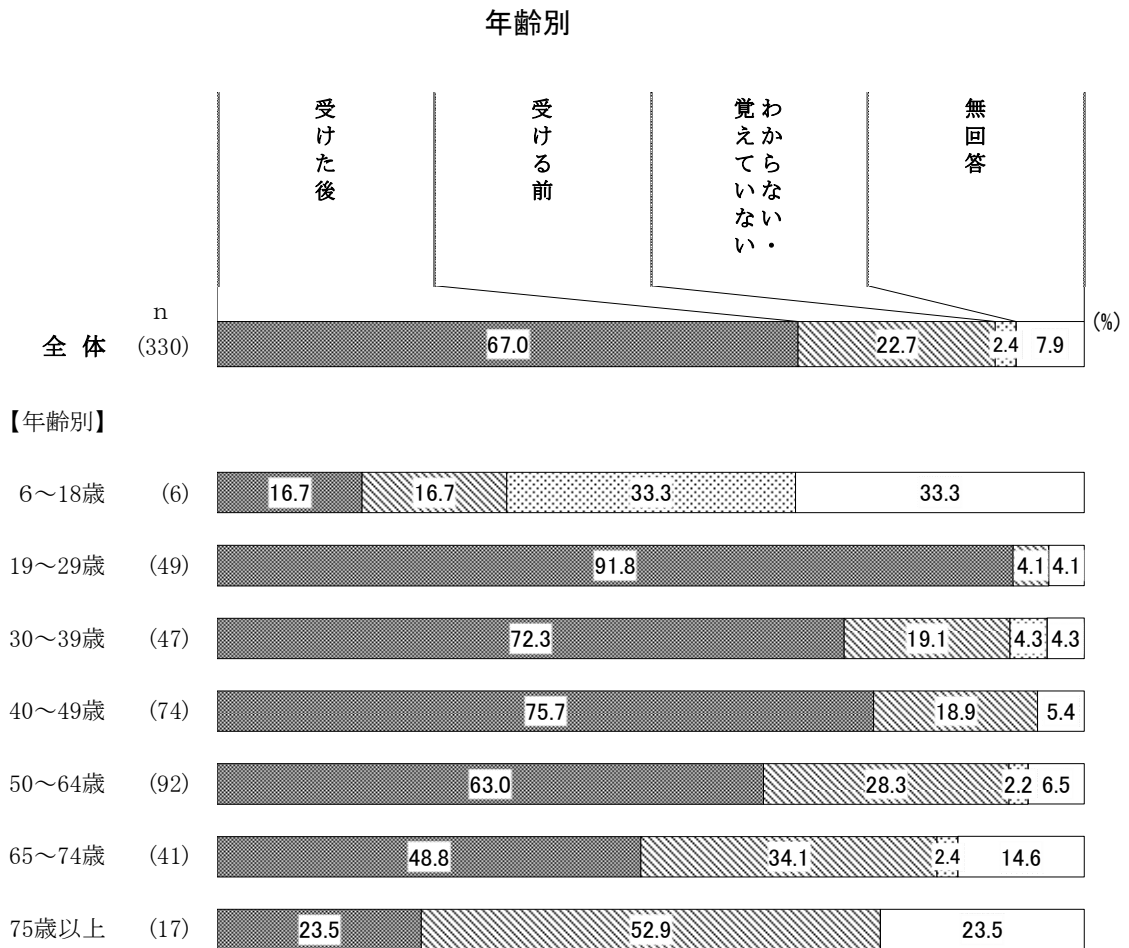


【障害区分別】



第2章 調査結果の詳細

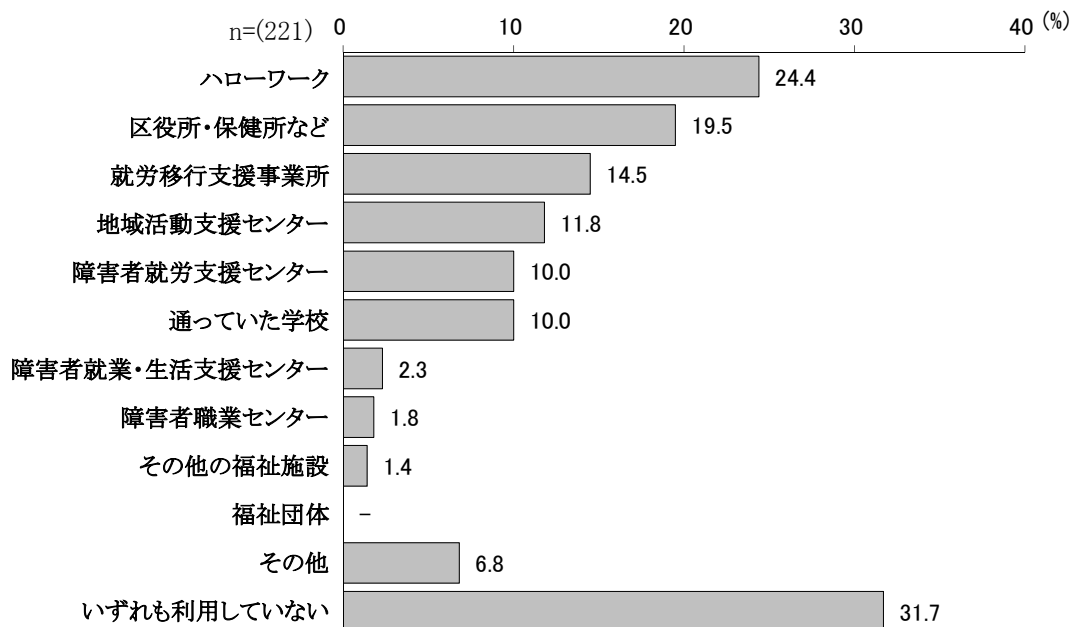
年齢別にみると、診断を「受けた後」は19～29歳が91.8%を占め、30歳から64歳にかけても6割以上となっている。65歳以上の年齢では半数以下となっており、75歳以上は、「受ける前」が52.9%と多くなっている。



(3) 就職する際に利用した機関

【問21-1で「受けた後」と回答した方にお聞きします。】

問21-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)



就職する際に利用した機関は、「ハローワーク」が24.4%と多く、「区役所・保健所など」が19.5%、「就労移行支援事業所」が14.5%と続いている。

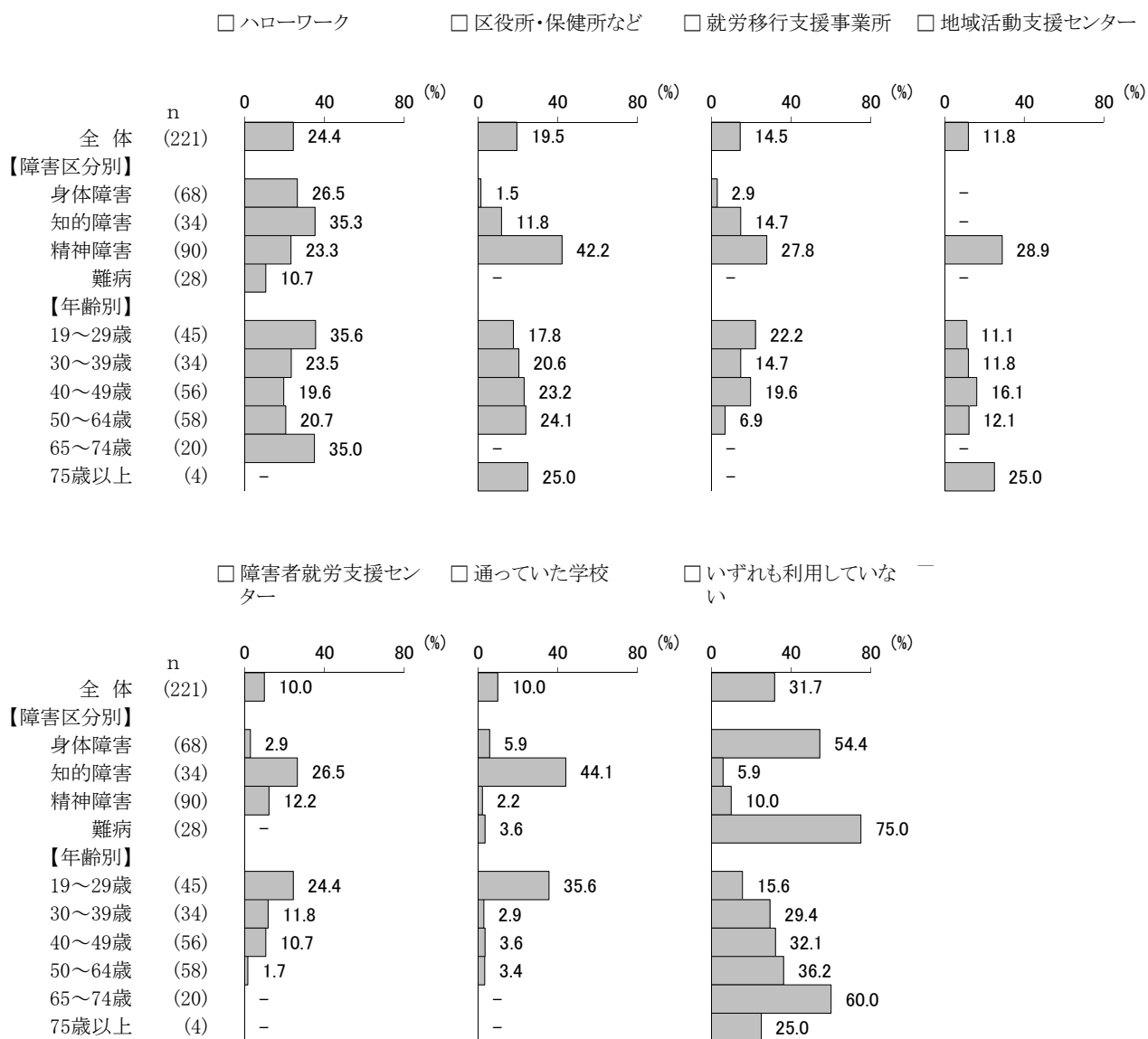
なお、「いずれも利用していない」が31.7%となっている。

第2章 調査結果の詳細

障害区別にみると、知的障害では「通っていた学校」(44.1%)、「ハローワーク」(35.3%)、「障害者就労支援センター」(26.5%)、精神障害では「区役所・保健所など」(42.2%)、「地域活動支援センター」(28.9%)、「就労移行支援事業所」(27.8%)が他の障害区分より多くなっている。

年齢別にみると、19～29歳では「通っていた学校」、「ハローワーク」が35.6%、「障害者就労支援センター」が24.4%と他の年齢より多くなっている。

障害区分別、年齢別（上位6項目+「いずれも利用していない」）

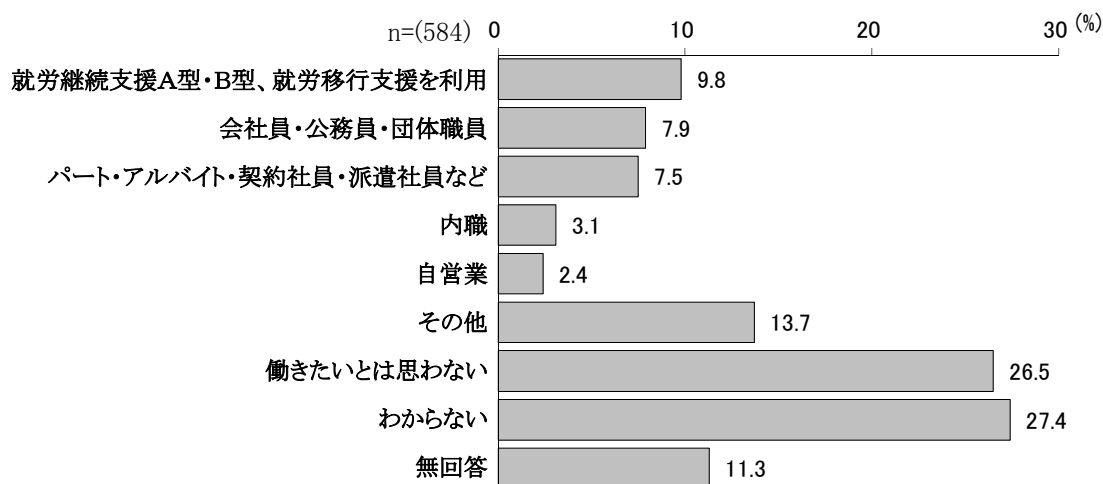


(4) 今後の就労意向

【問21で「働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問21-3 あなたは今後、どのように働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

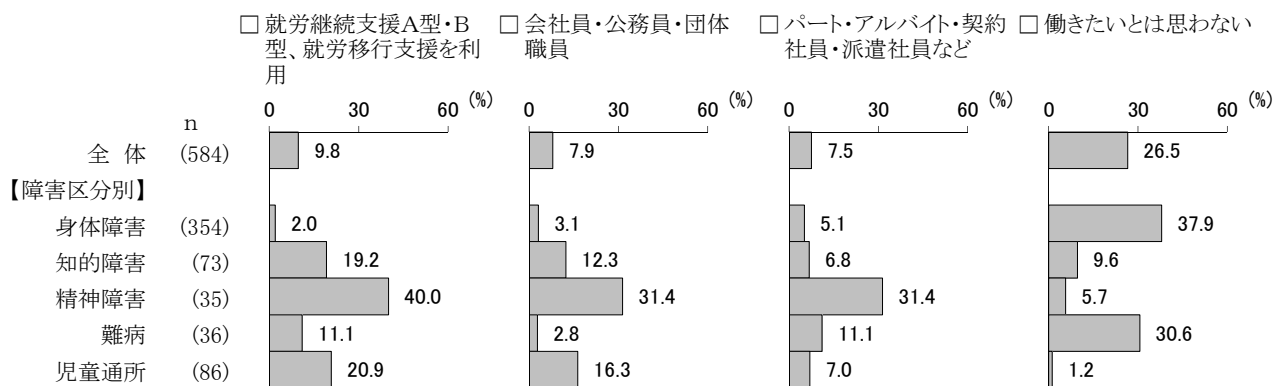


今後の就労意向としては、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」が9.8%、「会社員・公務員・団体職員」が7.9%、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」が7.5%と続いている。

なお、「働きたいとは思わない」(26.5%)の他、「わからない」(27.4%)も多くなっている。

障害区分別にみると、就労意向は精神障害で多くみられ、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」が40.0%、「会社員・公務員・団体職員」、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」が31.4%と他の障害区分より多くなっている。また、「働きたいとは思わない」は身体障害が37.9%、難病では30.6%となっている。

障害区分別 (上位3項目 + 「働きたいとは思わない」)

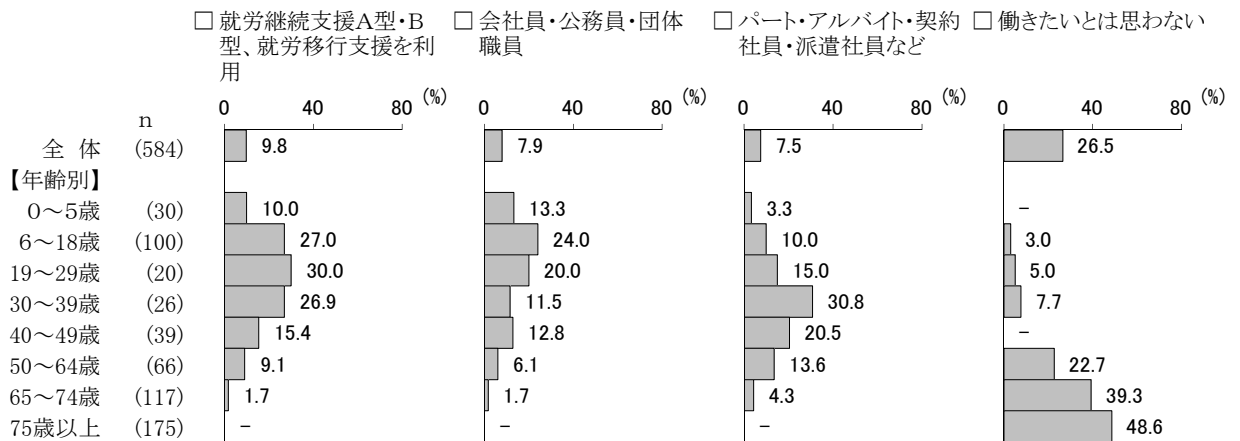


第2章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」は6歳から39歳までの年齢で2割から3割台、「会社員・公務員・団体職員」は6歳から29歳までの年齢で2割台と多い。また、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」は30～39歳が30.8%、40～49歳が20.5%と多くなっている。

なお、「働きたいとは思わない」は50歳以上の年齢で多く、50～64歳が22.7%、65～74歳が39.3%、75歳以上が48.6%となっている。

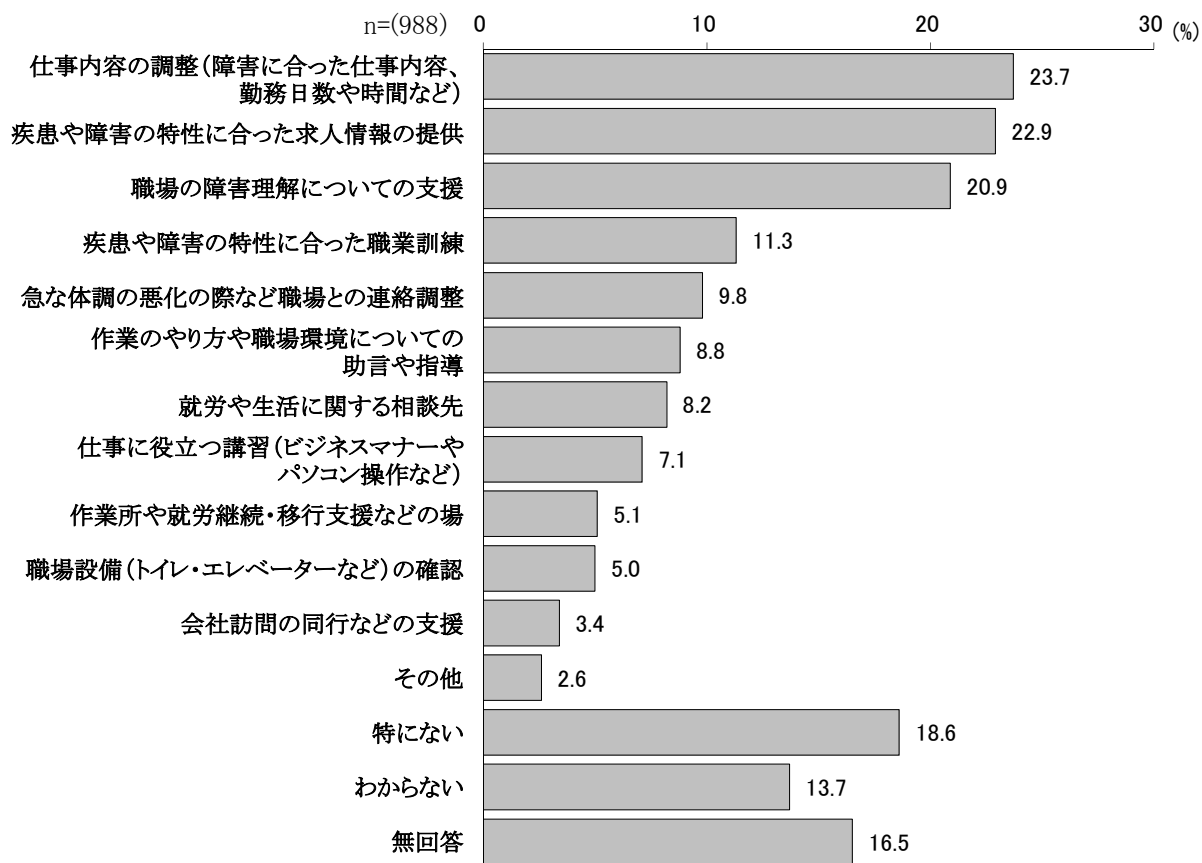
年齢別（上位3項目＋「働きたいとは思わない」）



(5) 就労がしやすくなるための支援内容

問22 特にどのような支援があったら働きやすいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

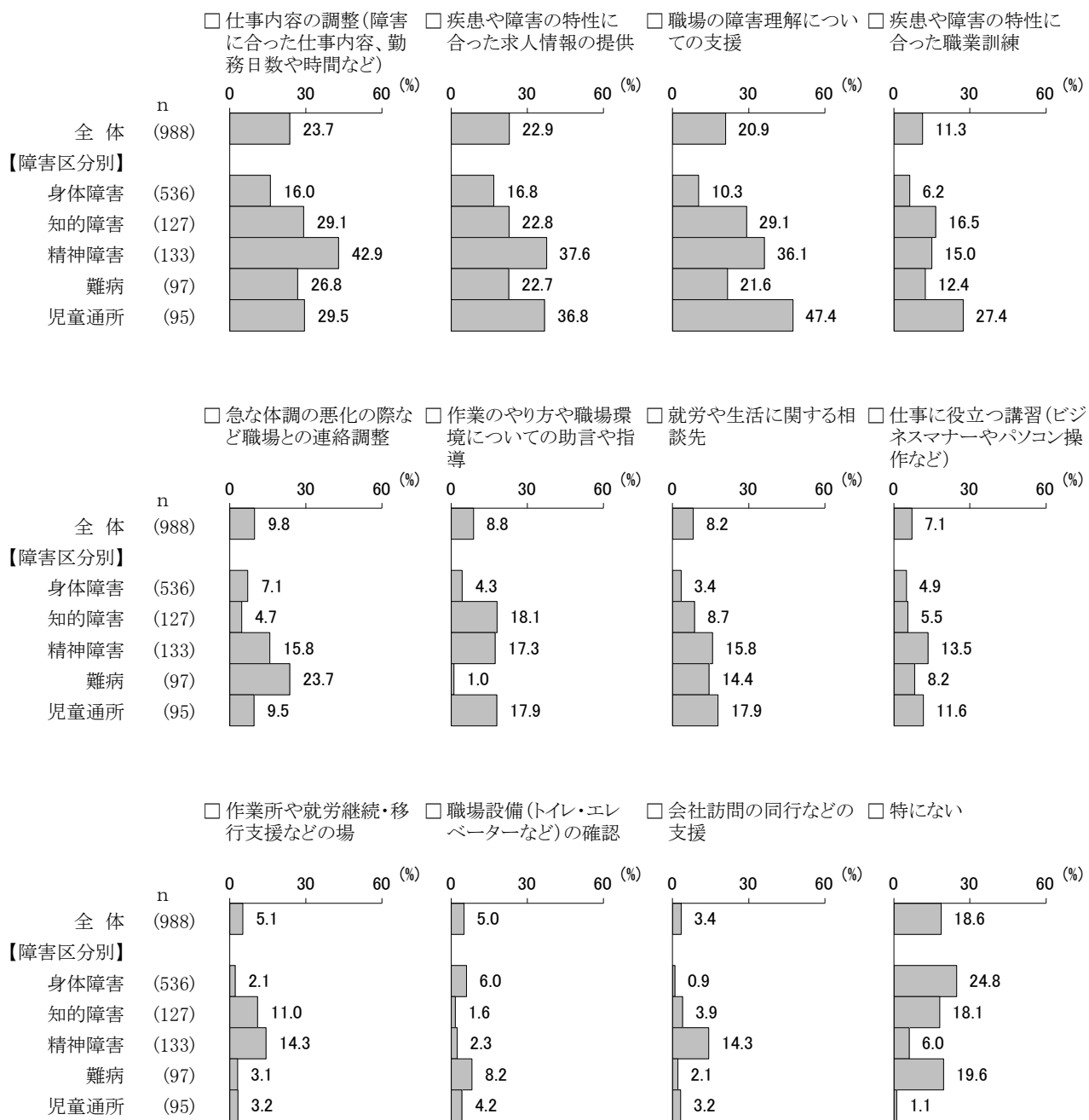


就労がしやすくなるための支援は、「仕事内容の調整（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」(23.7%)、「疾患や障害の特性に合った求人情報の提供」(22.9%)、「職場の障害理解についての支援」(20.9%)が2割台となっている。

第2章 調査結果の詳細

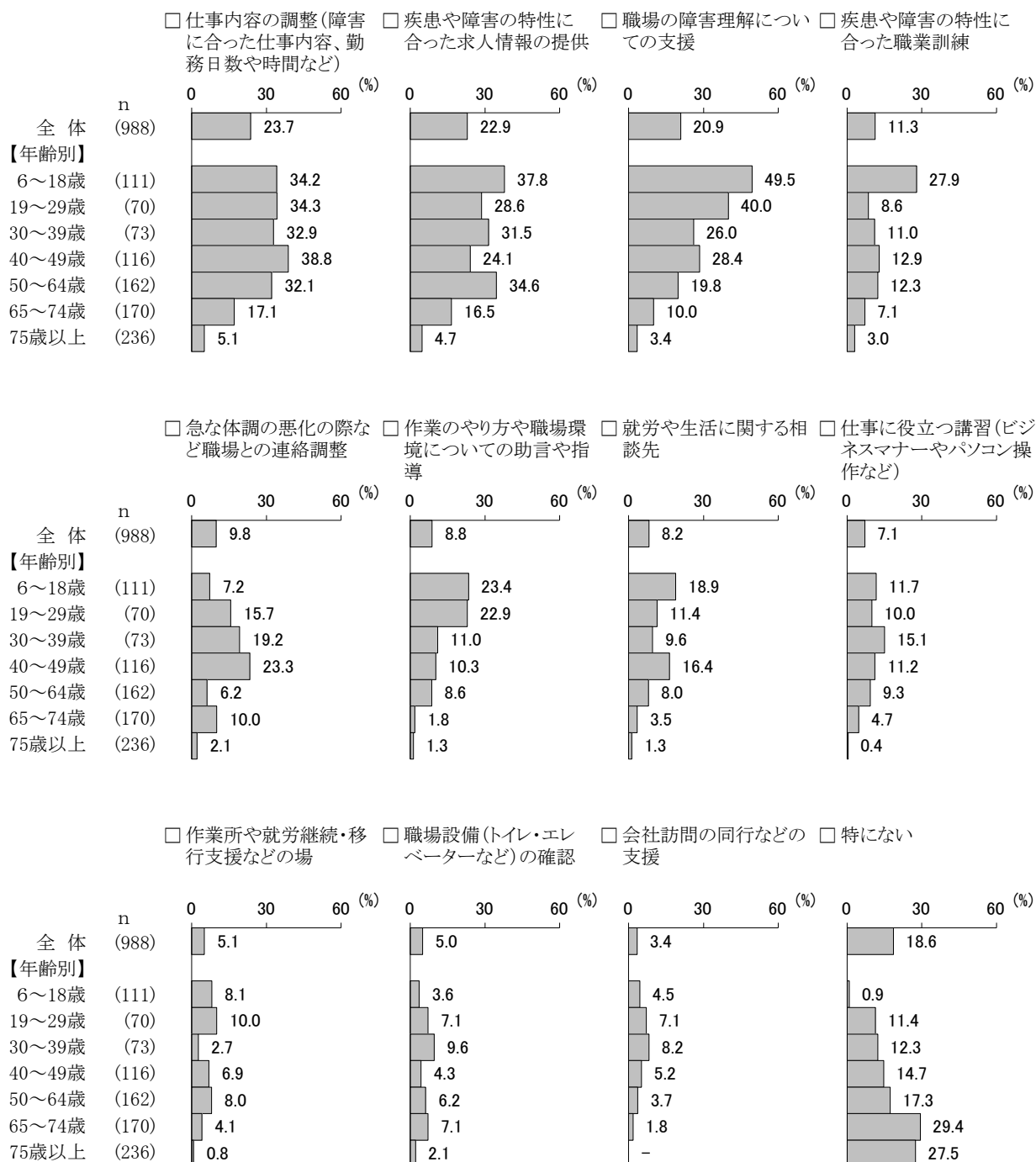
障害区別にみると、「仕事内容の調整（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」、「疾患や障害の特性に合った求人情報の提供」、「職場の障害理解についての支援」は身体障害を除く区分で多くあげられており、特に精神障害では「仕事内容の調整（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」が42.9%、児童通所では「職場の障害理解についての支援」が47.4%と4割を超えている。この他、児童通所では「疾患や障害の特性に合った職業訓練」、難病では「急な体調の悪化の際など職場との連絡調整」が2割台と他の障害区分より多くなっている。

障害区分別（上位11項目+「特にない」）



年齢別にみると、「仕事内容の調整（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」、「疾患や障害の特性に合った求人情報の提供」、「職場の障害理解についての支援」の上位3項目は概ね6歳から64歳まで共通して多く、65歳以上では少なくなっている。「疾患や障害の特性に合った職業訓練」は6～18歳が27.9%、「作業のやり方や職場環境についての助言や指導」は6歳から29歳が2割台、「急な体調の悪化の際など職場との連絡調整」は30歳から49歳が2割前後となっている。また、「特にない」は年齢が上がるとともに多くなる傾向がみられ、65歳以上は2割台となっている。

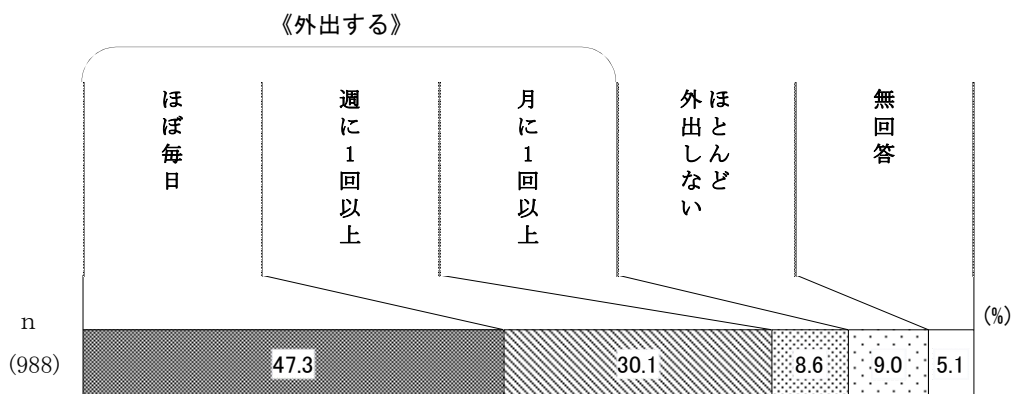
年齢別（上位11項目+「特にない」）



8 趣味の活動や地域の活動について

(1) 外出頻度

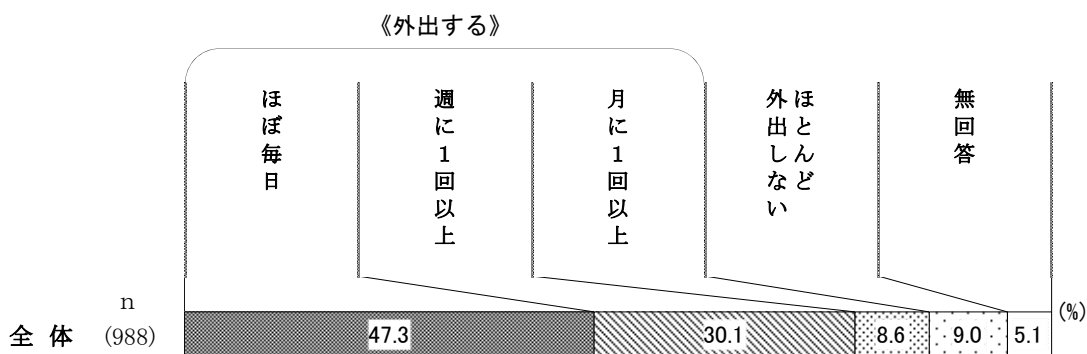
問23 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)



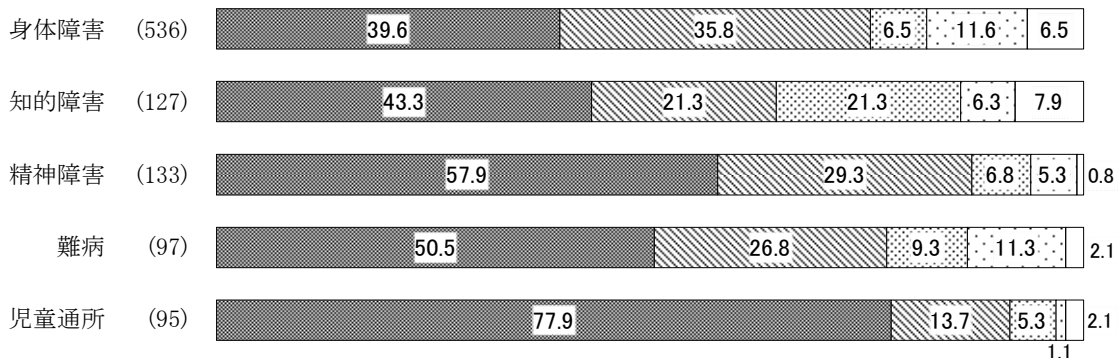
普段の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」が47.3%、「週に1回以上」が30.1%、「月に1回以上」が8.6%となっており、少なくとも月1回以上《外出する》は86.0%となっている。

障害区分別にみると、「ほぼ毎日」は児童通所が77.9%、精神障害や難病は5割台となっている。《外出する》でみると、いずれの障害区分でも8割以上と多くなっている。

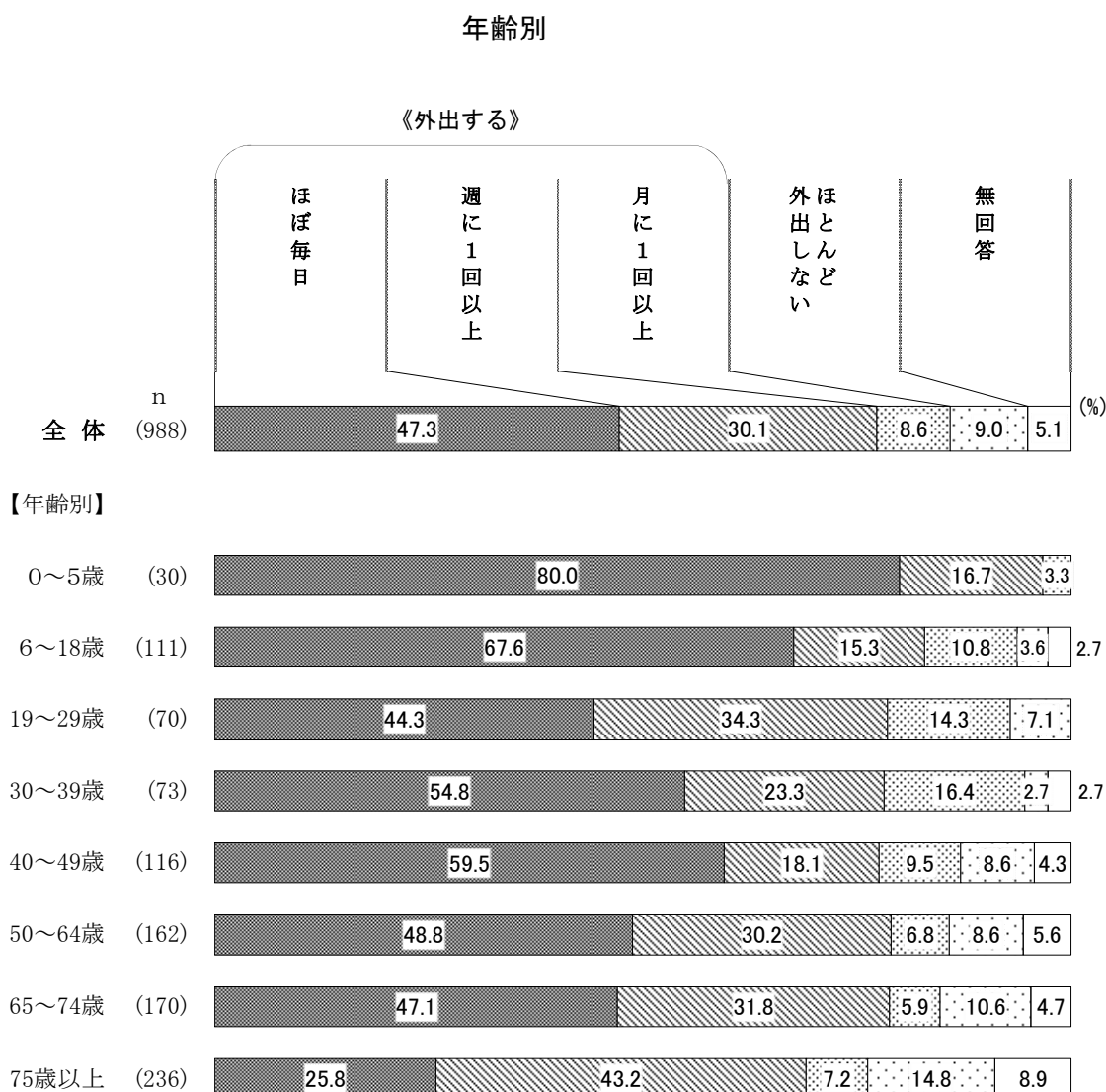
障害区分別



【障害区分別】

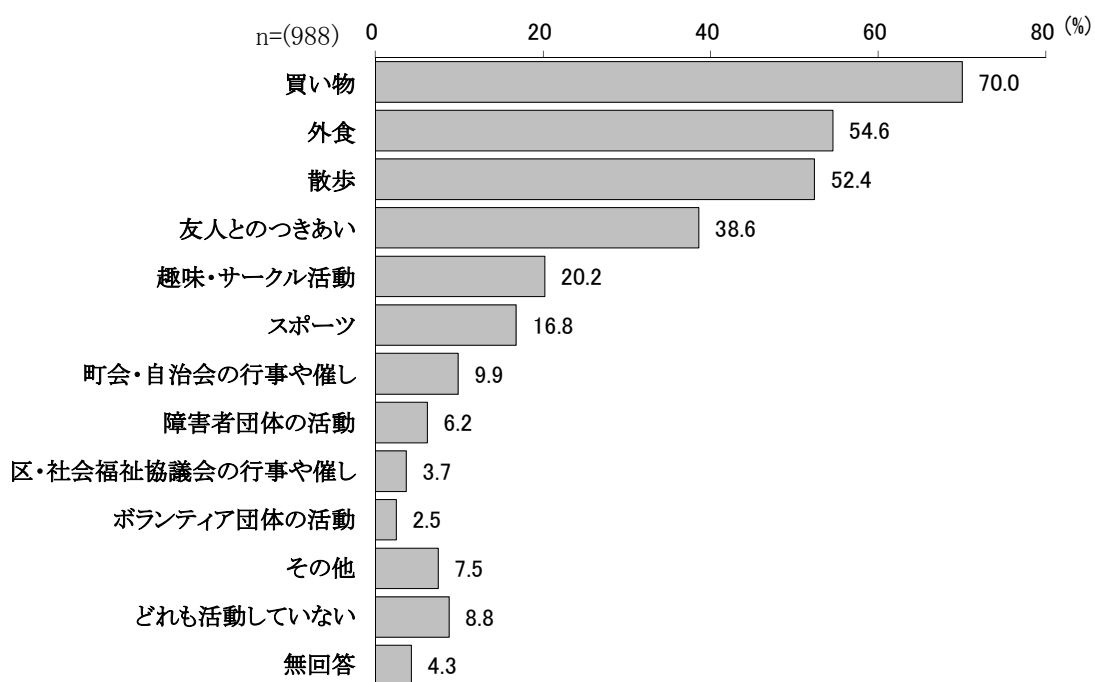


年齢別にみると、「ほぼ毎日」は0歳から18歳までが6割以上、30歳から49歳は5割台となっている。少なくとも月1回以上《外出する》でみると、0歳から74歳までの年齢では8割以上、75歳以上は76.2%となっている。



(2) 最近1年間に行った活動

問24 最近1年間に、どのような活動をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

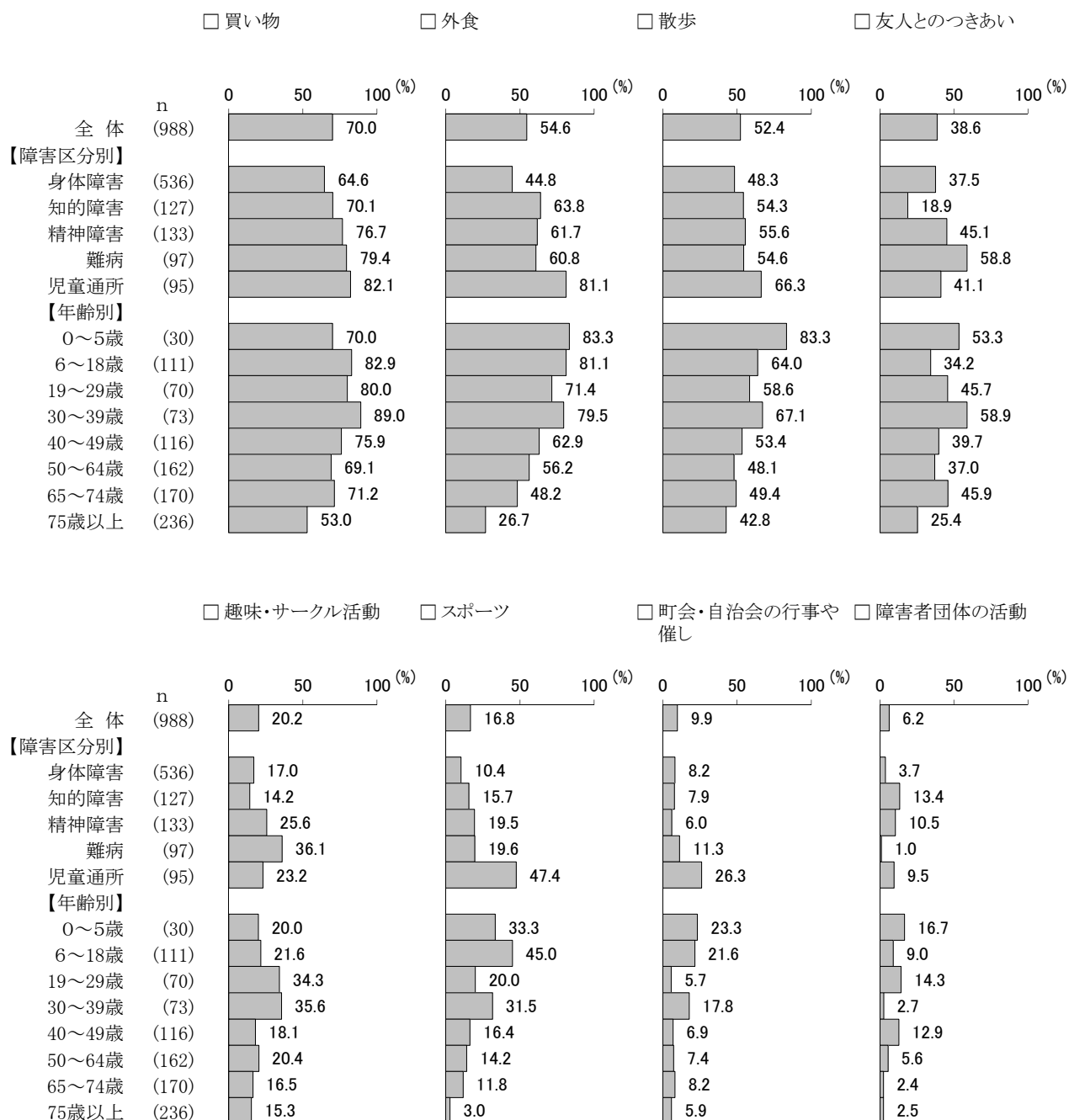


最近1年間に行った活動は、「買い物」が70.0%と最も多く、以下、「外食」(54.6%)、「散歩」(52.4%)が5割台、「友人とのつきあい」が38.6%、「趣味・サークル活動」が20.2%と続いている。

障害区分別にみると、「買い物」、「外食」、「散歩」はいずれの障害区分でも多くなっている。難病では「友人とのつきあい」(58.8%)、児童通所では「スポーツ」(47.4%)が他の区分より多くなっている。一方、「友人とのつきあい」は知的障害では18.9%と少ない。

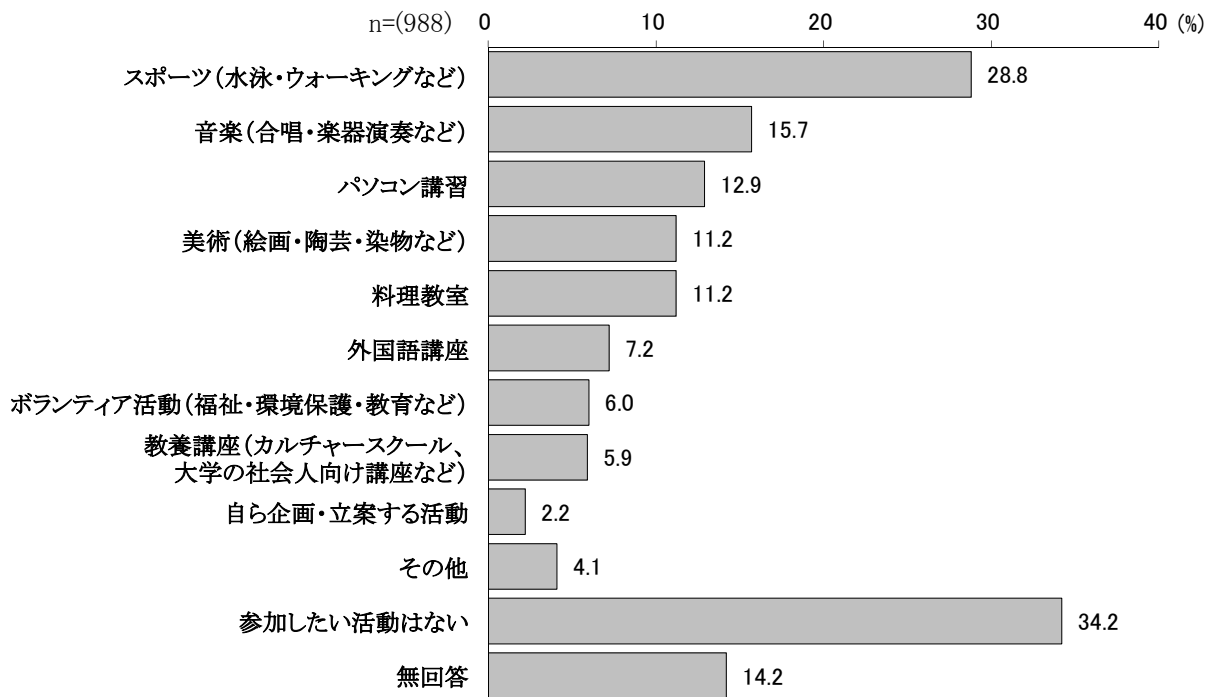
年齢別にみると、「買い物」、「外食」、「散歩」は各年齢で多くなっている他、「趣味・サークル活動」は19歳から39歳、「スポーツ」は6～18歳が他の区分より多くなっており、「町会・自治会の行事や催し」は0歳から18歳までが2割台となるなど、様々な活動に参加していることがうかがえる。

障害区分別、年齢別（上位8項目）



(3) 参加したい(参加中も含む)活動

問25 あなたが参加したい活動(現在参加している活動も含む)はありますか。
(あてはまるものすべてに○)



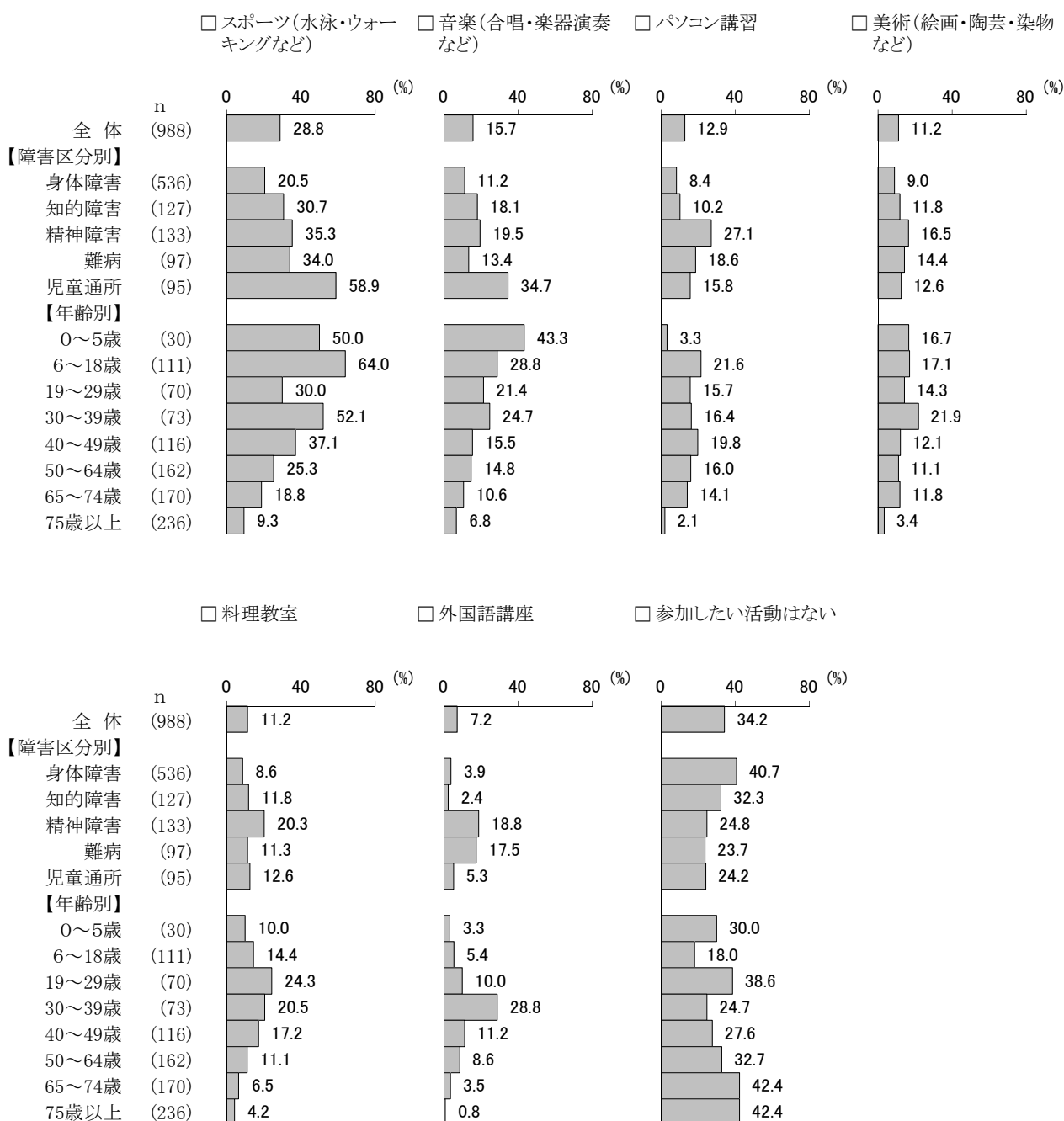
参加したい活動(参加中も含む)は、「スポーツ(水泳・ウォーキングなど)」が28.8%と特に多く、これに「音楽(合唱・楽器演奏など)」(15.7%)、「パソコン講習」(12.9%)、「美術(絵画・陶芸・染物など)」、「料理教室」(11.2%)が1割台と続いている。

なお、「参加したい活動はない」は34.2%と多くなっている。

障害区分別にみると、児童通所では「スポーツ（水泳・ウォーキングなど）」が58.9%、「音楽（合唱・楽器演奏など）」が34.7%と多くなっている。精神障害では「パソコン講習」（27.1%）、「料理教室」（20.3%）が比較的多くあげられている。

年齢別にみると、「スポーツ（水泳・ウォーキングなど）」は6～18歳が64.0%、0～5歳、30～39歳でも5割以上と多くなっている。「音楽（合唱・楽器演奏など）」は0～5歳が43.3%と年齢が高くなるほど少なくなる。「パソコン講習」、「美術（絵画・陶芸・染物など）」は6歳から74歳までの年齢にかけて一定の参加意向が示されている。「料理教室」は19歳から39歳が2割台、「外国語講座」は30～39歳が28.8%となっている。

障害区分別、年齢別（上位6項目＋「参加したい活動はない」）

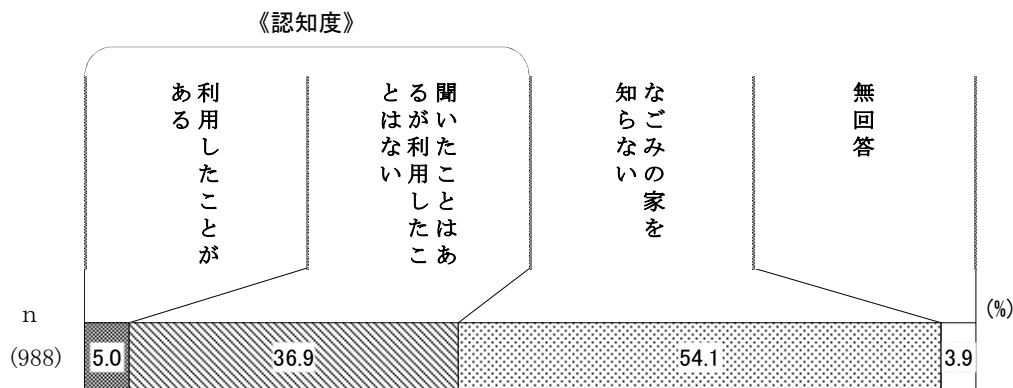


(4) 「なごみの家」の利用状況

問26 あなたは、「なごみの家」を利用したことがありますか。(1つに○)

* 「なごみの家」とは？

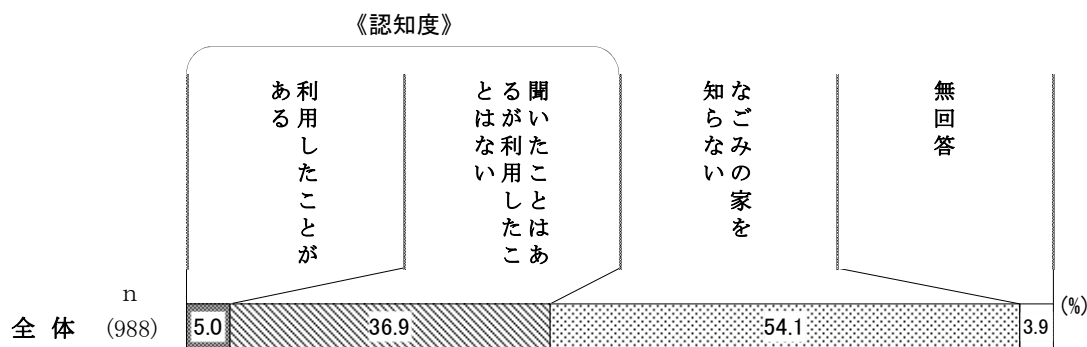
年齢や障害の有無に関わらず、誰もが相談でき、気軽に集えるまちの福祉拠点として、区内9カ所（北小岩、小岩、鹿骨、瑞江、松江北、一之江、長島桑川、葛西南部、小松川平井）に開設しています。



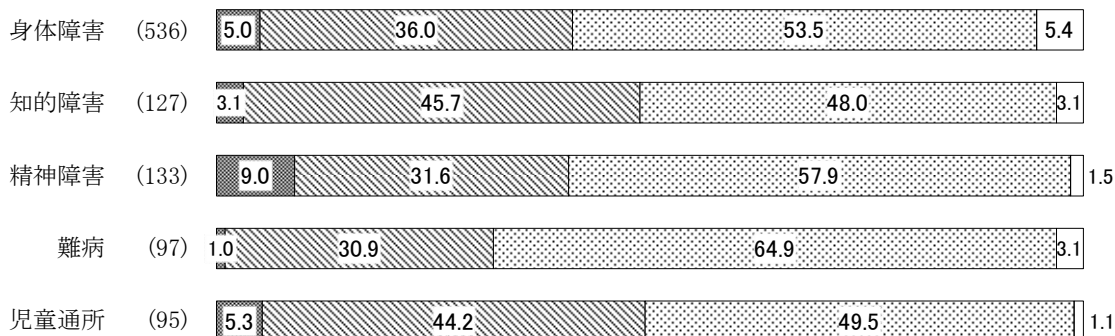
なごみの家を「利用したことがある」は5.0%、「聞いたことはあるが利用したことはない」は36.9%、両者をあわせた《認知度》は41.9%となっている。

障害区別にみると、《認知度》は知的障害が48.8%、児童通所が49.5%と5割弱となっており、難病は31.9%となっている。

障害区分別

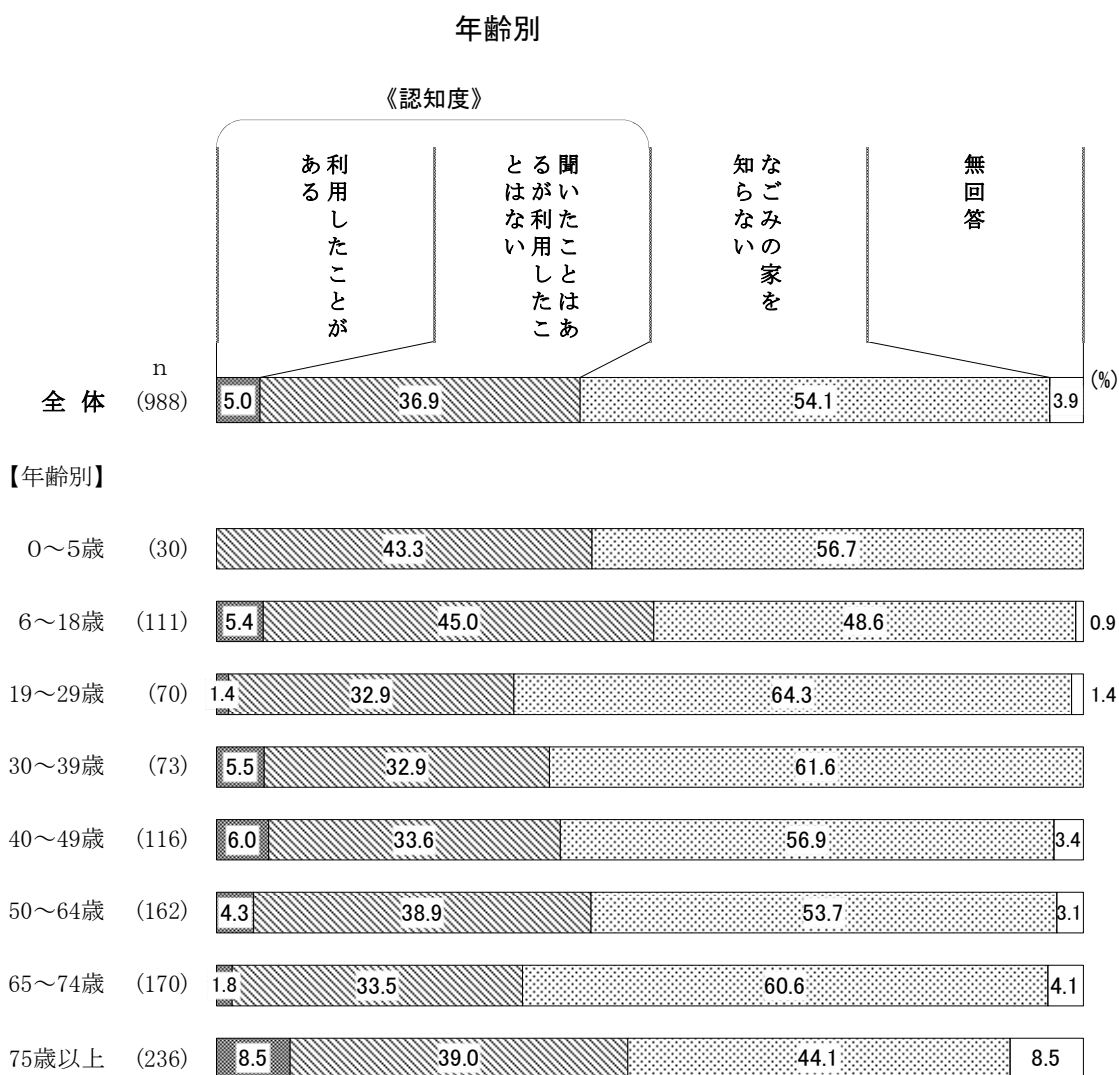


【障害区分別】



年齢別にみると、《認知度》は6～18歳が50.4%、75歳以上が47.5%、0～5歳が43.3%、50～64歳が43.2%と4割以上となっている。

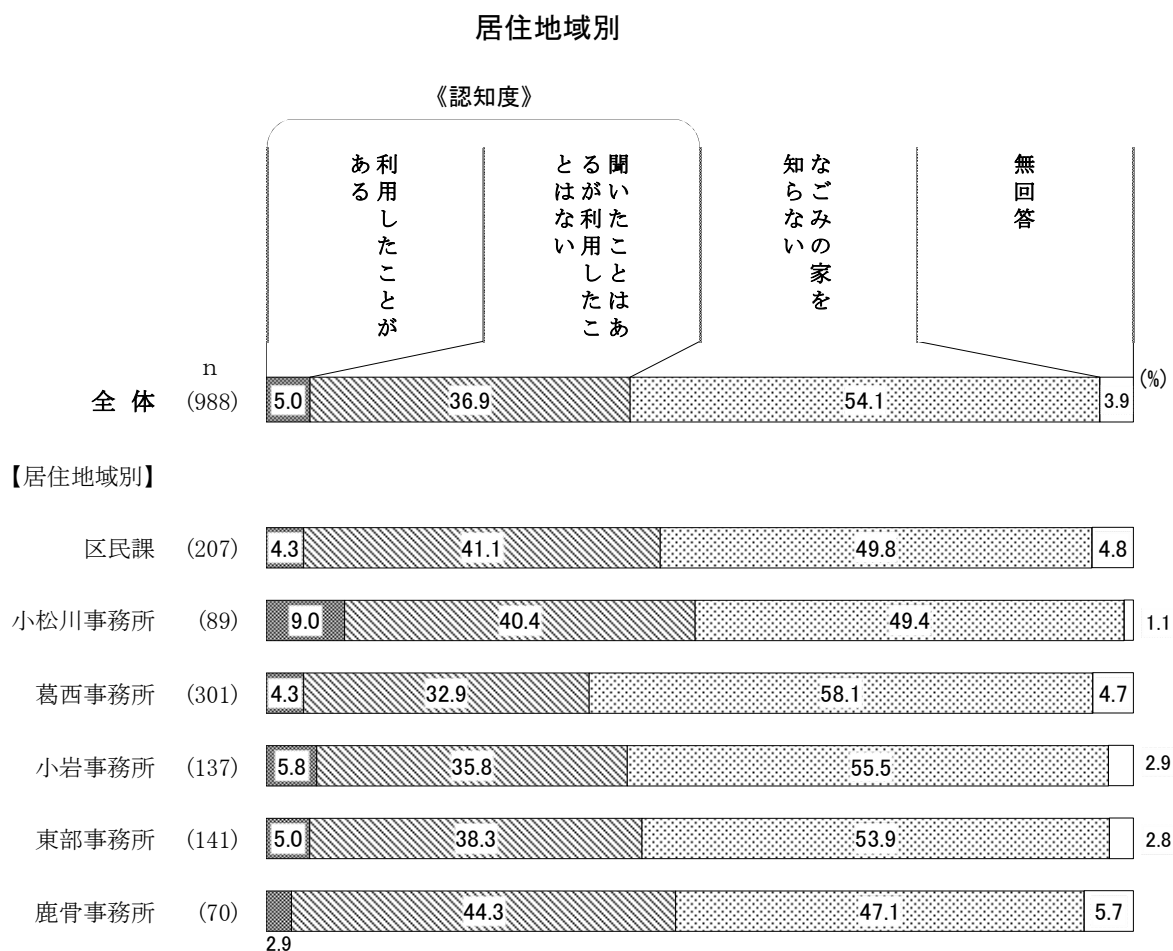
なお、「なごみの家を知らない」は19歳から39歳、65～74歳が6割台となっている。



第2章 調査結果の詳細

居住地域別にみると、《認知度》は小松川事務所（49.4%）、鹿骨事務所（47.2%）、区民課（45.4%）、東部事務所（43.3%）、小岩事務所（41.6%）が4割台となっている。

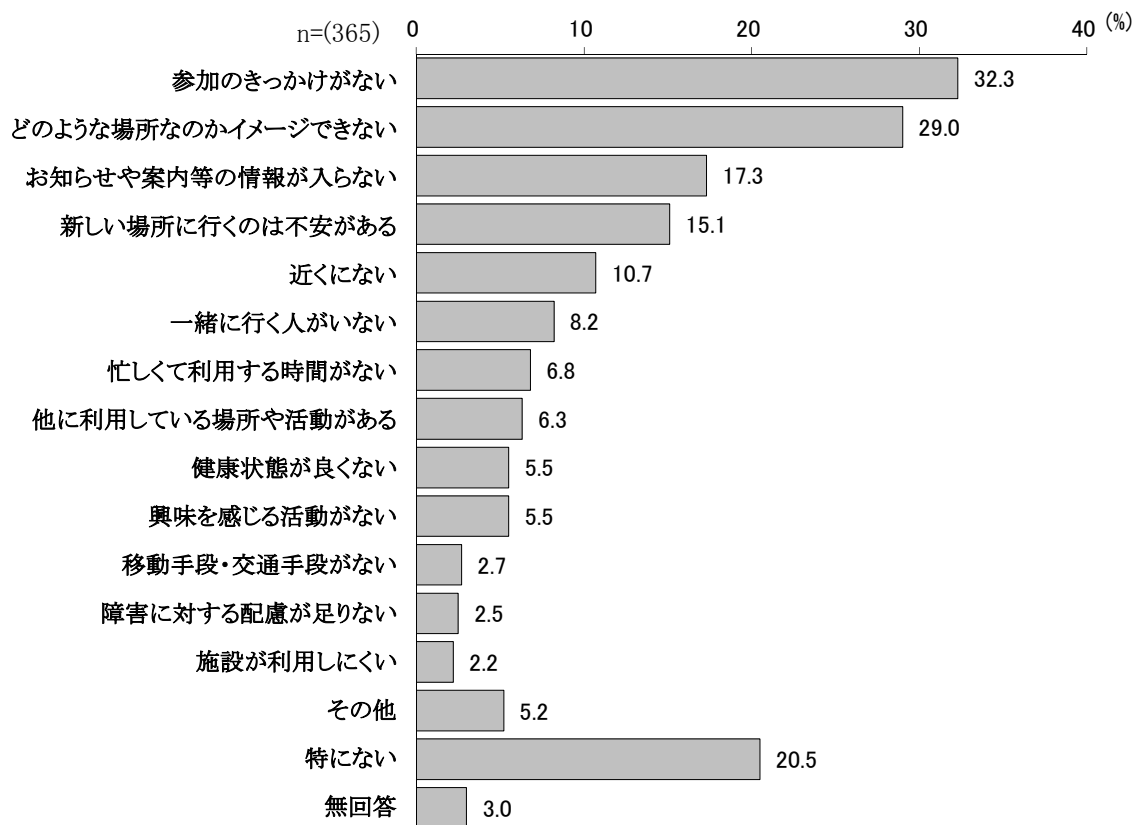
なお、「なごみの家知らない」は葛西事務所（58.1%）、小岩事務所（55.5%）、東部事務所（53.9%）が5割台となっている。



(5) なごみの家の未利用理由

【問26で、「聞いたことはあるが利用したことはない」と回答した方にお聞きします。】

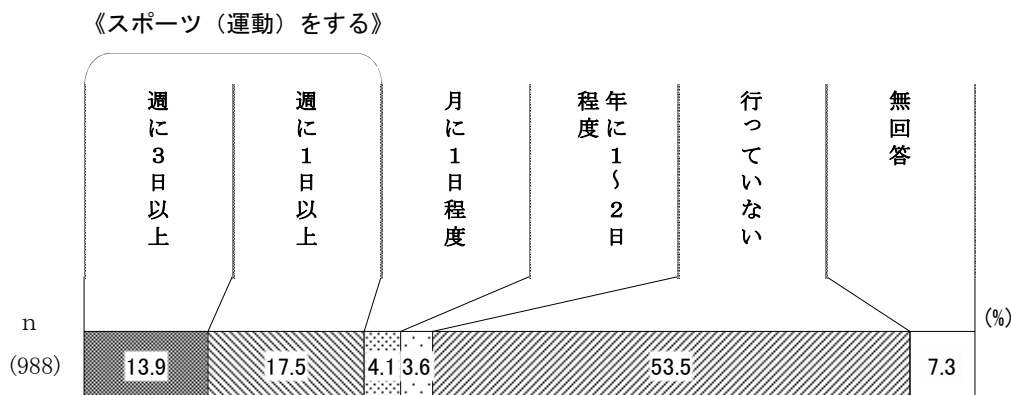
問26-1 なごみの家を利用しない理由はなんですか。(主にあてはまるもの3つまでに○)



なごみの家を利用しない理由は、「参加のきっかけがない」が32.3%と多く、「どのような場所なのかイメージできない」が29.0%と続いている。この他、「お知らせや案内等の情報が入らない」(17.3%)、「新しい場所に行くのは不安がある」(15.1%)、「近くにない」(10.7%)が1割台となっている。

(6) スポーツ（運動）の実施頻度

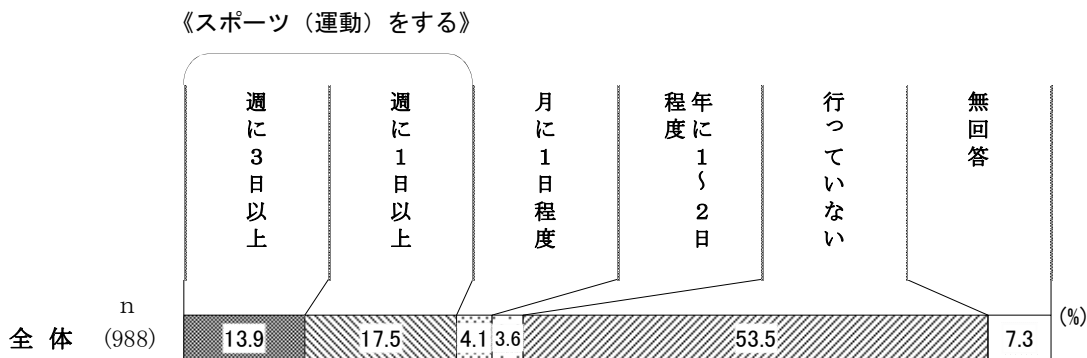
問27 あなたは過去1年間、どの程度スポーツ（運動）を行っていますか。（1つに○）



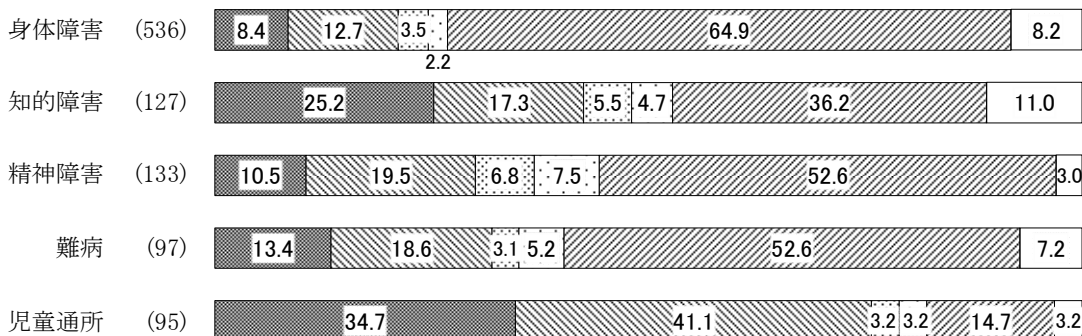
過去1年間のスポーツ（運動）の実施頻度は、「週に3日以上」が13.9%、「週に1日以上」が17.5%となっており、少なくとも週に1日以上《スポーツ（運動）をする》は31.4%となっている。一方、「行っていない」は53.5%となっている。

障害区別にみると、「週に3日以上」は児童通所が34.7%、知的障害が25.2%と多くなっている。児童通所では「週に1日以上」も41.1%と多く、《スポーツ（運動）をする》は75.8%となっている。一方、「行っていない」は身体障害が64.9%、精神障害と難病は52.6%と多くなっている。

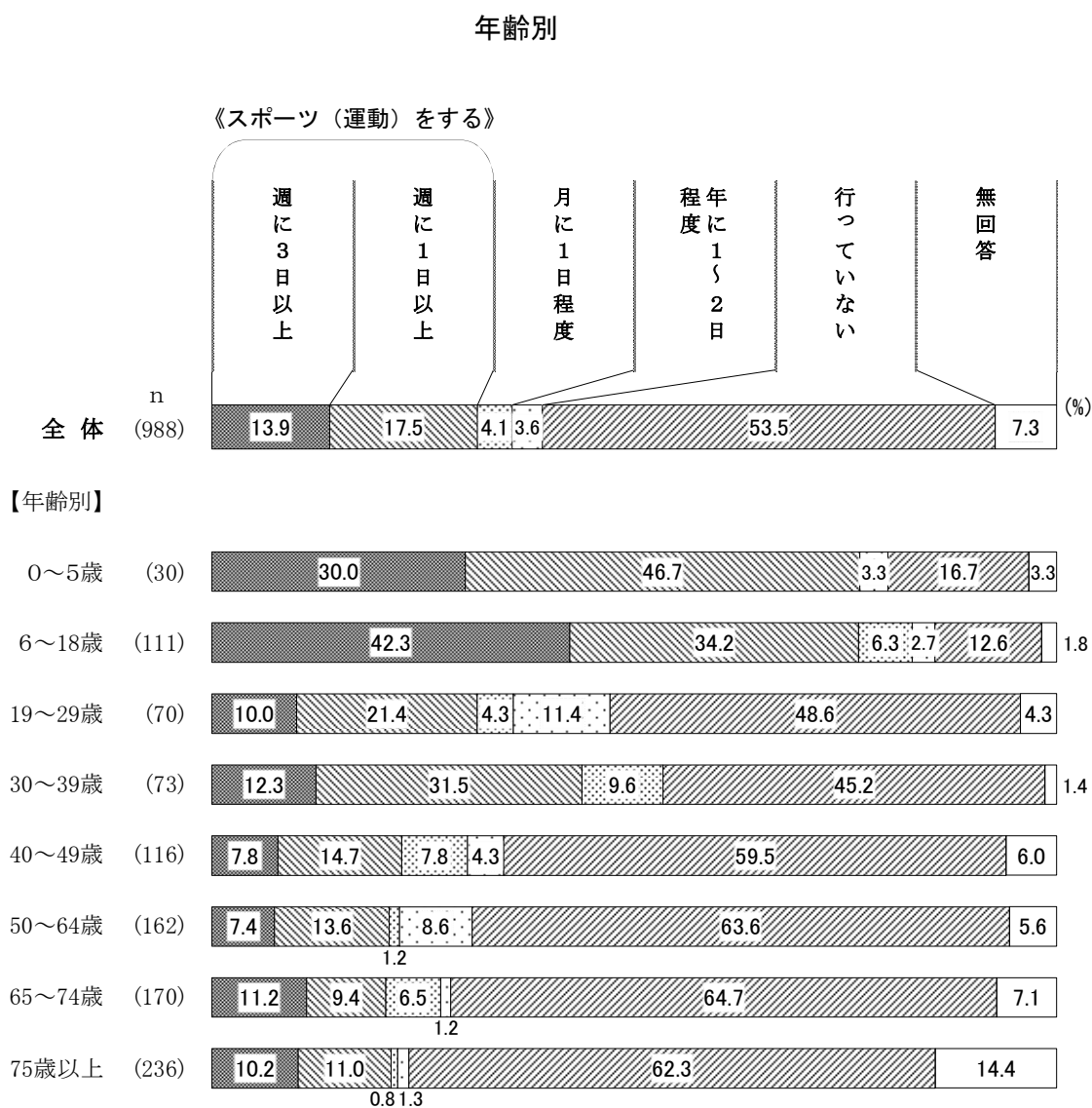
障害区分別



【障害区分別】

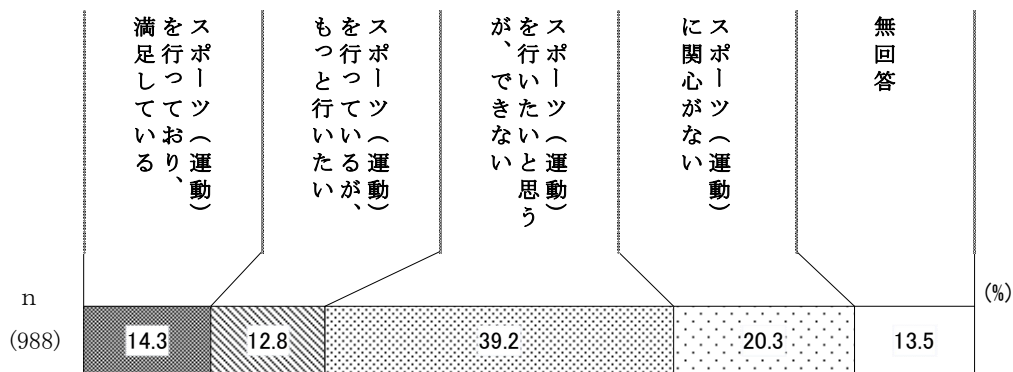


年齢別にみると、「週に3日以上」は0歳から18歳までの年齢で3割以上となっており、「スポーツ(運動)をする」では19～29歳が31.4%、30～39歳が43.8%、40歳以上の年齢では2割程度となっている。



(7) スポーツ（運動）に対する考え

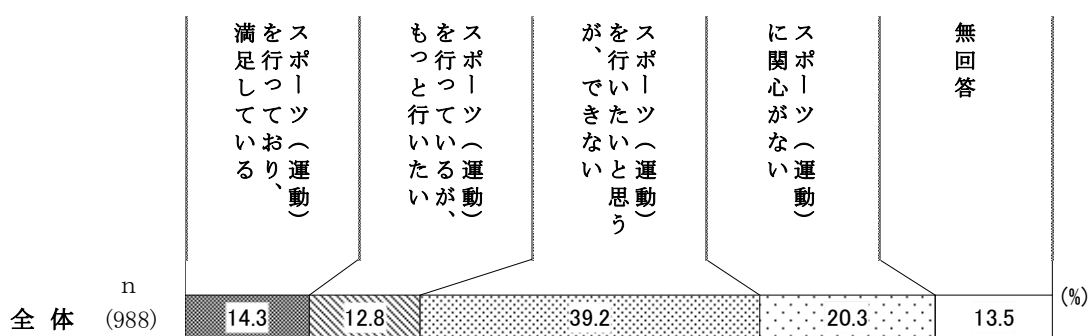
問28 あなたのスポーツ（運動）に対する意識について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（1つに○）



スポーツ（運動）に対する考えは、「スポーツ（運動）を行っており、満足している」は14.3%、「スポーツ（運動）を行っているが、もっと行きたい」は12.8%となっている。また、「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できない」が39.2%と多くなっている。

障害区別にみると、児童通所は「スポーツ（運動）を行っており、満足している」が42.1%、「スポーツ（運動）を行っているが、もっと行きたい」が29.5%と多くなっている。「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できない」は身体障害、精神障害、難病が4割台となっている。

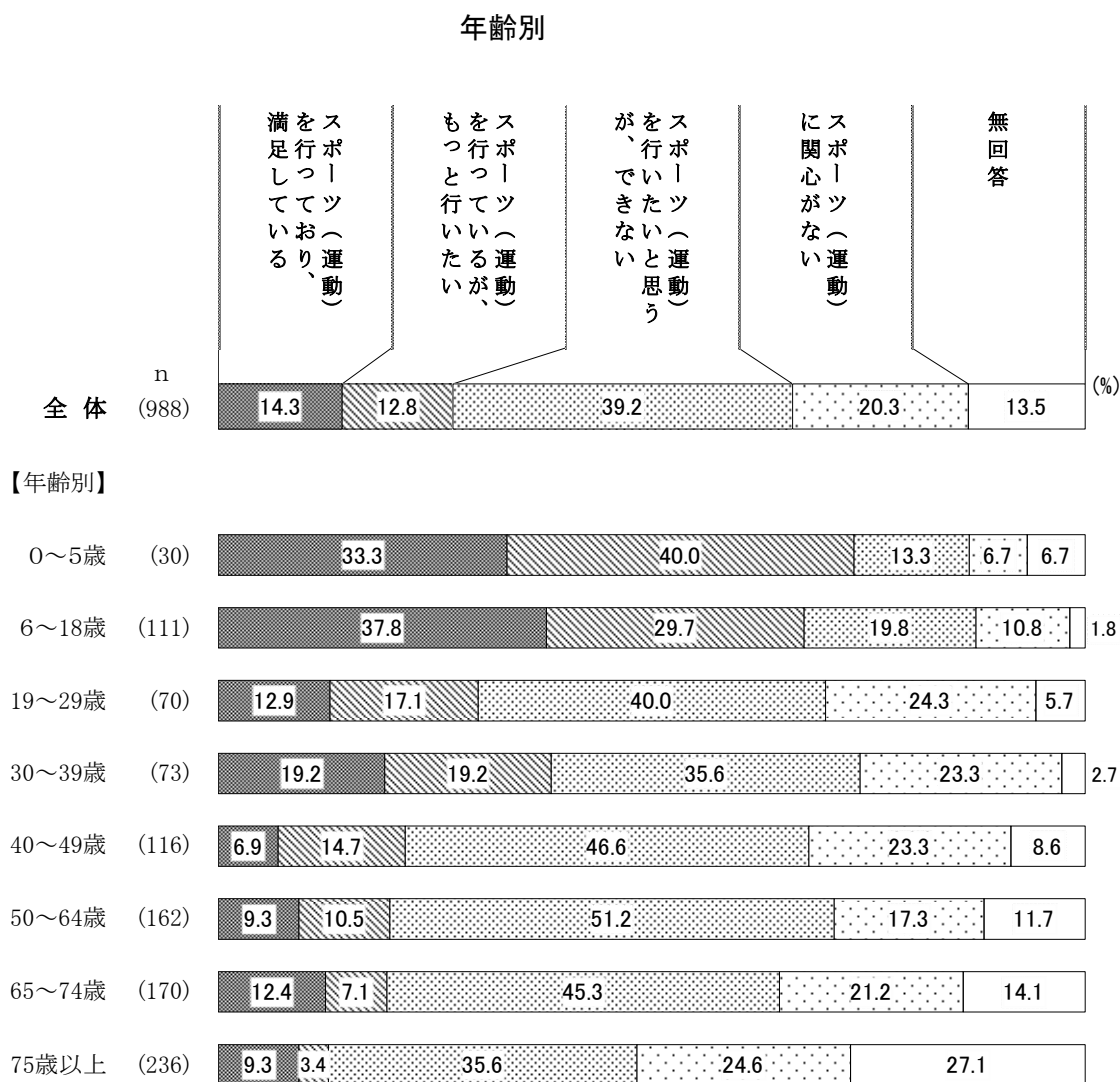
障害区分別



【障害区分別】

障害区別	満足している (%)	もっと行きたい (%)	行いたいと思うが、できない (%)	スポーツ（運動）に関心がない (%)	無回答 (%)
身体障害 (536)	9.9	7.3	42.4	23.3	17.2
知的障害 (127)	15.0	21.3	29.9	21.3	12.6
精神障害 (133)	13.5	14.3	47.4	19.5	5.3
難病 (97)	11.3	13.4	49.5	12.4	13.4
児童通所 (95)	42.1	29.5	11.6	11.6	5.3

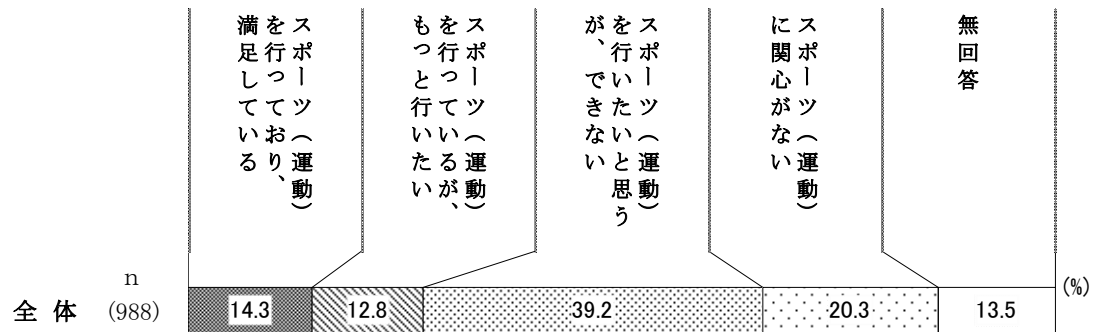
年齢別にみると、「スポーツ（運動）を行っており、満足している」は0歳から18歳が3割台と多く、「スポーツ（運動）を行っているが、もっと行いたい」は0～5歳が40.0%、6～18歳が29.7%と多くなっている。一方、「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できないと思う」は19～29歳と40歳から74歳の年齢にかけて4割以上となっている。



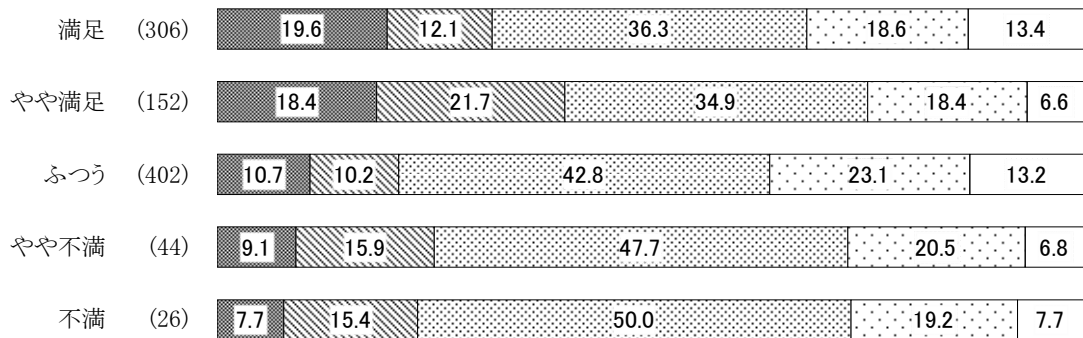
第2章 調査結果の詳細

江戸川区での暮らしの満足度別（問35）にみると、「スポーツ（運動）を行っており、満足している」は満足度が高い層ほど多く、「満足」は19.6%、「やや満足」は18.4%となっている。一方、満足度が低い層ほど「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できない」が多くなっている。

江戸川区での暮らしの満足度別（問35）

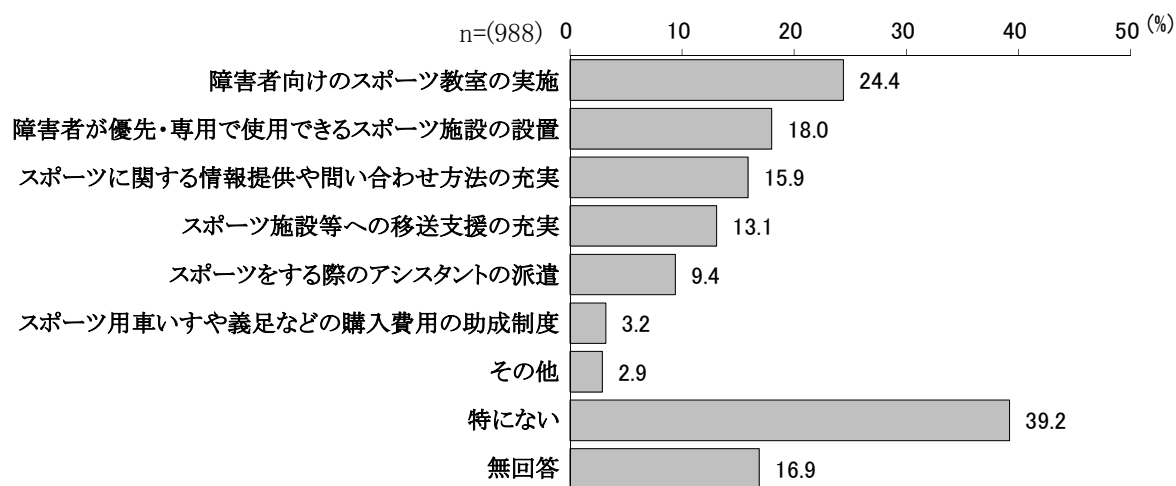


【暮らしの満足度別】



(8) スポーツ（運動）を行ううえで、必要な行政の支援

問29 あなたがスポーツ（運動）を行ううえで、必要と考える行政の支援は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）



スポーツ（運動）を行ううえで、必要な行政の支援は、「障害者向けのスポーツ教室の実施」が24.4%となっており、「障害者が優先・専用で使用できるスポーツ施設の設置」（18.0%）、「スポーツに関する情報提供や問い合わせ方法の充実」（15.9%）、「スポーツ施設等への移送支援の充実」（13.1%）が1割台と続いている。

なお、「特にない」が39.2%と多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

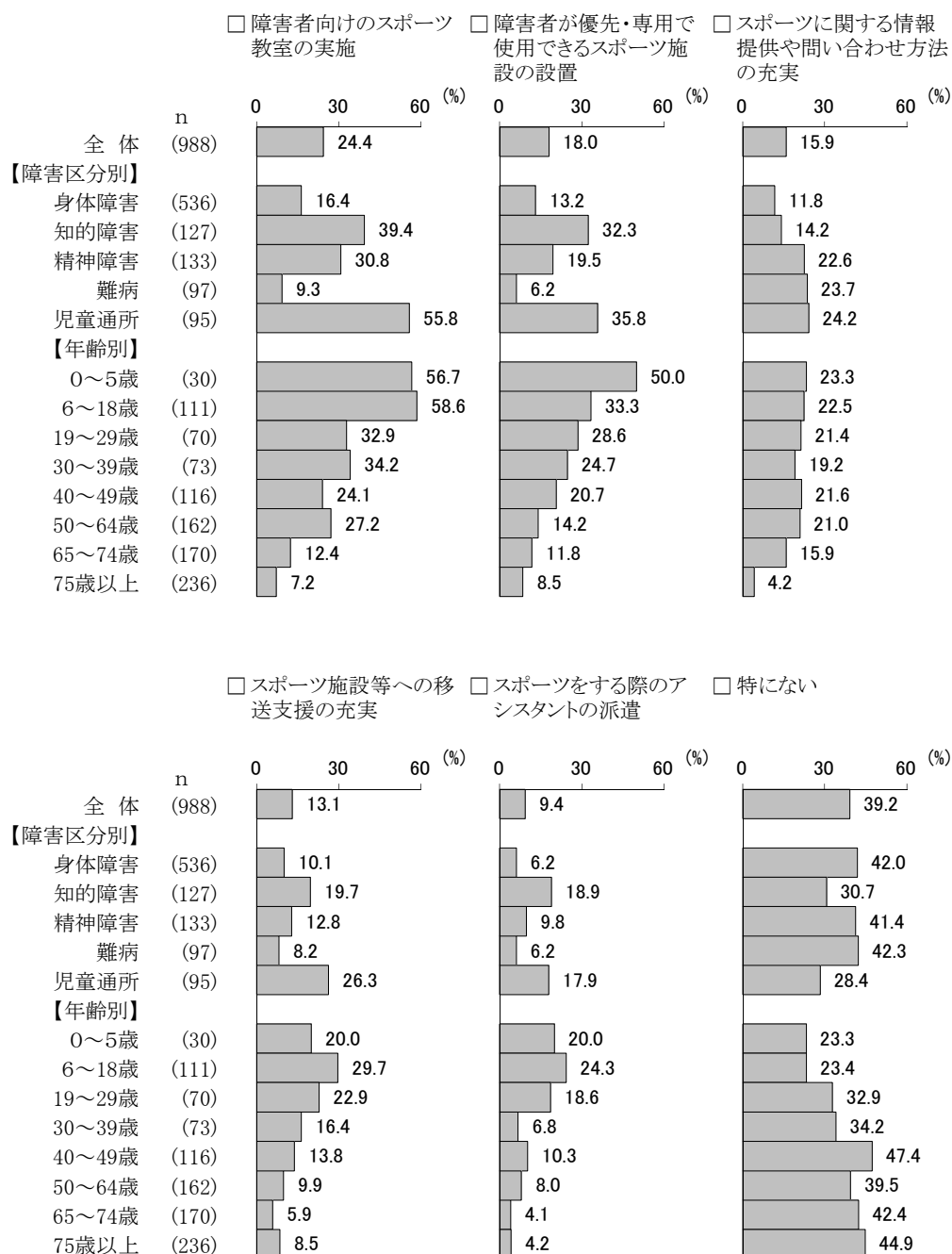
障害区別にみると、「障害者向けのスポーツ教室の実施」は児童通所が55.8%と多く、知的障害(39.4%)、精神障害(30.8%)は3割以上となっている。また、「障害者が優先・専用で利用できるスポーツ施設の設置」も知的障害(32.3%)、児童通所(35.8%)が3割以上と多くなっている。

なお、「特にない」は身体障害、精神障害、難病で4割以上となっている。

年齢別にみると、「障害者向けのスポーツ教室の実施」は0歳から18歳まで、「障害者が優先・専用で利用できるスポーツ施設の設置」は0～5歳が5割台と多く、以降は年齢が高くなるほど少なくなる。「スポーツに関する情報提供や問い合わせ方法の充実」は0歳から64歳までの年齢が2割前後と多くの年齢を通じた支援希望となっている。また、「スポーツ施設等への移送支援の充実」や「スポーツをする際のアシスタントの派遣」は0歳から29歳までの若年層を中心に比較的多くなっている。

なお、「特にない」は40歳以上で比較的多くなっている。

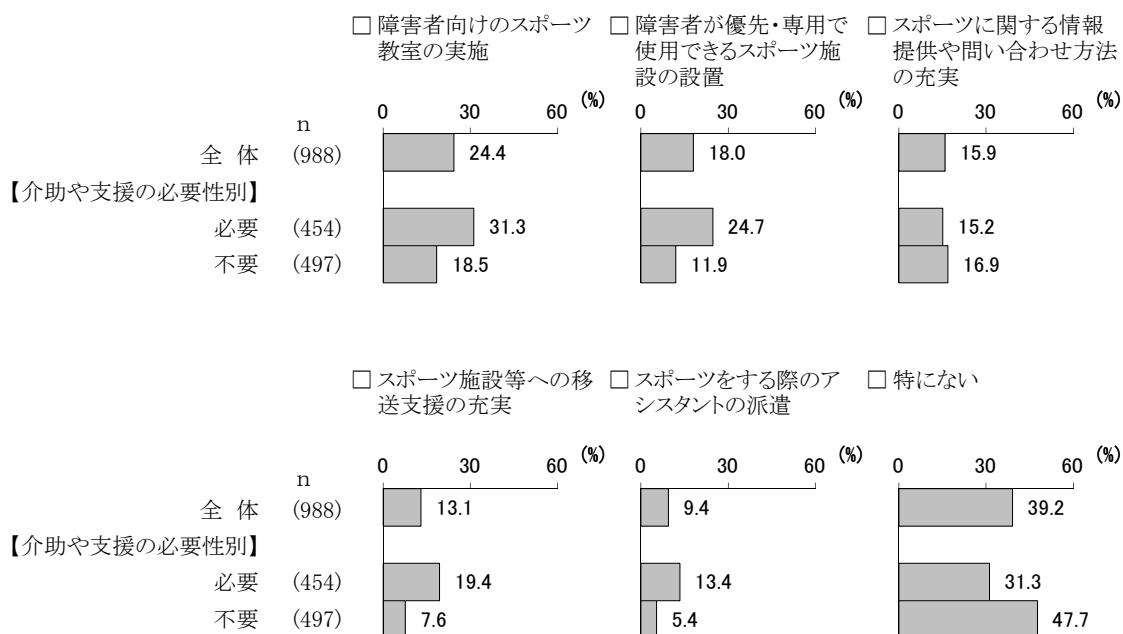
障害区分別、年齢別（上位5項目＋「特にない」）



介助や支援の必要性別（問10）にみると、日常の介助や支援を必要とする人はスポーツを行ううえでも行政の支援を求めており、「障害者向けのスポーツ教室の実施」が31.3%、「障害者が優先・専用で使用できるスポーツ施設の設置」が24.7%、「スポーツ施設等への移送支援の充実」が19.4%と多くなっている。

なお、「特にない」は日常の介助や支援を不要とする人で47.7%と多くなっている。

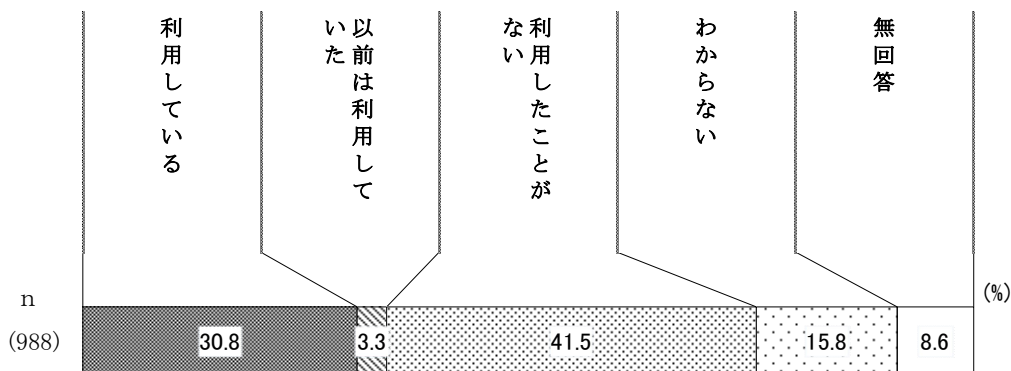
介助や支援の必要性別（問10）（上位5項目+「特にない」）



9 サービスの利用等について

(1) 障害福祉サービスの利用状況

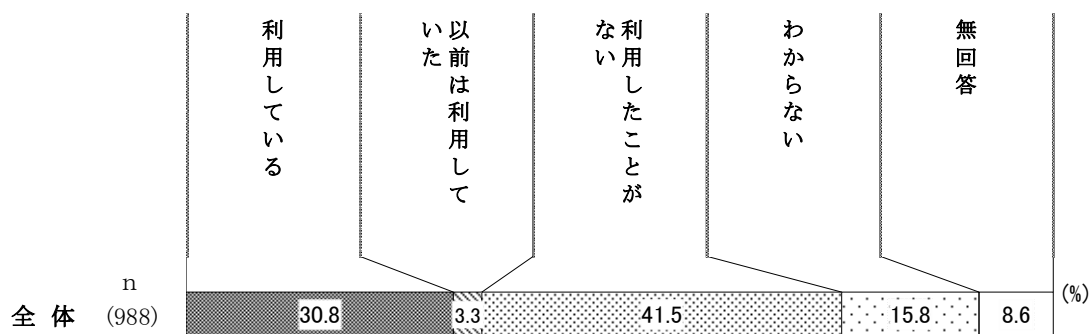
問30 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)



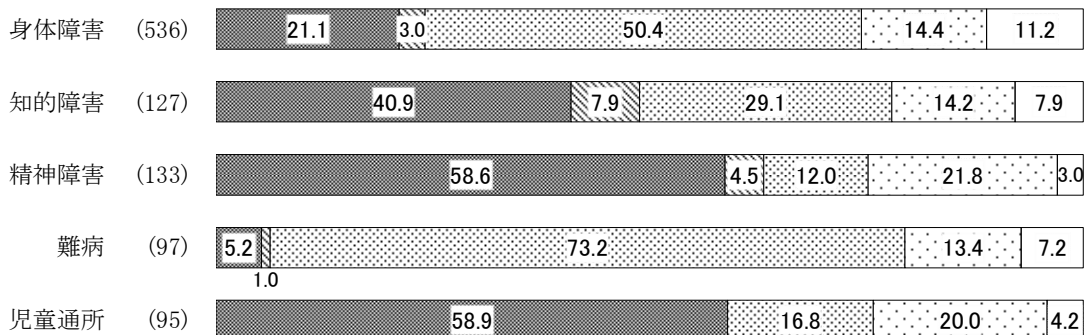
現在の障害福祉サービスの利用状況は、「利用している」が30.8%、「利用したことがない」が41.5%となっている。

障害区分別にみると、「利用している」は精神障害と児童通所が5割台と多く、知的障害は40.9%となっている。一方、「利用したことがない」は難病が73.2%を占め、身体障害は50.4%となっている。

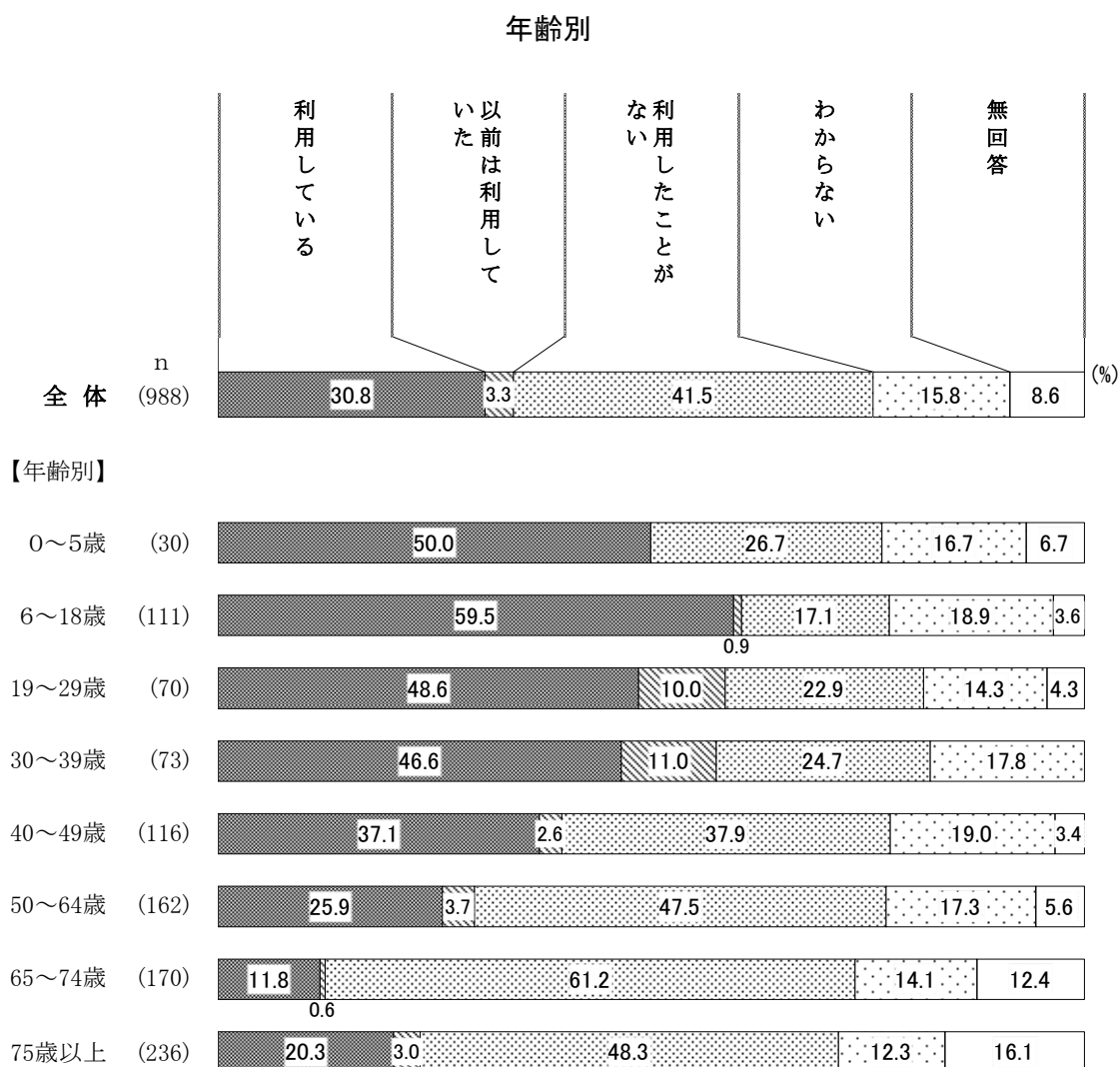
障害区分別



【障害区分別】

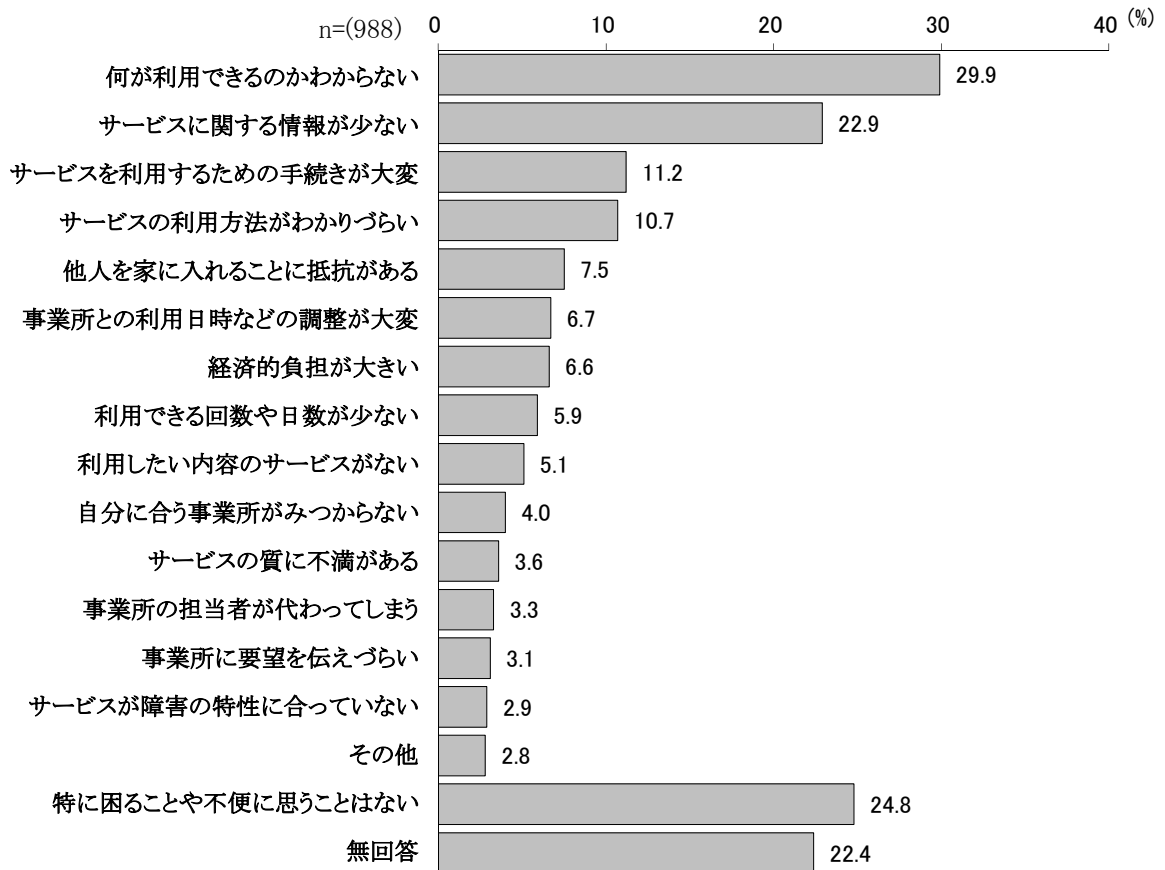


年齢別にみると、「利用している」は6～18歳の59.5%を中心に、年齢が高くなるにつれて減少している。また、19歳から39歳の年齢にかけては「以前は利用していた」が1割台となっている。



(2) 障害福祉サービス利用時等の困り事や不便

問31 障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思ったりすることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



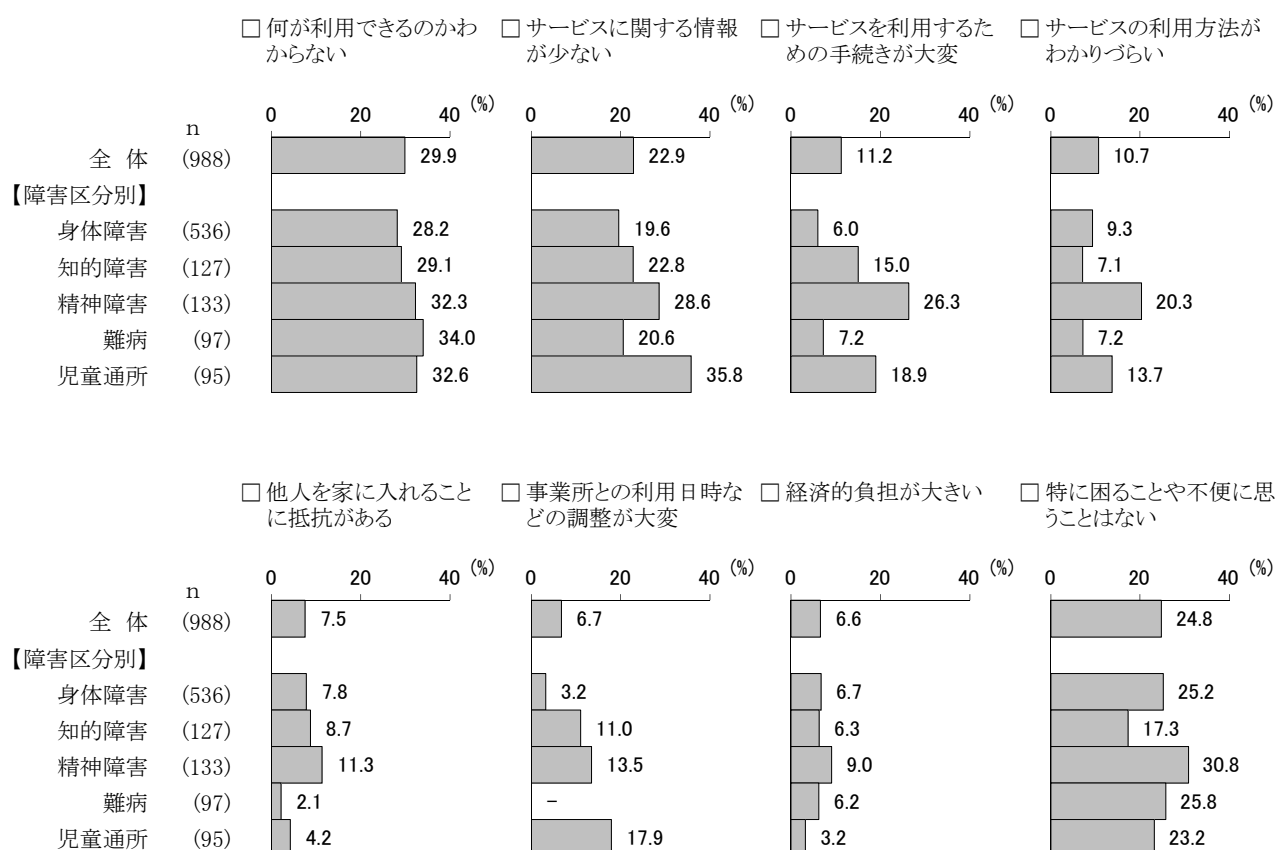
障害福祉サービス利用時等の困り事や不便は、「何が利用できるのかわからない」が29.9%と多く、これに「サービスに関する情報が少ない」が22.9%と続いている。

なお、「特に困ることや不便に思わない」は24.8%となっている。

障害区別にみると、いずれの障害区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。特に児童通所では「サービスに関する情報が少ない」(35.8%)が多くなっている。精神障害では「サービスを利用するための手続きが大変」(26.3%)、「サービスの利用方法がわかりづらい」(20.3%)が2割台と他の障害区分より多い他、「他人を家に入れることに抵抗がある」、「事業所との利用日時などの調整が大変」なども比較的多くあげられている。

なお、「特に困ることや不便に思うことはない」は精神障害が30.8%と多くなっている。

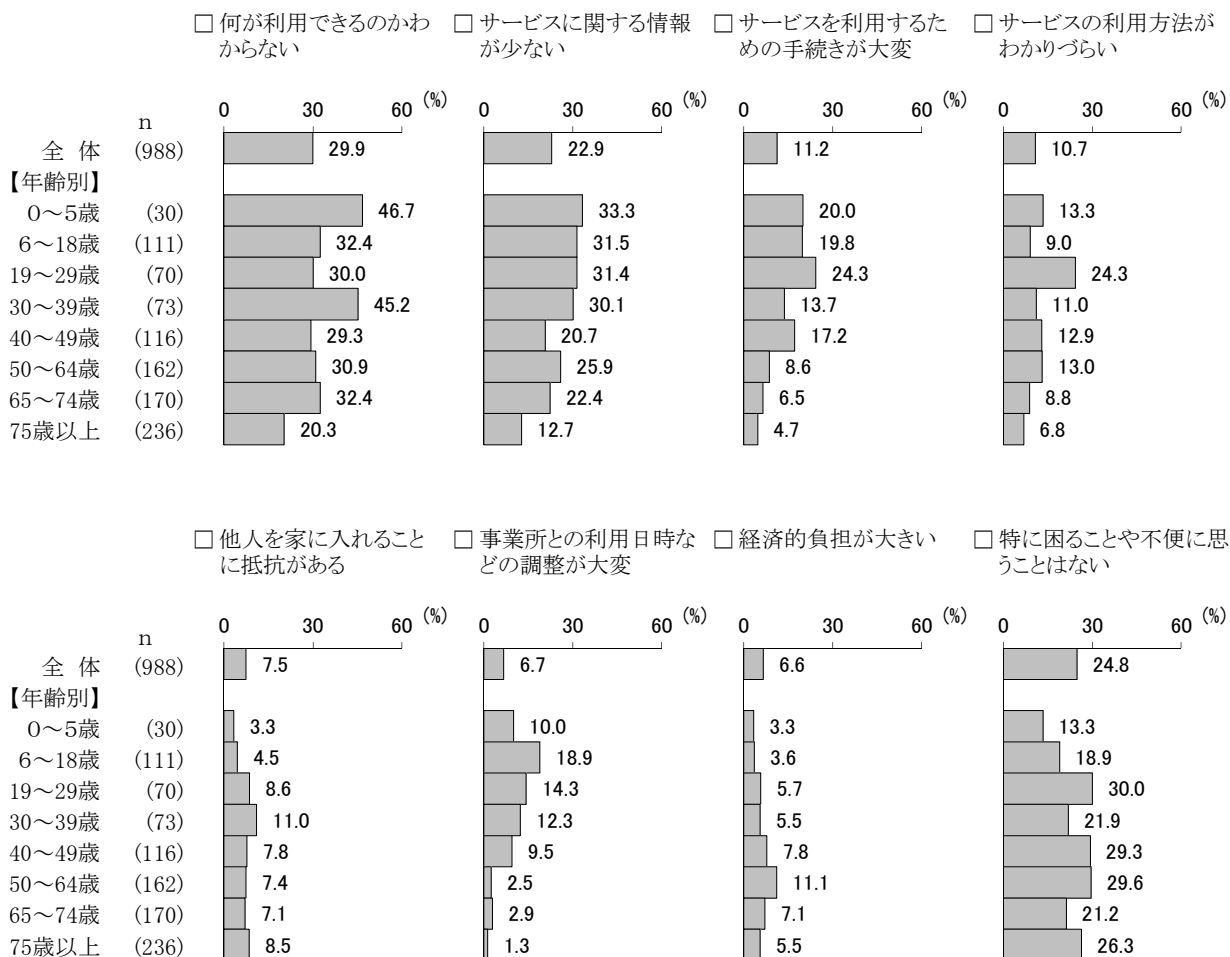
障害区分別（上位7項目+「特に困ることや不便に思うことはない」）



第2章 調査結果の詳細

年齢別にみると、いずれの年齢でも「何が利用できるのかわからない」、「サービスに関する情報が少ない」が多く、特に「何が利用できるのかわからない」は0～5歳、30～39歳が4割台となっている。「サービスを利用するための手続きが大変」は0歳から29歳までの年齢、「サービスの利用方法がわかりづらい」は19～29歳が多くなっている。

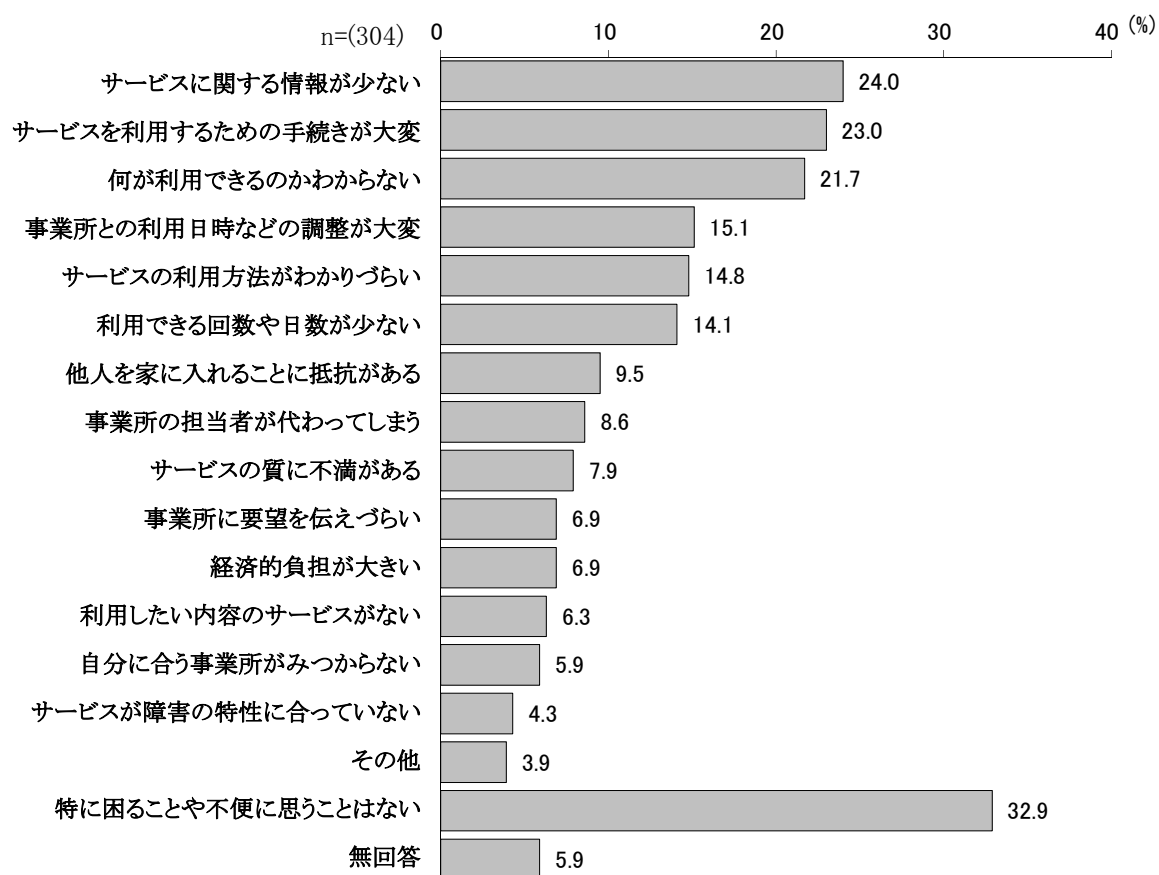
年齢別（上位7項目＋「特に困ることや不便に思うことはない」）



これを、障害福祉サービス利用者（問30）と比較すると、「サービスに関する情報が少ない」（24.0%）、「サービスを利用するための手続きが大変」（23.0%）、「何が利用できるのかわからない」（21.7%）が2割台となっており、以下、「事業所との利用日時などの調整が大変」（15.1%）、「サービスの利用方法がわかりづらい」（14.8%）、「利用できる回数や日数が少ない」（14.1%）が1割台と続いている。

なお、「特に困ることや不便に思うことはない」が32.9%と多くなっており、全体の回答数より8.1ポイント上回っている。

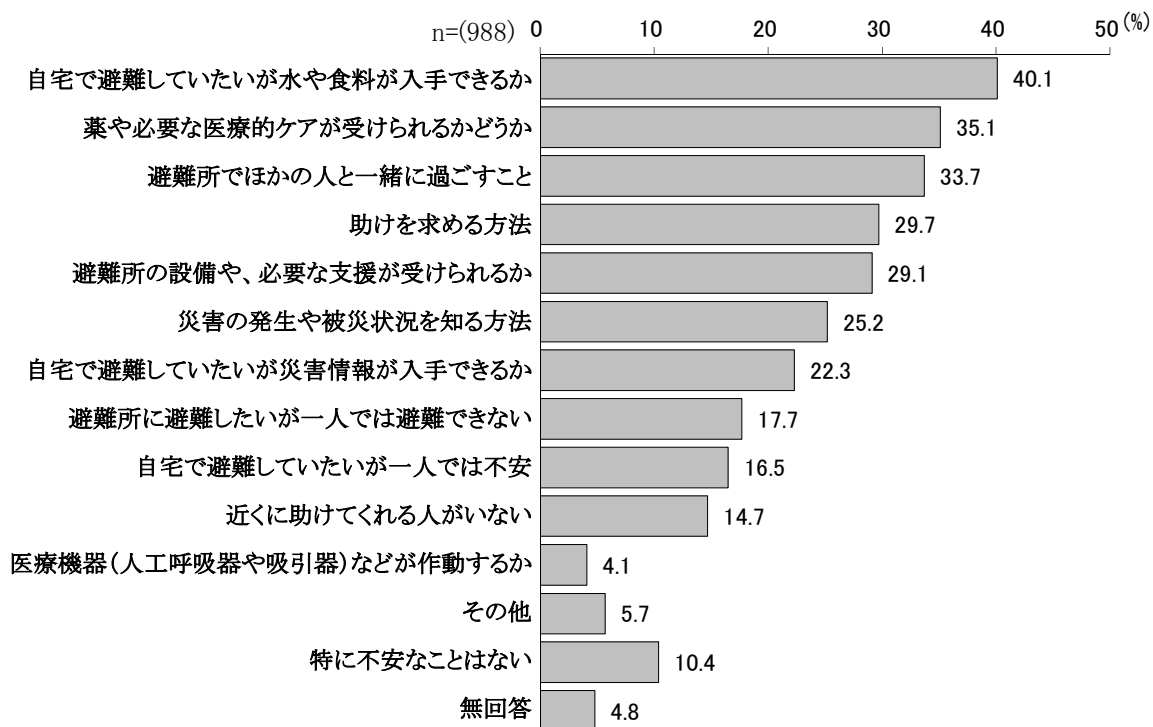
参考 障害福祉サービス利用者のみ



10 災害時の対応について

(1) 大規模災害発生時の困り事や不安

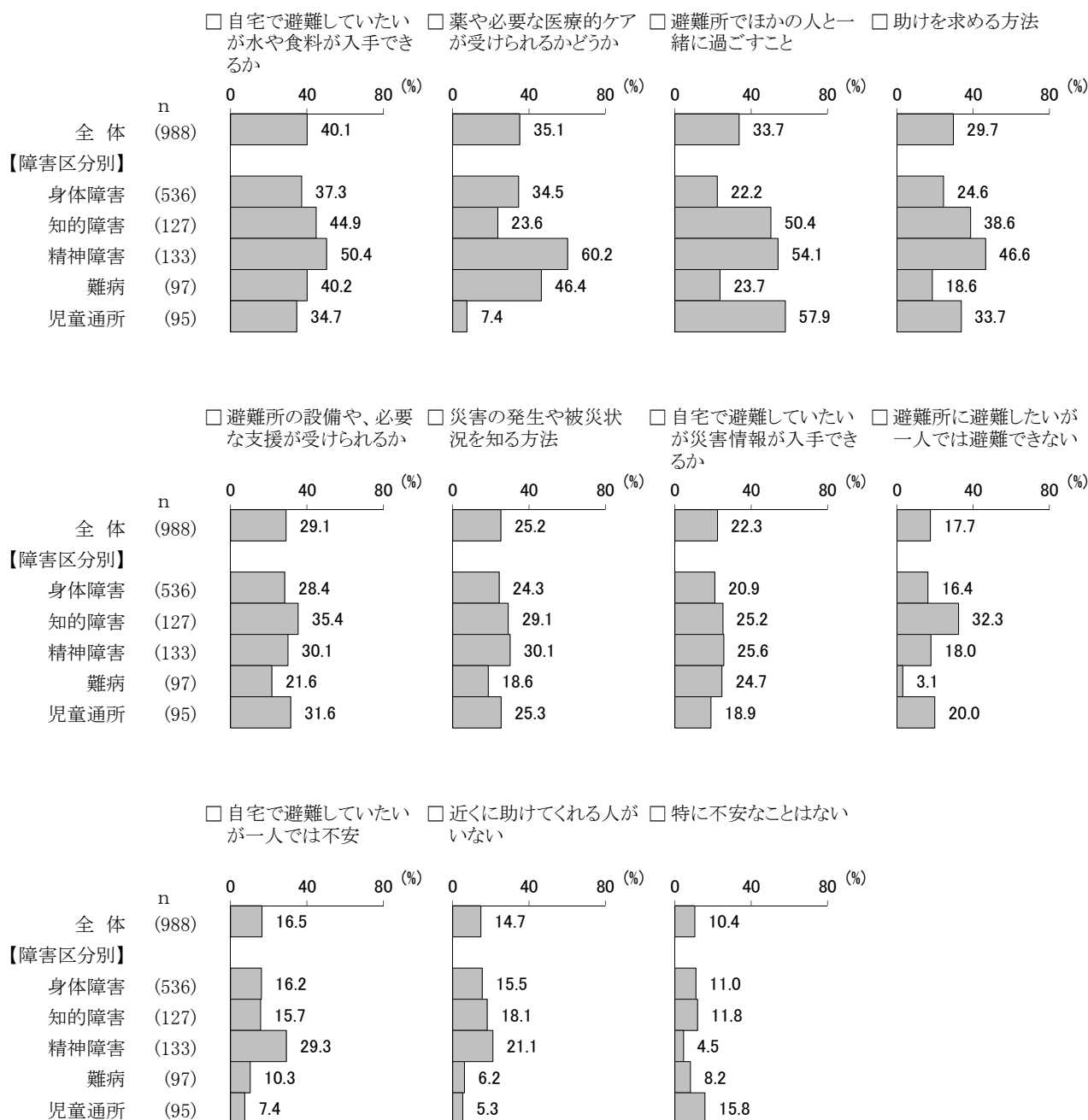
問32 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)



大規模災害発生時の困り事や不安は、「自宅で避難したいが水や食料が入手できるか」が40.1%と多くなっており、以下、「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか」(35.1%)、「避難所でほかの人と一緒に過ごすこと」(33.7%)が3割台、「助けを求める方法」(29.7%)、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか」(29.1%)、「災害の発生や被災状況を知る方法」(25.2%)、「自宅で避難したいが災害情報が入手できるか」(22.3%)が2割台と続いている。

障害区別にみると、「自宅で避難したいが水や食料が入手できるか」はいずれの障害区分でも多くなっている。「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか」は精神障害（60.2%）と難病（46.4%）が多くなっている。「避難所でほかの人と一緒に過ごすこと」は知的障害、精神障害、児童通所で5割台と多く、「助けを求める方法」も同様で3割以上となっている。この他、知的障害では「避難所に避難したいが一人では避難できない」が32.3%、精神障害では「自宅で避難したいが一人では不安」が29.3%と他の障害区分より多くなっている。

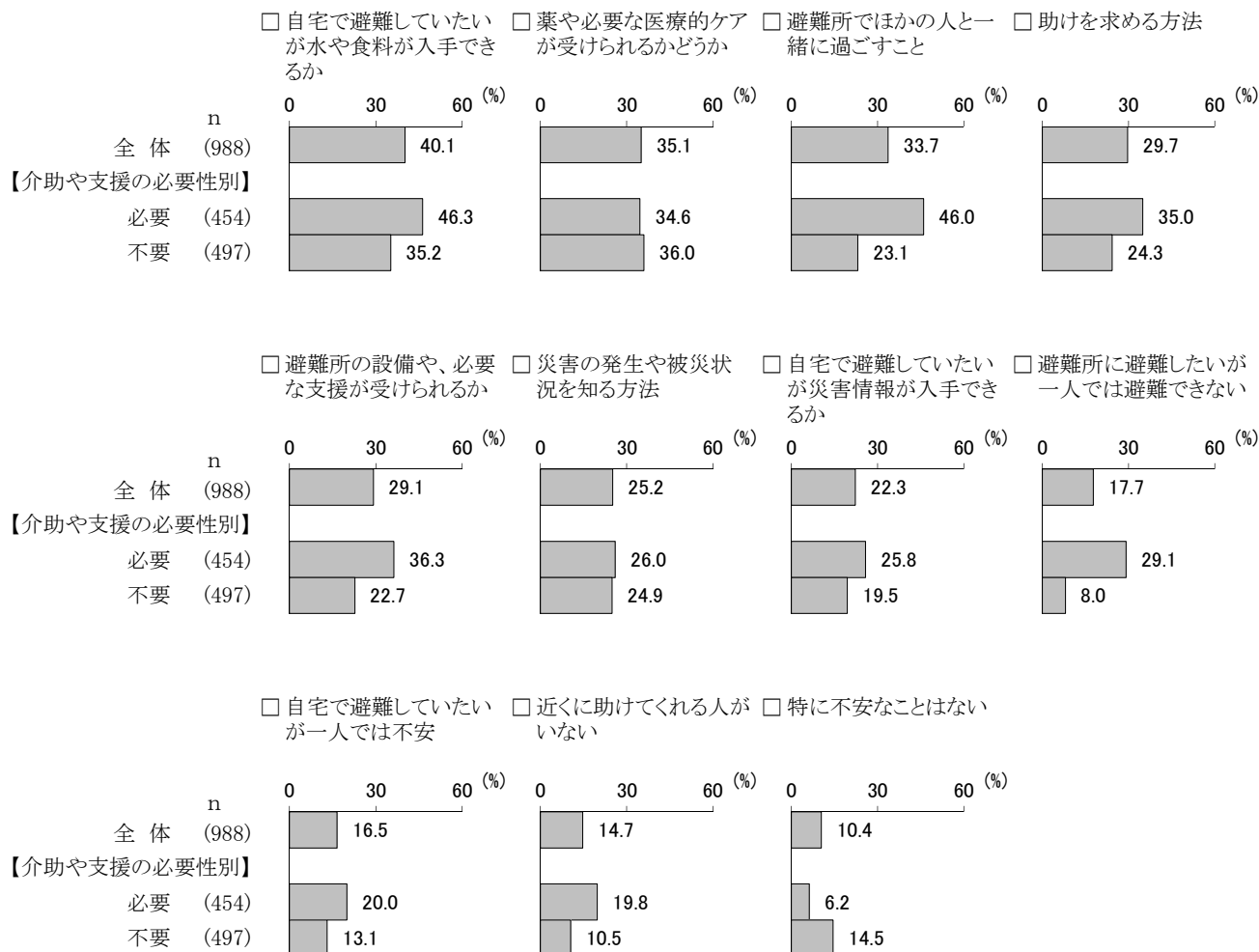
障害区分別（上位10項目＋「特に不安なことはない」）



第2章 調査結果の詳細

介助や支援の必要性別（問10）にみると、日常の介助や支援を必要とする人は災害時にも多くの不安を抱えており、特に「自宅で避難していたいが水や食料が入手できるか」、「避難所でほかの人と一緒に過ごすこと」が4割台、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか」、「助けを求める方法」が3割台と多くなっており、日常の介助や支援を不要とする人より多くなっている。

介助や支援の必要性別（問10）（上位10項目＋「特に不安なことはない」）



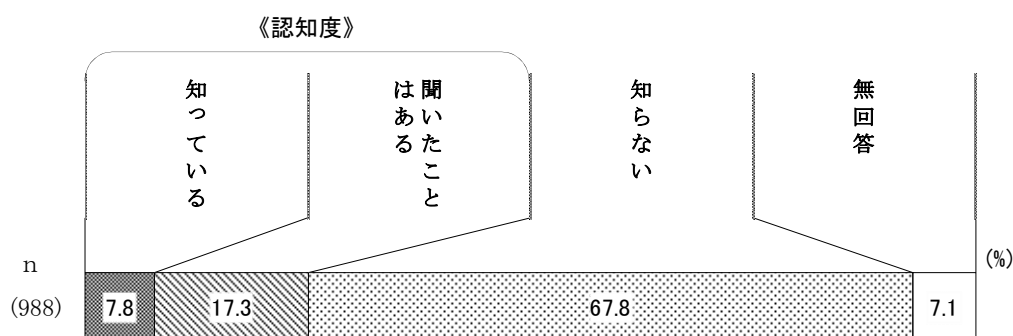
11 障害者差別について

(1) 障害者差別解消法の理解

問33 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

* 障害者差別解消法とは？

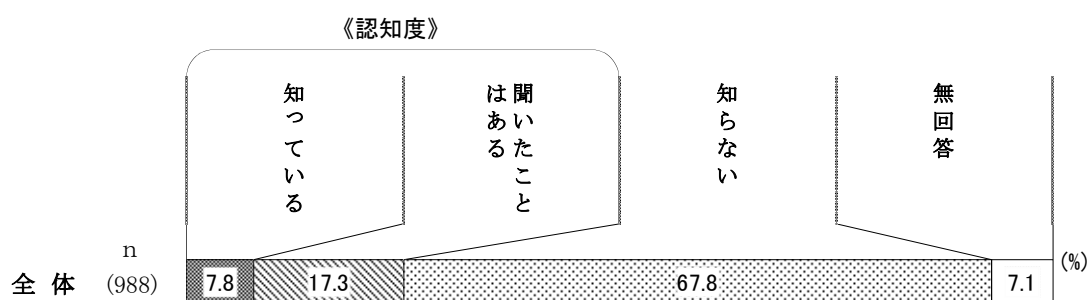
- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や区市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。



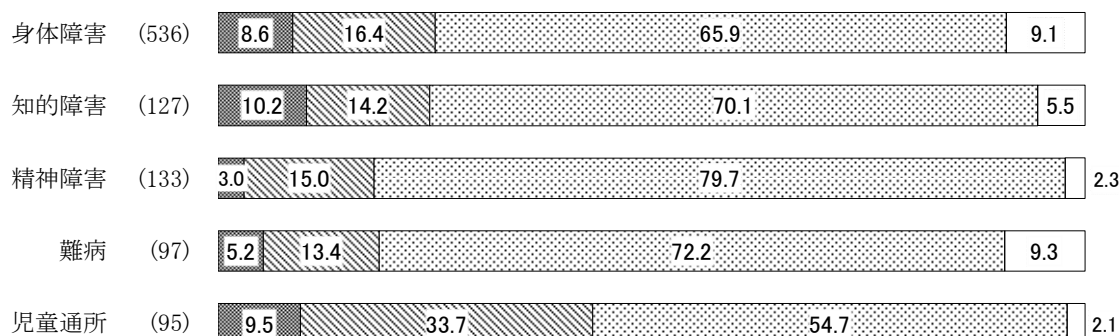
障害者差別解消法を「知っている」は7.8%、「聞いたことはある」は17.3%、両者をあわせた《認知度》は25.1%となっている。

障害区分別にみると、いずれも「知っている」は少ないが、「聞いたことはある」は児童通所が33.7%と他の障害区分より多く、《認知度》でも43.2%と多くなっている。

障害区分別

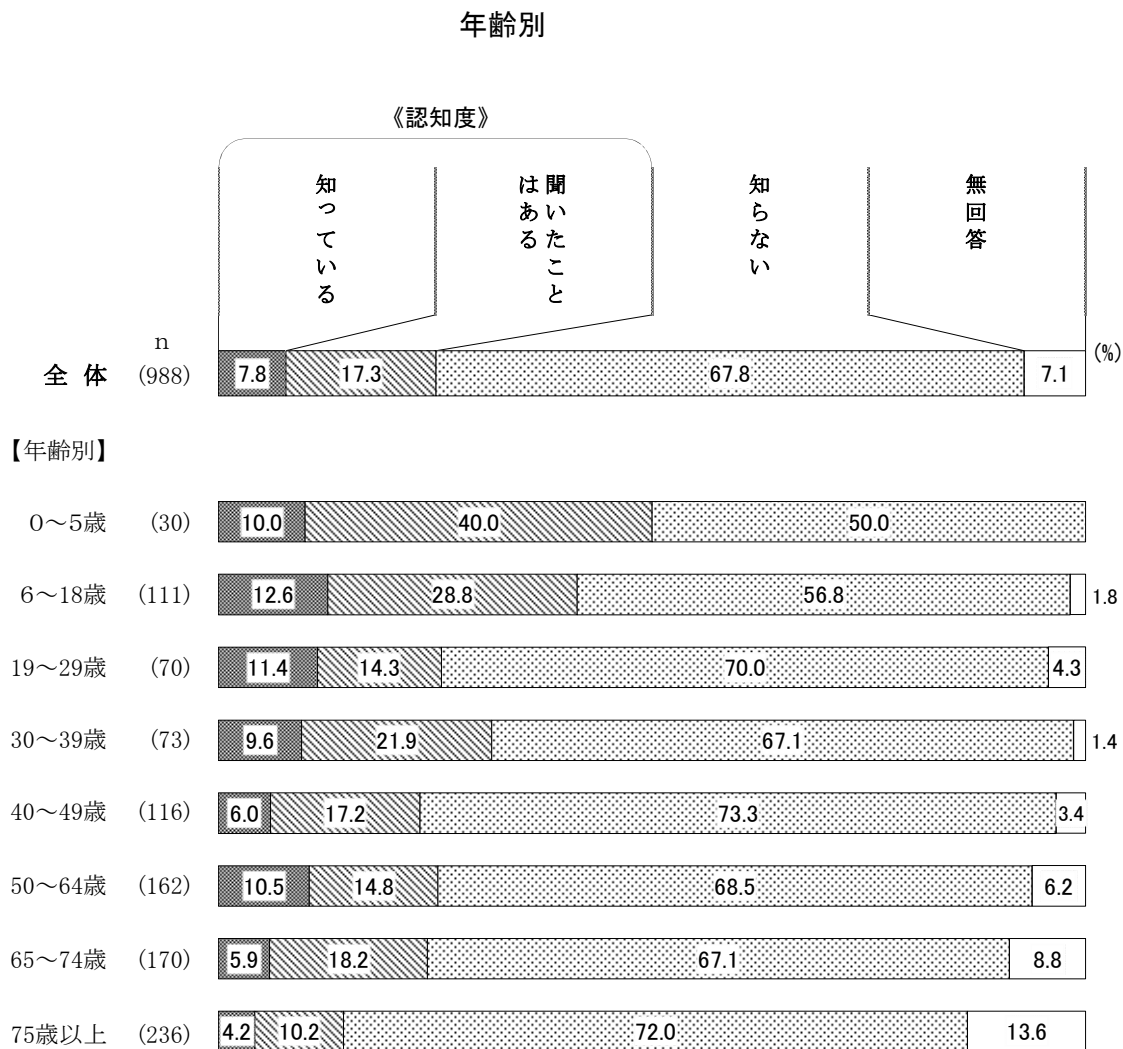


【障害区分別】



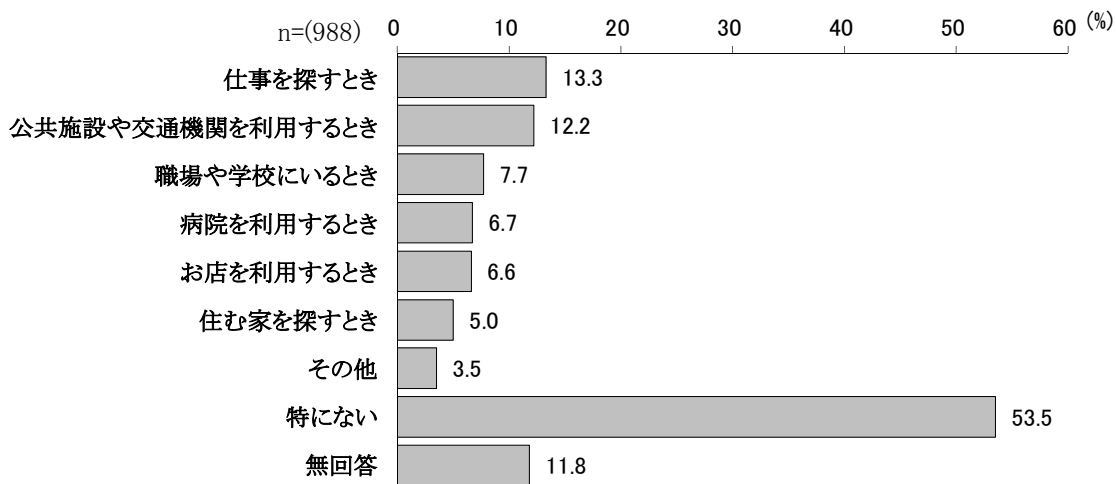
第2章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「知っている」は0歳から29歳までの年齢と50～64歳が1割台、「聞いたことはある」は0～5歳が40.0%、6～18歳が28.8%となっている。《認知度》でみると、0歳から18歳までの年齢が4割以上となっている。



(2) 障害を理由に差別されていると感じる場面

問34 あなたは、どのようなときに、障害を理由に差別されていると感じることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

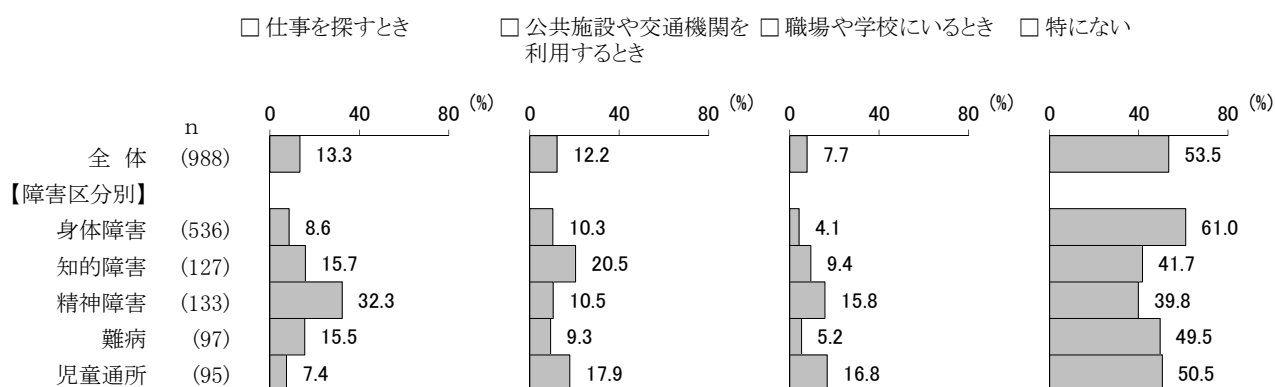


障害を理由に差別されていると感じる場面では、「仕事を探すとき」(13.3%)と「公共施設や交通機関を利用するとき」(12.2%)が1割台となっている。以下、「職場や学校にいるとき」が7.7%、「病院を利用するとき」が6.7%、「お店を利用するとき」が6.6%と続いている。

なお、「特にない」が53.5%と最も多くなっている。

障害区分別にみると、精神障害では「仕事を探すとき」が32.3%、知的障害では「公共施設や交通機関を利用するとき」が20.5%と他の障害区分より多くなっている。

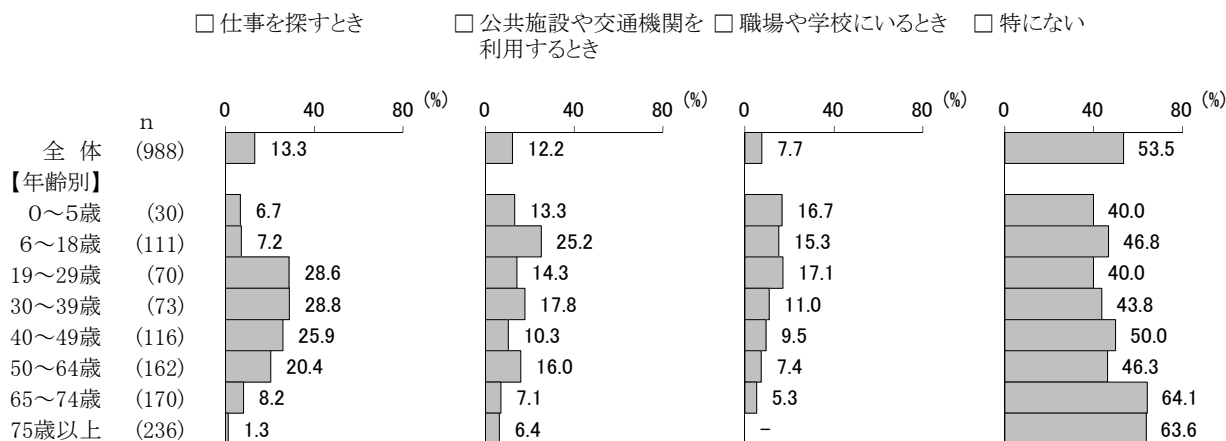
障害区分別 (上位3項目+「特にない」)



第2章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「仕事を探すとき」は19歳から39歳の年齢にかけて3割弱、40歳から64歳までは2割台となっている。「公共施設や交通機関を利用するとき」は6～18歳が25.2%と他の年齢より多くなっている。

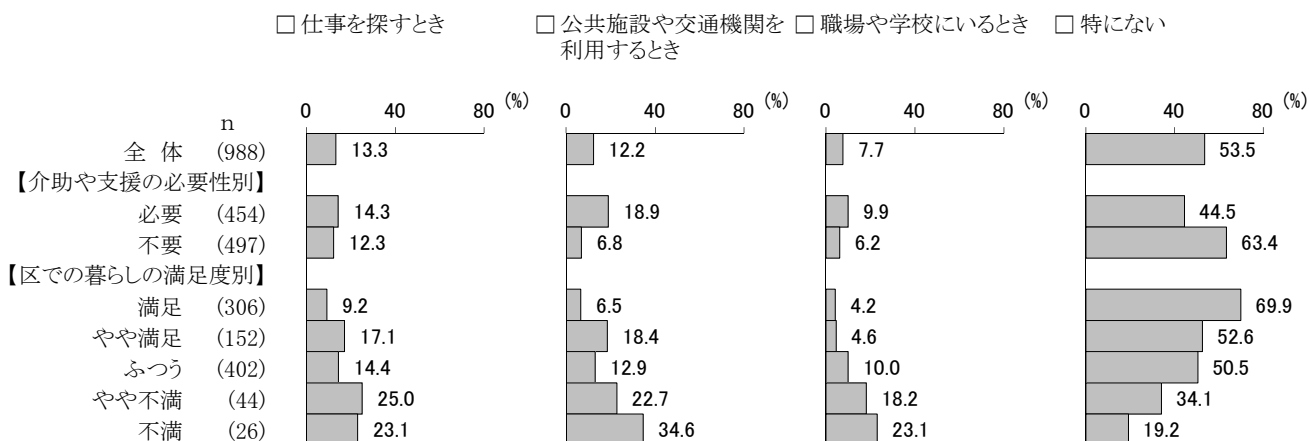
年齢別（上位3項目＋「特にない」）



介助や支援の必要性別（問10）にみると、「仕事を探すとき」では必要性に関わらず1割台となっている。「公共施設や交通機関を利用するとき」は「必要」が18.9%と「不要」を大きく上回っている。

江戸川区での暮らしの満足度別（問35）にみると、上位の3項目は満足度が低いほど差別を感じる割合は高くなっており、特に「公共施設や交通機関を利用するとき」は「不満」が34.6%と多い。一方、満足度が高い層では、「特にない」が多くなっている。

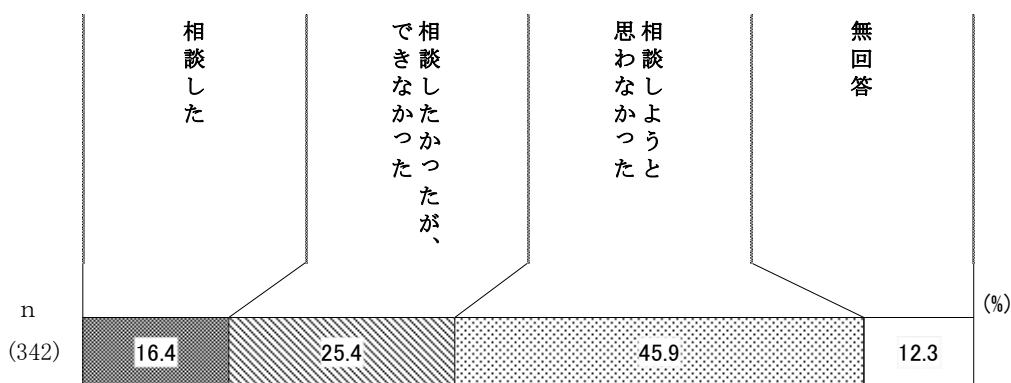
介助や支援の必要性別（問10）、江戸川区での暮らしの満足度別（問35） （上位3項目＋「特にない」）



(3) 差別を感じたときの相談の有無

【問34でいずれかの場面（「特にない」以外）を回答した方にお聞きします。】

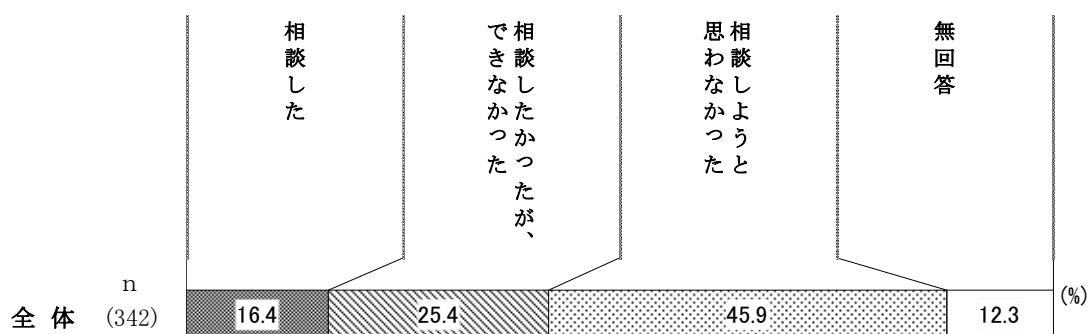
問34-1 差別されていると感じたとき、どこかに相談をしましたか。（家族や友人を除く）
（1つに○）



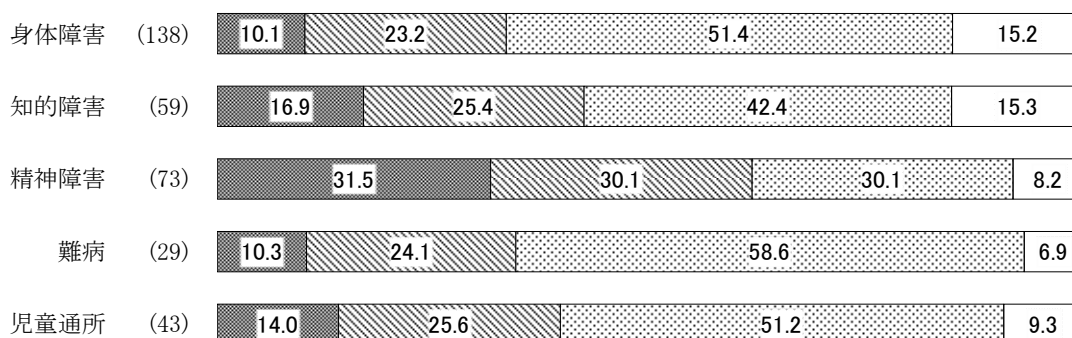
差別を受けたと感じたときに、「相談した」は16.4%となっている。「相談したかったが、できなかった」は25.4%、「相談しようと思わなかった」は45.9%となっている。

障害区別にみると、「相談した」は精神障害が31.5%と多くなっており、「相談したかったが、できなかった」でも30.1%と他の障害区分より多くなっている。「相談しようと思わなかった」は身体障害（51.4%）、難病（58.6%）、児童通所（51.2%）が5割台となっている。

障害区分別



【障害区分別】

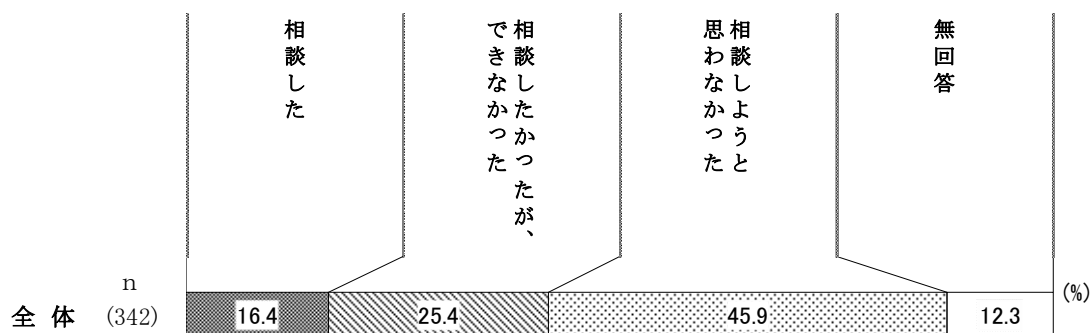


第2章 調査結果の詳細

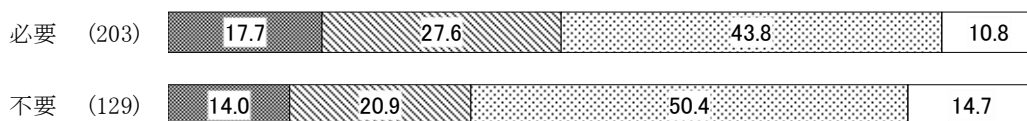
介助や支援の必要性別（問10）にみると、「相談したかったが、できなかった」は「必要」が27.6%と多く、「不要」は「相談しようと思わなかった」が50.4%と多くなっている。

江戸川区での暮らしの満足度別（問35）にみると、「相談した」は満足度が高い層ほど多く、「満足」は23.9%となっている。一方、満足度が低い層では「相談したかったが、できなかった」が多くなっている。

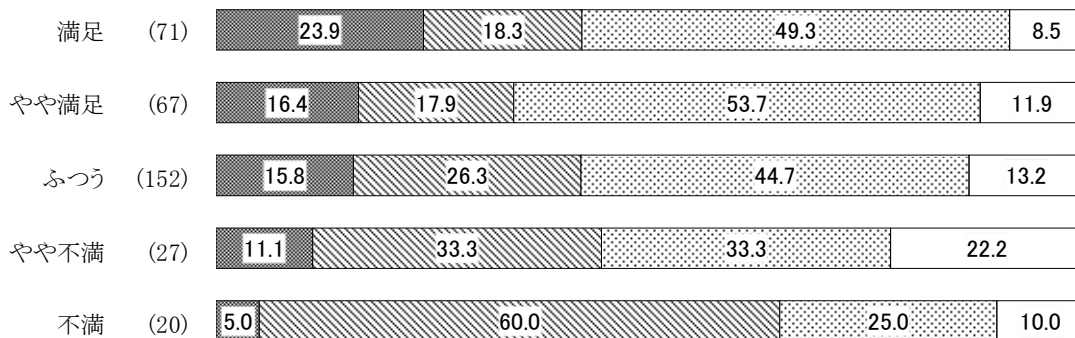
介助や支援の必要性別（問10）、江戸川区での暮らしの満足度別（問35）



【介助や支援の必要性別】



【区での暮らしの満足度別】

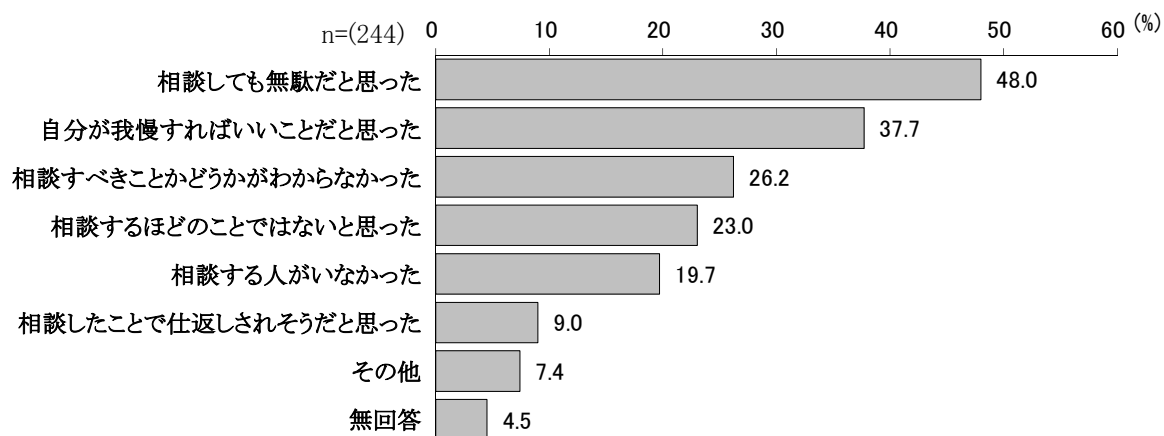


(4) 相談しなかった（できなかった）理由

【問34-1で「相談したかったが、できなかった」または「相談しようと思わなかった」と回答した方にお聞きします。】

問34-2 どこにも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。

（あてはまるものすべてに○）



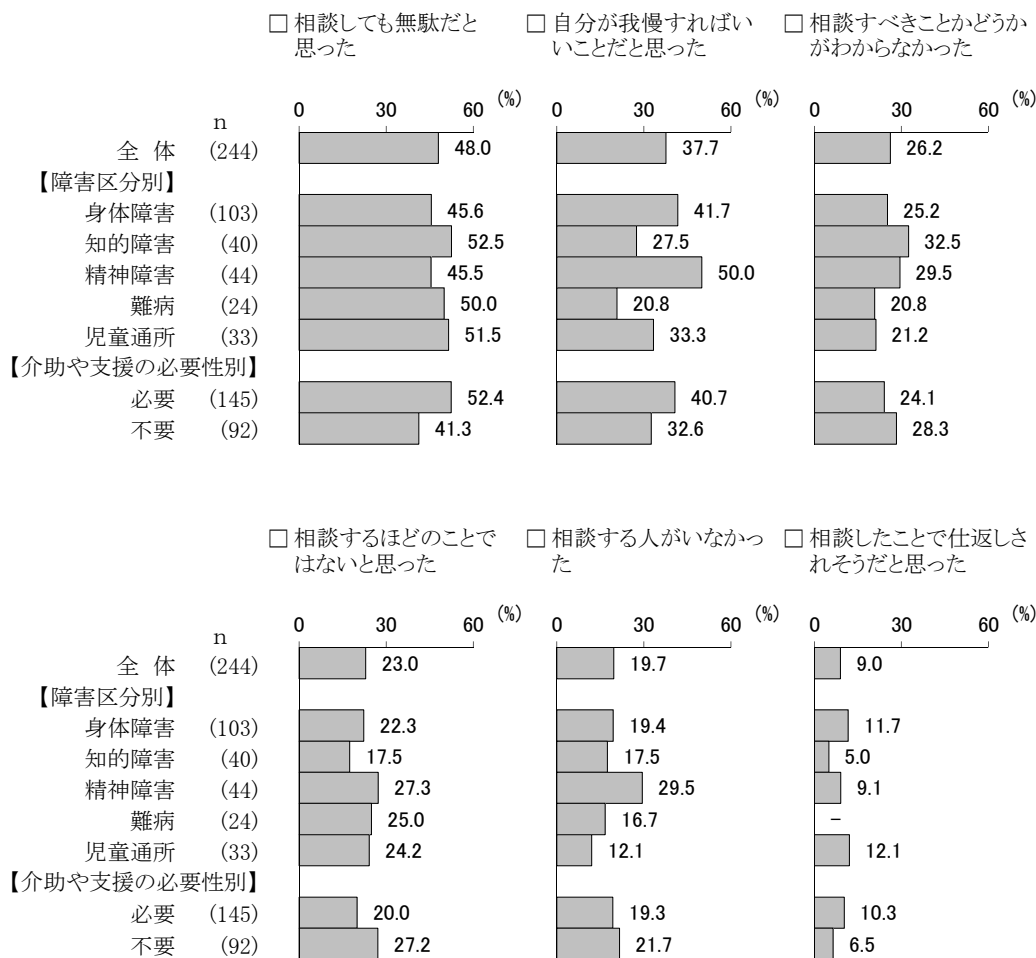
差別を感じたときに、どこにも相談しなかった（できなかった）理由は、「相談しても無駄だと思った」が48.0%と最も多く、以下、「自分が我慢すればいいことだと思った」が37.7%、「相談すべきことかどうかわからなかった」（26.2%）、「相談するほどのことではないと思った」（23.0%）が2割台と続いている。

第2章 調査結果の詳細

障害区分別にみると、「相談しても無駄だと思った」はいずれの障害区分も4割から5割台と多くなっている。「自分が我慢すればいいことだと思った」は精神障害が50.0%、身体障害が41.7%と多い。また、「相談する人がいなかった」は精神障害が29.5%と他の障害区分より多くなっている。

介助や支援の必要性別（問10）にみると、「相談しても無駄だと思った」（52.4%）、「自分が我慢すればいいことだと思った」（40.7%）は「必要」が多くなっている。一方、「相談すべきことかどうか分からないかった」（28.3%）は「不要」が多くなっている。

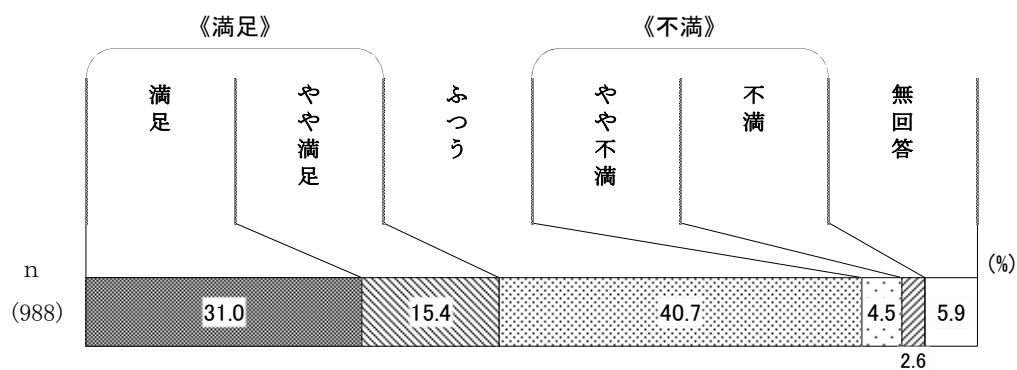
障害区分別、介助や支援の必要性別（問10）



12 現在の暮らしと今後のことについて

(1) 江戸川区での暮らしの満足度

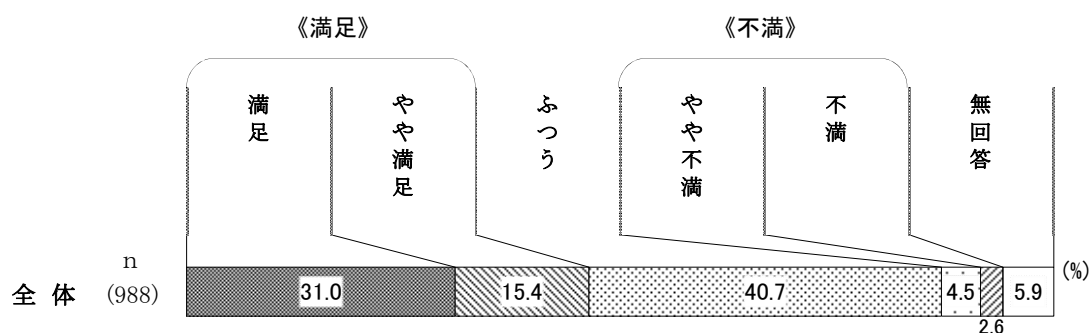
問35 あなたは、江戸川区での暮らしに満足していますか。(1つに○)



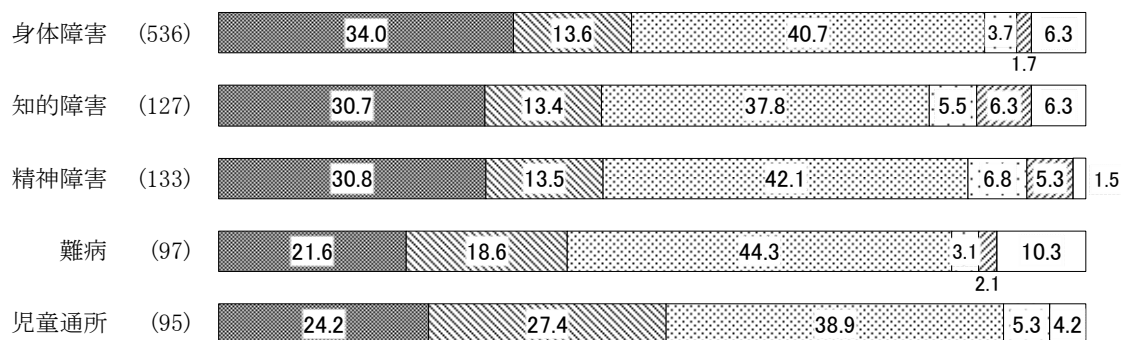
江戸川区での暮らしの満足度は、「満足」は31.0%、「やや満足」は15.4%、両者をあわせた《満足》は46.4%となっている。「不満」は2.6%、「やや不満」は4.5%、両者をあわせた《不満》は7.1%と少なく、「ふつう」が40.7%と多くなっている。

障害区分別にみると、《満足》はいずれの障害区分でも4割以上となっており、児童通所では51.6%となっている。《不満》は知的障害と精神障害が1割台と他の障害区分よりやや多くなっている。

障害区分別



【障害区分別】



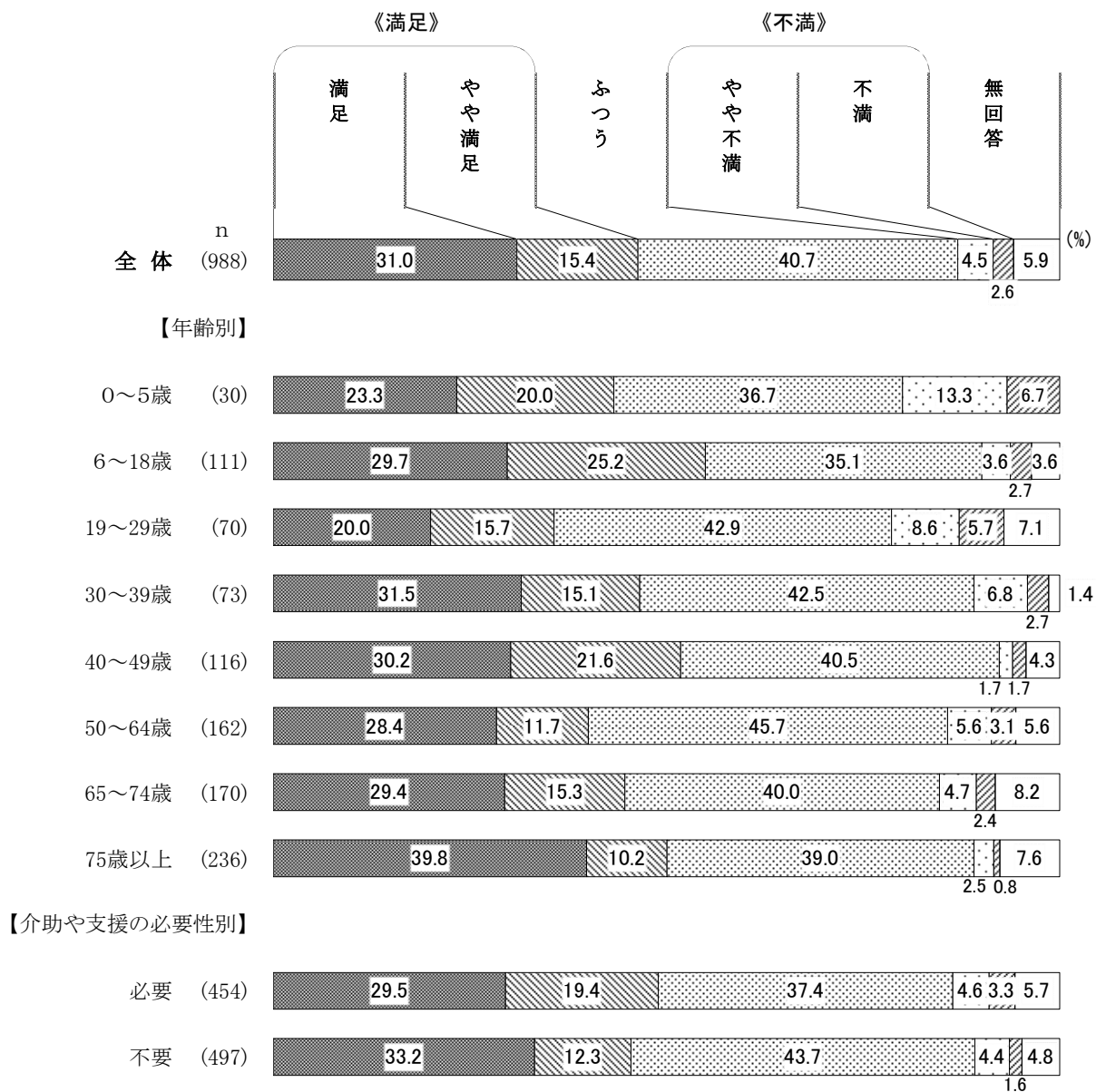
第2章 調査結果の詳細

年齢別にみると、満足・やや満足をあわせた《満足》は、6～18歳が54.9%となっており、40～49歳と75歳以上でも5割台となっている。一方、19～29歳では《満足》は35.7%となっている。

なお、不満・やや不満をあわせた《不満》は0～5歳が20.0%と他の年齢より多くなっている。

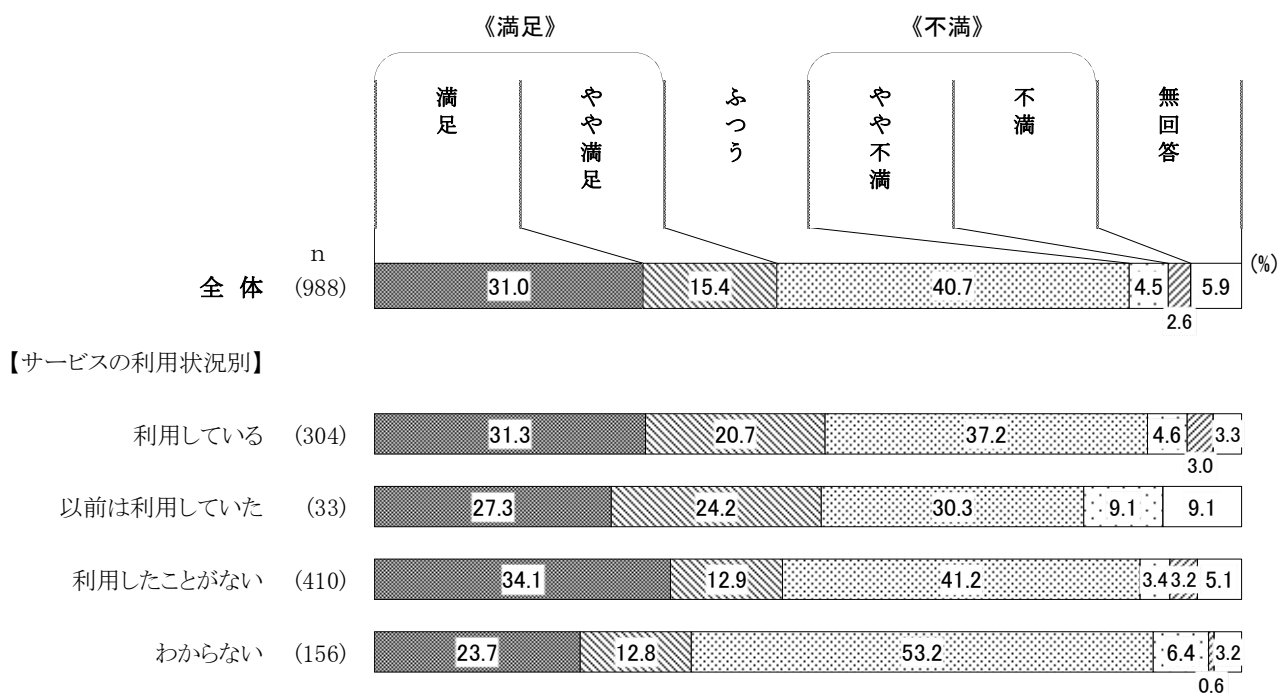
介助や支援の必要性別（問10）にみると、《満足》、《不満》では必要性に関わらず大きな差はみられない。

年齢別、介助や支援の必要性別（問10）



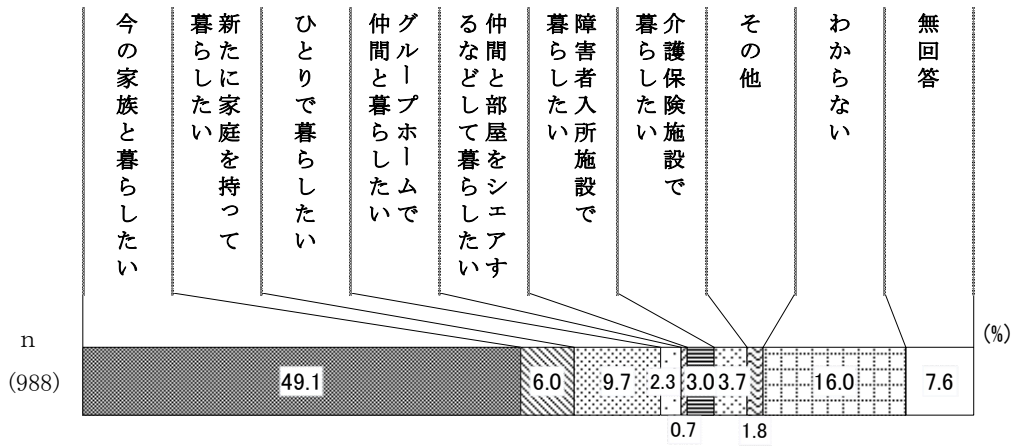
障害福祉サービスの利用状況別（問30）にみると、満足・やや満足をあわせた《満足》は、利用している人が52.0%、以前は利用していた人は51.5%となっている。一方、わからない人は《満足》が36.5%と少なくなっており、利用したことがない人は47.0%となっている。

障害福祉サービスの利用状況別（問30）



(2) 将来の暮らしの希望

問36 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

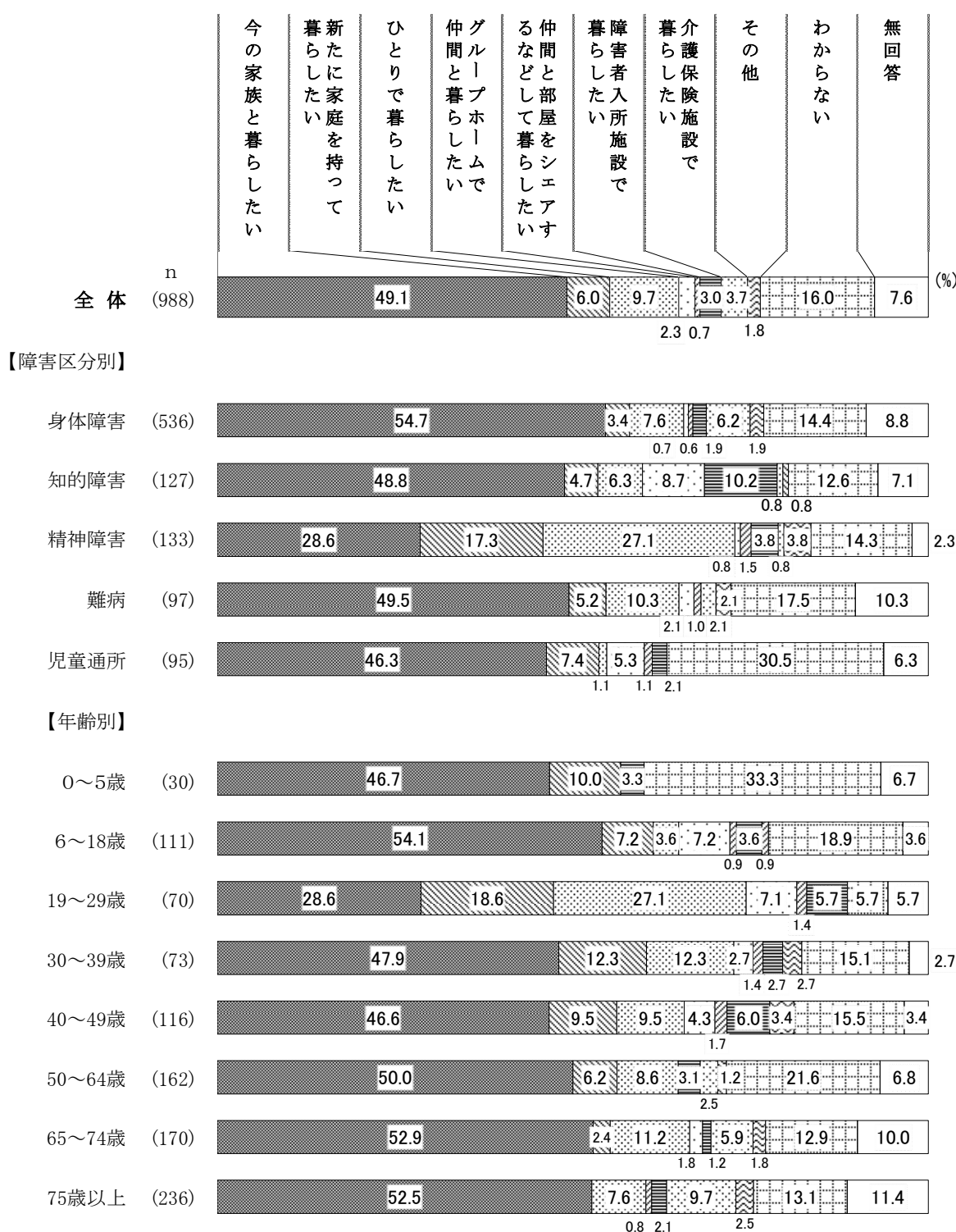


将来の暮らしの希望は、「今の家族と暮らしたい」が49.1%と最も多く、「ひとりで暮らしたい」が9.7%となっている。また、「わからない」も16.0%と多くなっている。

障害区分別にみると「今の家族と暮らしたい」は身体障害が54.7%、知的障害（48.8%）、難病（49.5%）、児童通所（46.3%）が4割台となっている。精神障害では「ひとりで暮らしたい」が27.1%、「新たに家庭を持って暮らしたい」が17.3%と他の障害区分より多くなっている。

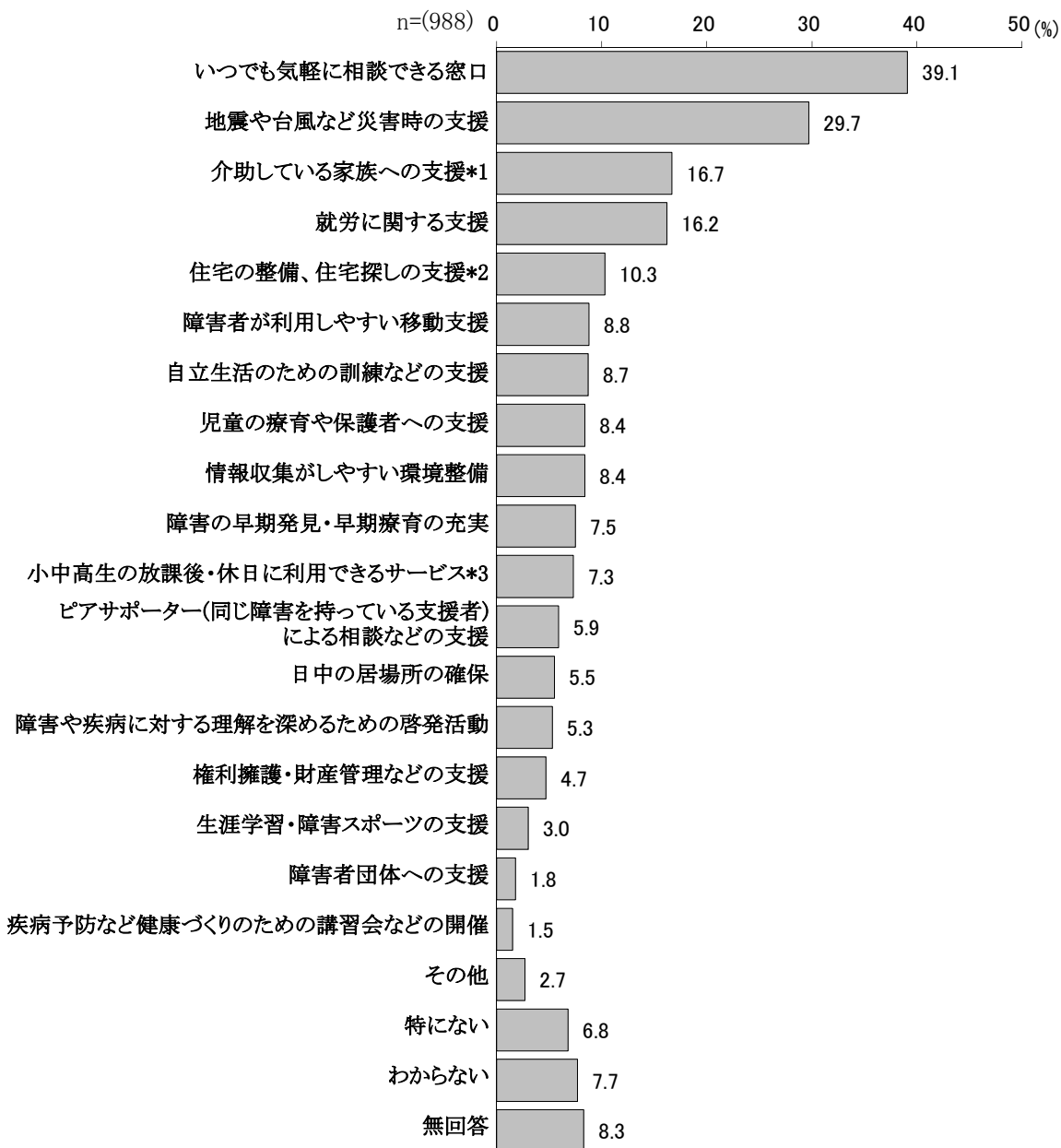
年齢別にみると、6～18歳と50歳以上では「今の家族と暮らしたい」が5割台となっている。19～29歳では「ひとりで暮らしたい」が27.1%、「新たに家庭を持って暮らしたい」も18.6%と他の年齢より多くなっている。

障害区分別、年齢別



(3) 今後の区の障害者（児）福祉で充実させていくこと

問37 今後、区の障害者（児）福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）



*1：緊急時の対応など

*2：グループホーム、住宅相談など

*3：放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど

今後の区の障害者（児）福祉で充実させていくことを聞いたところ、「いつでも気軽に相談できる窓口」が39.1%と最も多く、これに「地震や台風など災害時の支援」が29.7%と続いている。この他、「介助している家族への支援（緊急時の対応など）」（16.7%）、「就労に関する支援」（16.2%）、「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」（10.3%）が1割台と続いている。

障害区分別に上位5項目をみると、「いつでも気軽に相談できる窓口」はすべての障害区分であげられ、児童通所以外では1位となっている。「地震や台風など災害時の支援」は児童通所を除く各区分で、「就労に関する支援」は身体障害を除く各区分で上位にあげられている。この他、身体障害では「障害者が利用しやすい移動支援」、知的障害では「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」、精神障害では「自立生活のための訓練などの支援」、「日中の居場所の確保」、児童通所では「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）」、「児童の療育や保護者への支援」が上位にあげられるなど、障害区分による違いもみられる。

障害区分別（上位5位表）

（%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=988	相談窓口 39.1	災害時の支援 29.7	家族への支援 16.7	就労支援 16.2	住宅整備、住宅探し 10.3
身体障害 n=536	相談窓口 40.1	災害時の支援 33.8	家族への支援 18.1	移動支援 10.4	情報収集 9.3
知的障害 n=127	相談窓口 31.5	災害時の支援 27.6	家族への支援 23.6	就労支援 17.3	住宅整備、住宅探し 17.3
精神障害 n=133	相談窓口 51.1	就労支援 37.6	災害時の支援 30.1	自立生活訓練 21.8	日中の居場所 12.8
難病 n=97	相談窓口 38.1	災害時の支援 24.7	就労支援 19.6	早期発見・早期療育 15.5	家族への支援 14.4
児童通所 n=95	放課後・休日サービス 43.2	児童療育・保護者支援 38.9	相談窓口 27.4	就労支援 24.2	早期発見・早期療育 18.9

※表記の都合上、選択肢は簡略して表示している。

第2章 調査結果の詳細

年齢別に上位5項目をみると、すべての年齢を通じて「いつでも気軽に相談できる窓口」があげられ、19歳以上の各年齢で1位となっている。「地震や台風など災害時の支援」、「介助している家族への支援（緊急時の対応など）」もほとんどの年齢で上位にあげられ、共通した要望となっている。年齢により異なるものとしては、0歳から18歳までは「児童の療育や保護者への支援」、「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）」が、その後は、19歳から64歳までの幅広い年齢で「就労に関する支援」が支持されている。また、30歳から49歳の年齢にかけては「自立生活のための訓練などの支援」、50歳以上は「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」や「障害者が利用しやすい移動支援」などへと要望が変化している。

年齢別（上位5位表）

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 n=988	相談窓口 39.1	災害時の支援 29.7	家族への支援 16.7	就労支援 16.2	住宅整備、住宅探し 10.3
0～5歳 n=30	児童療育・保護者支援 60.0	放課後・休日サービス 36.7	災害時の支援 30.0	相談窓口 23.3	早期発見・早期療育 20.0
6～18歳 n=111	放課後・休日サービス 41.4	就労支援 31.5	児童療育・保護者支援 29.7	相談窓口 26.1	家族への支援 16.2
19～29歳 n=70	相談窓口 35.7	就労支援 34.3	災害時の支援 32.9	家族への支援 22.9	住宅整備、住宅探し 17.1
30～39歳 n=73	相談窓口 39.7	就労支援 32.9	災害時の支援 28.8	家族への支援 16.4	自立生活訓練 15.1
40～49歳 n=116	相談窓口 44.8	災害時の支援 35.3	就労支援 24.1	家族への支援 16.4	自立生活訓練 13.8
50～64歳 n=162	相談窓口 43.8	災害時の支援 30.9	就労支援 16.7	家族への支援 16.0	住宅整備、住宅探し／情報収集 11.7
65～74歳 n=170	相談窓口 42.9	災害時の支援 34.7	家族への支援 13.5	住宅整備、住宅探し 9.4	移動支援 8.2
75歳以上 n=236	相談窓口 40.3	災害時の支援 30.9	家族への支援 19.1	移動支援 9.7	住宅整備、住宅探し 8.1

※表記の都合上、選択肢は簡略して表示している。

13 自由記述

(1) 区の障害者（児）福祉に対する意見・要望

問38 区の障害者（児）福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

区の障害者（児）福祉への意見・要望を自由に記述してもらったところ、340件の貴重な意見をいただき、1人で2つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。

なお、主なものをテーマ別で分類・要約して掲載している。

◆サービス、施設、人材育成(38件)

- ・どのようなサービスが自分の障害の等級で受けることができるのか、誰が支給決定するのか教えてほしい。
- ・難病患者ですが、どのような福祉のサービスが受けられるのか全くわからない。
- ・高次脳機能障害者への支援の充実を希望する。
- ・介助者の緊急時に、すぐにヘルパーやショートステイが使える状況にしてもらいたい。
- ・障害者専用もしくは優先で使用できる施設や医療的ケア児が通える送迎つき放課後等デイサービス、重度障害者（児）が使用できる宿泊施設などをつくってほしい。
- ・ヘルパーの質向上に努めてほしい。
- ・将来は施設利用を考えている。施設の少なさにも不安はあるが、障害者施設の職員の人材の育成についても手厚い施策を求む。
- ・障害者支援ハウスの予約が取りやすいようにしてほしい。
- ・江戸川区内に入所施設はつくらないとのことですが、今後も江戸川区で生活していきたいので、入所施設をつくってほしい。
- ・なごみの家は比較的近所にあるが、閉所時間が早いいため活用するのが難しい。

◆助成、援助、税減額・免除(37件)

- ・重度の障害があるが、親の所得制限により手当が出ていない。収入もどうなるかわからないため、制限などなく、手当がもらえるようにしてほしい。
- ・国民年金を収めているのに障害者年金が出ないことがつらい。
- ・前年の収入が多いため子どもの助成が受けられない。現在は無収入のため困っている。
- ・現在は就労しているが、再発すると身体が動かさづらくなり働けなくなる。手当をもう少しただけるとありがたい。
- ・障害者全員に福祉タクシー券を、障害者にも入浴券を助成してほしい。
- ・精神障害者に対する支援が手薄だと感じている。特に3級は支援も他に比べて少ないように思う。
- ・おむつ使用料の助成について、上限額が8,100円/月となっているが、毎月上限額以上かかっている。今後さらにおむつの使用が増えるため、もう少し助成額を上げてほしい。

◆区役所や関連機関への要望(26件)

- ・区役所は交通の便が良い場所にあった方がよい。

第2章 調査結果の詳細

- ・月に数回でも良いので、障害者福祉課や江戸川保健所、健康サポートセンターなどの窓口を平日夜間や休日にも開庁してほしい。
- ・区役所だけでなく、各事務所でも相談などできるようにしてほしい。
- ・区役所や健康サポートセンターの職員には障害に対する知識を身につけてほしい。
- ・電話などで書類を確認しても、案内が間違っていたことが何回かあったため改善していただきたい。
- ・区民に対しての対応をもっとわかりやすく、丁寧にしてほしい。
- ・実際に障害のある方と接し、1日の様子を見ていただき、マニュアル通りの対応ではなくその方、その家族に合った対応をしていただきたい。

◆情報・相談(22件)

- ・自ら情報を得たくても、どのようなものがあるかわからないので、積極的に行政から情報発信してほしい。
- ・区のホームページもまだまだ見やすさが不足しているところがある。
- ・気軽に立ち寄って相談できる場所があると良い。
- ・障害者入所施設で暮らしていきたいと思っているが、情報があまりなく困っている。
- ・区役所へ出向かないとわからない事があるため不安に思う。

◆感謝、満足(22件)

- ・外見は障害者に見えない者ですが、健常者と同じように対応をしてくれるので安心できる。
- ・都営交通の運賃割引や福祉タクシー券の助成は本当に助かっている。歩行が大変な時や通院時に使用している。
- ・補装具や車いすの修理を依頼するとき、電話の声だけが快く受けいただき感謝している。
- ・今は年老いてスポーツはできないが、長い年月、卓球や水泳をさせていただき感謝している。江戸川区に住んだことに満足している。
- ・約6年前に障害者手帳を取得した際に、障害者福祉課で自分が受けられるサービスや手当などについて、冊子や必要な書類、資料を用意し説明してくれたおかげで、問題なく生活を送れている。

◆災害時の対応(20件)

- ・災害時に、素早く安否確認をできるシステムをつくってほしい。
- ・台風19号接近の際、10階に住んでいるため避難しなかったが、大地震などで避難しなくてはならない時、一般の人達が多くいる避難所はとても行きづらいと思った。障害者やその家族が安心して行ける避難所があったら良いと思う。
- ・災害時の障害者への対応支援の充実を希望する。
- ・周りへの迷惑などを考えてしまい、なかなか避難できないという考えになっている。障害を持っている者が迷いなく避難できる場所などの情報や場所の必要性を強く望む。
- ・災害情報が載っている情報誌をつくってほしい。避難の仕方も具体的に書かれているものがあると良い(避難からの流れなど)。

- ・台風19号による避難所について、我が子は寝るまで喋り続けるため、周囲の方に迷惑がかかると思い、大変悩んだ結果、今回は自宅の上の階で過ごした。車いすの方には別室の用意があったが、このような事情がある場合も別室など用意してほしい。防災無線もよく聞こえず不安であった。また、障害者やその家族の避難に関してのマニュアルを作成してほしい。

◆更新、手続き、認定(18件)

- ・申請書など、迅速に送付してほしい。
- ・区役所に行かなくては手続きなどが出来ない用件があり、毎回不便に感じている。区民館や郵送でも手続きできるよう、弱者視点での改善をしてほしい。
- ・障害の状況から障害基準に達していないと手帳がもらえないため、少々不便と感じる点がある。
- ・自立支援医療（精神通院医療）の更新手続きを2年に1度にしていただきたい。
- ・手続きが複雑。分かり易く、簡素化してほしい。

◆悩みや困りごとなど(16件)

- ・介助者が介護できなくなった時が不安。介助者が介護を必要になった時にどうすれば良いのか。
- ・障害者同士で結婚した世帯のサポートや支援策を考えてほしい。
- ・発達障害ですが、賃金も通常の方より低く、これからどうやって自立すれば良いか不安。
- ・介護・医療保険料が上がり、消費税率が10%、年金も下がり格差が増大することによる生活不安。

◆医療・医療費、リハビリ(14件)

- ・障害者や高齢者に対して、医療費や介護利用料補助の更なる拡充をお願いしたい。
- ・区内に発達障害児が受診できる病院が少なく予約もとりにくいため、区外で受診している。発達障害児の支援をもっと行ってほしい。
- ・車いす（自走）障害者ですが、リハビリの為に、区内施設に車いすに乗った状態で利用できる機器（マシン）の導入を検討してほしい。
- ・透析患者ですが、手のしびれを訴えたところ、「透析だから」と専門の病院などを紹介してもらえなく、相談先が分からず困る。

◆親亡き(家族亡き)後(13件)

- ・親亡き後、どのように暮らすかとても不安。安心して一人で暮らしていける住宅の確保、また、友人と一緒にシェアして暮らせるようにお願いしたい。
- ・現在は親が介助をしてくれているため生活できているが、親亡き後の生活が不安。親がいるうちに安定した生活の確保をできるようにしたい。
- ・今は親がいるため生活できているが、ひとりになったとき生活できる自信がありません。
- ・将来が不安。親が介助、支援できる年齢に限界を感じている。障害者自身が高齢となる前に、親も体が動ける間に少しでも自立できるよう、支援をお願いしたい。また、支援いただけるところを紹介してほしい。
- ・親亡き後の将来が不安で、今の子育てや本人の成長をじっくり楽しむことができない。

◆**保育所、幼稚園、学校(13件)**

- ・支援級を全部の小(中)学校につくってほしい。学区外へ登校するのが大変。支援級により違いがあり、勉強面など不安なため、通う支援級を選びたい。
- ・中学入学に向けて、早い段階で準備や用意すべきことなどが知りたい。
- ・幼稚園に通いたいが、受け入れてくれる場所があるのか。療育施設に通うことも大切だが、定型発達の子と過ごす中で成長できる部分も大きい。障害を理由に断られることがないようにしてほしい。
- ・入学の際、希望する学校への受け入れをもう少し前向きに検討してほしい。どうしたらその子がその学校で過ごすことが出来るか、サポートの方法を考えてほしい。

◆**外出(移動、交通、道路、バリアフリー)(12件)**

- ・現在は、親が付き添って送迎できているが、いつまでできるかわからない。送迎の助成を手厚くしてほしい。
- ・「行きたい」と思っても移動に距離があり、交通手段もないと参加を諦めることが多いため、社会参加が身近に、容易にできる環境が必要。
- ・駐車違反が非常に多く、難聴者にとっても極めて危険。警察に働きかけてほしい。
- ・交通手段がないため、通院・買い物などでタクシーを利用することがあり、金銭面が大変。高齢者も増えているので、江戸川区内を巡回する公共的な交通網を検討してほしい。

◆**就労支援、職場(12件)**

- ・就職に向けての支援はとても丁寧にしていただけているので、これからもお願いしたい。
- ・障害者の就労雇用時間の条件が週20時間以上というのはハードルが高い。
- ・ひきこもりにならないような施策、子どもの頃から他人と関われるような仕組み、特に就労できるような訓練、方法、企業の誘致に力を入れていただけると、社会的に生活できるようになる(手当などだけを受けて生活するのではなく)のではないかと思う。
- ・障害者が安心して働ける職場を増やしてほしい。

◆**障害者福祉全般(11件)**

- ・障害者にやさしいまちづくり、これからも住みやすい江戸川区であり続けてほしい。
- ・インフラの整備や教育、福祉に力を入れてほしい。
- ・将来、就労継続支援B型などの事業所にお世話になりたいと思っている。家族でなるべく長く一緒に生活したいため、歩いて通える事業所や、区などの隔てなく福祉施設が利用できたら良い。

◆**地域活動、交流、教室(11件)**

- ・軽度発達障害や障害児対象のスポーツ教室や習い事の間、スポーツ大会などを企画してほしい。
- ・地域活動支援センターⅡ型の支援場所の確保が難しい。本人が楽しめる余暇活動の場所があればと願っている。
- ・娘が小さい時に在宅酸素をしており大変不安だったが同じ境遇の子は身近にいないため、手探りでインターネットなどで情報収集をした。区によって受けられるサービスにも違いがあり、身近

に気軽に話し合える仲間がほしかった。現在は症状が安定しているので、同じ疾患をもつ子どもの集まりなどを通してサポートしてあげたい。

- ・友人が少ないので、サークルに入って友人をつくりたい。低料金で障害者が利用できる料理やスポーツなどのサークルをつくってほしい。また、認知症カフェ（オレンジカフェ）の様な、障害者カフェがあれば利用してみたい。

◆放課後等デイサービス、すくすくスクール(10件)

- ・放課後等デイサービスを必要とする子どもが増えているのに、施設や募集が増えないので利用できない。
- ・障害児（特に未就学児）を持つ親は就労を継続することが非常に困難。障害者（児）の家族も健常者の家族と同じように働き過ごせる支援が必要と感じている。
- ・障害者に限らず働きたいママの立場から、すくすくスクールの預かり時間を20時から21時くらいまでにしていただけると、残業などにも対応できるため助かる。費用がかかってもかまわないので、夕食を手配していただけるとありがたい。
- ・放課後等デイサービスが利用できる事業所が少なく、区外で利用せざるを得ない。送迎を利用できる事業所が減ってしまい、共働き世帯で障害児がいる家庭には負担が大きすぎる。

◆障害児のサービス、支援(9件)

- ・区内の療育教室が少ない。共働きが多いので土日の教室を充実させてほしい。
- ・中学校入学にあたり、診断書が必要となったが、通院していなかったため、初診で診断書をもらうのは困難であった。軽度な障害やグレーゾーンな子が増えている現状で、定期的に通院している子は少ないと思うので、そのような家庭に情報やフォローなどしていただけたらとても助かる。
- ・育成室に通い、同じ年代の友達との関わりなどを通して大きく成長したように思う。
- ・未就学児の療育などは徐々に増えて利用しやすいが、小学校入学後からの療育やその他サポートは手厚くないと思う。グレーゾーンと診断される子どもが増えているため、利用できる支援の更なる充実を望む。江戸川区は子育てしやすい区と言われているが、障害者（児）がいる世帯には住みにくい区だと感じている。

◆学校卒業後の受け皿(8件)

- ・学校を卒業した後の居場所がもっとほしい。家族もまだ仕事をしているので、就労時間が短いと、家族の働き方まで変えなければならなく、負担が増えることが不安。
- ・18歳以上になると、放課後等デイサービスが利用できなくなるので、同様のサービスをつくってほしい。

◆グループホーム等住まい(4件)

- ・グループホームなど安心して暮らせる場所がほしい。また、そこで働く方の手当なども考えてほしい。
- ・障害者が将来、住まいなど居場所が無いということがないようにしてほしい。

◆理解促進(3件)

- ・他人事と思わずに、一人ひとりが「もし自分だったら…」と考え、一声かける勇気があれば、皆が生きやすい世の中になるのではないか。
- ・まわりに迷惑をかけないようにと家族が頑張っていること、自分を責めながらやっていることを理解してほしい。

◆今回のアンケートについて(8件)

- ・このアンケートに対する質問をきっかけに、新しい情報を得ることができた。
- ・障害者本人はアンケートに参加できない方もいると思うので、家族に対してのアンケートをお願いしたい。
- ・子どもが小さい為、母親が回答させていただいた。アンケートの対象年齢が広すぎるので、正直戸惑う内容もあった。今後は小学校まで、高校生まで、成人とわけた内容のアンケートをしていただけると助かる。

◆その他(13件)

- ・本人や家族に定期的な声かけや連絡をしてほしい。声かけをされることで安心することがある。
- ・障害者でも財産の管理ができるような世の中にしてほしい。

第 3 章 調査票

江戸川区 生活ニーズに関するアンケート調査

－ 調査ご協力のお願い －

日頃より江戸川区の福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この調査は、来年度改定を予定している障害福祉計画及び障害児福祉計画に反映するとともに、皆様が日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料とするために、江戸川区が実施するものです。

調査対象者として令和元年9月27日現在、障害者手帳、児童通所受給者証をお持ちの方や難病手当を受給されている方などから無作為で抽出した1,500名の方へ調査票を送付させていただきました。立ち入ったことや、ご自身とは関係ないと思われる内容もあるかと思いますが、お答えいただけるものだけでも結構ですので、ぜひともご協力をお願いいたします。

なお、本調査票にお名前をお書きいただく必要はございません。また、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個々の方のお名前やご回答内容が特定されたり、公表されたりするようなことは一切ございません。どうぞ率直なご意見、お考えをお聞かせください。

令和元年10月

江戸川区

【ご記入にあたって】

- 1 調査票の設問中の「あなた」とは、封筒の宛名のご本人です。封筒の宛名のご本人がお答えください。なお、ご本人がお答えにならない場合には、主に介助をなさっている方やご家族の方がご本人の意向をくみ取ってお答えください。
- 2 あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
- 3 「その他」を選択される場合には、()内にその内容を具体的に記入してください。
- 4 記入が済みしたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**11月13日(水)までに** お近くのポストにご投函ください。
- 5 ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

江戸川区役所 福祉部 障害者福祉課 計画係
 電話番号 03-5662-0044(直通)
 ファックス 03-3656-5874

回答者について、お聞きします。

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)

1. 宛名のご本人が記入
2. 宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入
3. 宛名のご本人の意向をくみ取り代わりに家族や支援者などが記入
4. その他()

あなた(封筒の宛名のご本人)についてお聞きします。

問2 あなたの性別と年齢、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

① 性別	1. 男性	2. 女性
② 年齢 (令和元年10月1日現在)	1. 0～5歳 2. 6～18歳 3. 19～29歳	4. 30～39歳 5. 40～49歳 6. 50～64歳
③ 居住地域	7. 65～74歳 8. 75歳以上	

1. 区民票	中央1～4丁目、松島1～4丁目、松江1～7丁目、東小松川1～4丁目、西小松川町、大杉1～5丁目、西一之江1～4丁目、春江町4丁目、上一色1～3丁目、本一色1～3丁目、一之江1～8丁目、西端江4丁目1・2・10～27、江戸川4丁目15～25、松本1・2丁目、興宮町
2. 小松川事務所	小松川1～4丁目、平井1～7丁目
3. 豊西事務所	春江町5丁目、西端江5丁目、江戸川5・6丁目、一之江町、二之江町、船場1～7丁目、宇喜田町、東葛西1～9丁目、西葛西1～8丁目、中葛西1～8丁目、南葛西1～7丁目、北葛西1～5丁目、清新町1・2丁目、臨海町1～6丁目、堀江町
4. 小岩事務所	東小岩1～6丁目、西小岩1～5丁目、南小岩1～8丁目、北小岩1～8丁目
5. 東部事務所	春江町2・3丁目、東端江1～3丁目、西端江3丁目・4丁目5～9、江戸川1～3丁目・4丁目1～14、谷河内2丁目、下篠崎町、篠崎町3～6丁目、南篠崎町1～5丁目、東篠崎町、東篠崎1・2丁目、瑞江1～4丁目
6. 鹿骨事務所	新堀1・2丁目、春江町1丁目、谷河内1丁目、鹿骨町、鹿骨1～6丁目、上篠崎1～4丁目、篠崎町1・2・7・8丁目、西篠崎1・2丁目、北篠崎1・2丁目、東松本1・2丁目

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、一番長く生活している場所をお答えください。

1. 自宅(持ち家・ご家族の持ち家)
2. 自宅(賃貸住宅)
3. グループホーム
4. 障害者入所施設
5. 介護保険施設
6. 病院
7. その他()

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. ひとり暮らし
- 2. 配偶者
- 3. 父母
- 4. 子ども(子どもの配偶者を含む)
- 5. 兄弟・姉妹
- 6. 祖父母
- 7. その他()

あなたの状況についてお聞きします。

問5 あなたは、障害者手帳をお持ちですか。(1つに○)

- 1. 持っている
- 2. 持っていない → 問7へ

→【問5で「1. 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問6 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。
(あてはまるものすべてに○をつけて記入)

- 1. 身体障害者手帳 …… 級
- 2. 愛の手帳 …… 度
- 3. 精神障害者保健福祉手帳 …… 級

→【問6で「1. 身体障害者手帳」と回答した方にお聞きします。】

問6-1 障害の種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 視覚障害
- 2. 聴覚障害・平衡機能障害
- 3. 音声・言語・そしゃく機能障害
- 4. 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)
- 5. 内部(心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸)機能障害・肝臓機能障害・免疫機能障害

問7は40歳以上の方にお聞きします。(40歳未満の方は問8へ)

問7 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

- 1. 受けている
- 2. 受けていない
- 3. 申請中

→【問7で、「1. 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)

- 1. 要支援1
- 2. 要支援2
- 3. 要介護1
- 4. 要介護2
- 5. 要介護3
- 6. 要介護4
- 7. 要介護5

すべての方にお聞きします。

問8 あなたは現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 発達障害
- 2. 高次脳機能障害
- 3. 難病・特定疾患
- 4. いずれも受けていない

問9 あなたは、以下の医療費の助成などを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)
※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、マル都(難病、人工透析、肝炎など)、小児慢性疾患医療費助成制度が含まれます。

- 1. 医療費の助成
- 2. 難病手当
- 3. 申請中
- 4. いずれも受けていない

問10 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

→【問10で「1. はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 どのような場面で介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 食事
- 2. 排せつ
- 3. 入浴
- 4. 寝返り
- 5. 着替えや歯磨きなどの日常生活動作
- 6. 家の中の移動
- 7. 外出(通学・通勤・通院を含む)
- 8. 日常の買い物
- 9. 家事(調理、洗濯、掃除)
- 10. 育児
- 11. 日常的なコミュニケーション
- 12. 薬や服薬の管理
- 13. お金の管理
- 14. 区役所や事業者との手続き
- 15. その他()

→【問10で「1. はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-2 介助や支援をしている方は、主にどなたですか。(主なもの1つに○)

- 1. 配偶者
- 2. 父母
- 3. 子ども(子どもの配偶者を含む)
- 4. 兄弟・姉妹
- 5. 祖父母
- 6. ホームヘルパー
- 7. 施設や病院・学校の職員
- 8. ボランティア
- 9. その他()

保健・医療についてお聞きします。

問 11 あなたは現在、日常的に医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

1. 受けている 2. 受けていない

→【問 11で「1. 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問 11-1 あなたが現在受けている医療的ケアの種類は次のどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 人工呼吸器 | 8. 経管(経鼻・胃ろう含む) |
| 2. 気管内挿管・気管切開 | 9. 腸ろう・腸管栄養 |
| 3. 鼻咽喉エアウェイ | 10. 透析 |
| 4. 酸素吸入 | 11. 導尿(カテーテルの使用) |
| 5. 吸引 | 12. ストーマ器具 |
| 6. ネプライザー | 13. その他() |
| 7. 中心静脈栄養 | |

すべての方にお聞きします。

問 12 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれたりするかかりつけの医師・歯科医師・薬局(薬剤師)はいますか。(それぞれ1つに○)

- | | | | |
|----------------|-----------|-----------|--------|
| ①かかりつけの医師 | 1. いる(区内) | 2. いる(区外) | 3. いない |
| ②かかりつけの歯科医師 | 1. いる(区内) | 2. いる(区外) | 3. いない |
| ③かかりつけの薬局(薬剤師) | 1. いる(区内) | 2. いる(区外) | 3. いない |

問 13 健康管理や医療について、困ったり不便に思ったりすることはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 近所に医療機関がない | 7. 入院の際に付き添いや個室の利用を勧められる |
| 2. 訪問診療をしてくれる医療機関がない | 8. 障害を理由に診療を断られることがある |
| 3. 通院するのが大変 | 9. 医療費の負担が大きい |
| 4. 通院時に付き添ってくれる人がいない | 10. 服薬管理が難しい |
| 5. 障害のため症状が正確に伝えられない | 11. 訪問看護などの在宅サービスが足りない |
| 6. 受診の手続きや案内などへの配慮が不十分 | 12. その他() |
| | 13. 特に困っていることや不便に思うことはない |

相談や情報入手についてお聞きします。

問 14 日常生活において困っていることを相談する人はいますか。[家族や友人を除く]

(1つに○)

1. いる 2. いない → 問 14-3へ

→【問 14で「1. いる」と回答した方にお聞きします。】

問 14-1 相談相手(場所)は、次のうちどれにあたりですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------------------------|
| 1. 区役所・事務所 | 13. ホームヘルパーなどのサービス提供事業者 |
| 2. 江戸川保健所・健康サポートセンター | 14. 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど) |
| 3. 江戸川区口腔保健センター | 15. 熟年相談室(地域包括支援センター) |
| 4. 地域活動支援センター | 16. 介護支援専門員(ケアマネジャー) |
| 5. 障害者就労支援センター | 17. なごみの家 |
| 6. 障害者知的障害者相談員 | 18. 社会福祉協議会 |
| 7. 身体・知的障害者支援センター | 19. 民生・児童委員 |
| 8. 発達相談室(なごみの家)発達障害者支援センター | 20. 障害者団体・患者会・家族会 |
| 9. 育成室 | 21. その他() |
| 10. 保育園・幼稚園・学校の先生 | |
| 11. 通所施設 | |
| 12. 相談支援専門員
(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | |

→【問 14で「1. いる」と回答した方にお聞きします。】

問 14-2 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。
(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 相談場所 | 7. 訪問での相談が受けられない |
| 2. 相談する日時 | 8. じっくり話を聞いてもらえない |
| 3. プライバシーの保護 | 9. 相談先が限られている |
| 4. 相談先の知識不足や対応 | 10. その他() |
| 5. 実際に支援が始まるまでの時間 | 11. 特に不便に感じることはない |
| 6. 実際の支援につながらない | |

【問 14で「2. いない」と回答した方にお聞きします。】

問 14-3 相談相手がいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 相談先がわからない | 4. 他人に相談するのが不安 |
| 2. 誰にも相談したくない | 5. その他() |
| 3. 家族や友人以外に相談したくない | 6. 相談するほどのことでもない |

すべての方にお聞きします。

問 15 区的生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。(1つに○)

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 広報えどがわ・区のホームページ | 16. 相談支援専門員
(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) |
| 2. えどがわ区民ニュース | 17. ホームヘルパーなどのサービス提供事業者 |
| 3. インターネット | 18. 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど) |
| 4. FM えどがわ・江戸川ケーブルテレビ | 19. 熟年相談室(地域包括支援センター) |
| 5. 区役所・事務所 | 20. 介護支援専門員(ケアマネジャー) |
| 6. 江戸川保健所・健康サポートセンター | 21. なごみの家 |
| 7. 江戸川区口腔保健センター | 22. 社会福祉協議会 |
| 8. 地域活動支援センター | 23. 民生、児童委員 |
| 9. 障害者支援ハウス | 24. 障害者団体・患者会・家族会 |
| 10. 障害者就労支援センター | 25. その他() |
| 11. 身体・知的障害者相談員 | 26. 特に情報を得ていない |
| 12. 発達相談室(ないろ・発達障害者支援センター) | |
| 13. 育成室 | |
| 14. 保育園・幼稚園・学校の先生 | |
| 15. 通所施設 | |

通園・通学についてお聞きします。

問 16 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)

1. している 2. していない → 問 21へ

→ 【問 16 で「1. している」と回答した方にお聞きします。】

問 16-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

【父親の就労状況】	【母親の就労状況】
1. 正社員	1. 正社員
2. パート・アルバイト	2. パート・アルバイト
3. 働いていないが、できれば働きたい	3. 働いていないが、できれば働きたい
4. 働いていないし、その意向もない	4. 働いていないし、その意向もない
5. その他()	5. その他()
6. 父親はいない	6. 母親はいない

通園・通学している方にお聞きします。

問 17 通園・通学しているところはどこですか。(1つに○)

1. 保育園・幼稚園・認定こども園など
2. 小学校・中学校(特別支援学級)
3. 小学校・中学校(通常学級)
4. 特別支援学校(小学部・中学部)
5. 特別支援学校(高等部)
6. 高等学校
7. 大学
8. 専門学校・高等専門学校・専修学校・各種学校
9. 職業能力開発センター
10. その他()

問 18 通園・通学するうえで困っていることはありますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

1. 通うのが大変
2. 障害に応じた授業のサポート
3. 段差やトイレなどの設備
4. 園内・校内での介助
5. 生徒や職員の障害への理解
6. 受け入れてくれる学校の数が少ない
7. 通常学級に入れない
8. 教育や療育に関する情報が少ない
9. 家族への支援が少ない
10. 学校以外の相談先がない
11. その他()
12. 特に困っていることはない

問 19 放課後や休みの日、以下のサービスを利用していますか。

①現在、利用しているもの、②今後、利用したいもの をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

	①現在、利用しているもの	②今後、利用したいもの
(1) 児童発達支援	1	1
(2) 放課後等デイサービス	2	2
(3) 日中一時支援(日帰りショート)	3	3
(4) 短期入所(ショートステイ)	4	4
(5) 移動支援、同行援護	5	5
(6) すくすくスクール	6	6
(7) なごみの家	7	7
(8) 民間の塾や習い事	8	8
(9) 利用しているものはない(利用したいものはない)	9	9

問 20 現在通っている学校などを卒業した後、どのような進路を希望しますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 小学校・中学校(特別支援学級) | 8. 職業能力開発センター |
| 2. 小学校・中学校(通常学級) | 9. 就職(アルバイトなどを含む) |
| 3. 特別支援学校(小学部・中学部) | 10. 障害者通所施設 |
| 4. 特別支援学校(高等部) | 11. 障害者入所施設 |
| 5. 高等学校 | 12. その他() |
| 6. 大学 | 13. わからない |
| 7. 専門学校・高等専門学校・専修学校・各種学校 | |

すべての方にお聞きします。

仕事の状況や今後の希望についてお聞きします。

問 21 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 会社員・公務員・団体職員 | 5. 就労継続支援A型・B型、就労移行支援
を利用 |
| 2. 自営業 | 6. その他() |
| 3. パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など | 7. 働いていない → 問 21-3へ |
| 4. 内職 | |

→【問 21で「1.」から「6.」と回答した方にお聞きします。】

問 21-1 現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を受けた後でしたか。

(1つに○)

- | | | |
|---------|---------|-----------------|
| 1. 受けた後 | 2. 受ける前 | 3. わからない、覚えていない |
|---------|---------|-----------------|

→【問 21-1で「1. 受けた後」と回答した方にお聞きします。】

問 21-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 区役所・保健所など | 7. 通っていた学校 |
| 2. 地域活動支援センター | 8. 就労移行支援事業所 |
| 3. 障害者就労支援センター | 9. その他の福祉施設 |
| 4. ハローワーク | 10. 福祉団体 |
| 5. 障害者就業・生活支援センター | 11. その他() |
| 6. 障害者職業センター | 12. いずれも利用していない |

→ 回答後、問 22へ

【問 21で「7. 働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問 21-3 あなたは今後、どのように働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 会社員・公務員・団体職員 |
| 2. 自営業 |
| 3. パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など |
| 4. 内職 |
| 5. 就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用 |
| 6. その他() |
| 7. 働きたいとは思わない |
| 8. わからない |

すべての方にお聞きします。

問 22 特にどのような支援があったら働きやすいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 疾患や障害の特性に合った求人情報の提供 |
| 2. 会社訪問の同行などの支援 |
| 3. 仕事に役立つ講習(ビジネスマナーやパソコン操作など) |
| 4. 疾患や障害の特性に合った職業訓練 |
| 5. 職場設備(トイレ・エレベーターなど)の確認 |
| 6. 仕事内容の調整(障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など) |
| 7. 職場の障害理解についての支援 |
| 8. 作業のやり方や職場環境についての助言や指導 |
| 9. 急な体調の悪化の際など職場との連絡調整 |
| 10. 就労や生活に関する相談先 |
| 11. 作業所や就労継続・移行支援などの場 |
| 12. その他() |
| 13. 特になし |
| 14. わからない |

趣味の活動や地域の活動についてお聞きします。

問 23 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

- 1. ほぼ毎日
- 2. 週に1回以上
- 3. 月に1回以上
- 4. ほとんど外出しない

問 24 最近1年間に、どのような活動をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 区・社会福祉協議会の行事や催し
- 2. 町会・自治会の行事や催し
- 3. 障害者団体の活動
- 4. ボランティア団体の活動
- 5. 買い物
- 6. 散歩
- 7. 外食
- 8. スポーツ
- 9. 趣味・サークル活動
- 10. 友人とのつきあい
- 11. その他()
- 12. どれも活動していない

問 25 あなたが参加したい活動(現在参加している活動も含む)はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1. スポーツ(水泳・ウォーキングなど)
- 2. 音楽(合唱・楽器演奏など)
- 3. 美術(絵画・陶芸・染物など)
- 4. 料理教室
- 5. 外国語講座
- 6. 教養講座(カルチャースクール、大学の社会人向け講座など)
- 7. パソコン講習
- 8. ボランティア活動(福祉・環境保護・教育など)
- 9. 自ら企画・立案する活動
- 10. その他()
- 11. 参加したい活動はない

問 26 あなたは、「なごみの家」を利用したことがありますか。(1つに○)

- 1. 利用したことがある
- 2. 聞いたことはあるが利用したことはない
- 3. なごみの家を知らない

問 26-1 へ

「なごみの家」とは？

・ 年齢や障害の有無に関わらず、誰もが相談でき、気軽に集えるまちの福祉拠点として、区内9カ所(北小岩・小岩・鹿骨・瑞江・松江・松江北・一之江・長島桑川・葛西南部・小松川平井)に開設しています。

【問 26 で、「2. 聞いたことはあるが利用したことはない」と回答した方にお聞きします。】
問 26-1 なごみの家を利用しない理由は何ですか。

(主にあてはまるもの3つまで○)

- 9. どのような場所なのかイメージできない
- 10. 新しい場所に行くのは不安がある
- 11. 他に利用している場所や活動がある
- 12. お知らせや案内等の情報が入らない
- 13. 参加のきっかけがない
- 14. その他()
- 15. 特にない
- 1. 近くにない
- 2. 健康状態が良くない
- 3. 移動手段・交通手段がない
- 4. 施設が利用しにくい
- 5. 興味を感じない
- 6. 一緒に行く人がいない
- 7. 忙しくて利用する時間がない
- 8. 障害に対する配慮が足りない

すべての方にお聞きします。

問 27 あなたは過去1年間、どの程度スポーツ(運動)を行っていますか。(1つに○)

- 1. 週に3日以上
- 2. 週に1日以上
- 3. 月に1日程度
- 4. 年に1～2日程度
- 5. 行っていない

問 28 あなたのスポーツ(運動)に対する意識について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. スポーツ(運動)を行っており、満足している
- 2. スポーツ(運動)を行っているが、もっと行いたい
- 3. スポーツ(運動)を行いたいと思うが、できない
- 4. スポーツ(運動)に関心がない

問 29 あなたがスポーツ(運動)を行ううえで、必要と考える行政の支援は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 障害者が優先・専用で利用できるスポーツ施設の設置
- 2. 障害者向けのスポーツ教室の実施
- 3. スポーツに関する情報提供や問い合わせ方法の充実
- 4. スポーツをする際のアシスタントの派遣
- 5. スポーツ用車いすや義足などの購入費用の助成制度
- 6. スポーツ施設等への移送支援の充実
- 7. その他()
- 8. 特にない

サービスの利用等についてお聞きします。

問 30 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)

1. 利用している
2. 以前は利用していた
3. 利用したことがない
4. わからない

問 31 障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思ったりすることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. サービスに関する情報が少ない
2. 何が可能なのか分からない
3. 利用したい内容のサービスがない
4. サービスが障害の特性に合っていない
5. サービスの利用方法がわかりづらい
6. サービスを利用するための手続きが大変
7. 利用できる回数や日数が少ない
8. 事業所との利用日時などの調整が大変
9. サービスの質に不満がある
10. 自分に合う事業所が見つからない
11. 事業所に要望を伝えづらい
12. 事業所の担当者が代わってしまう
13. 経済的負担が大きい
14. 他人を家に入れることに抵抗がある
15. その他()
16. 特に困ることや不便に思うことはない

災害時の対応についてお聞きします。

問 32 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 災害の発生や被災状況を知る方法
2. 助けを求める方法
3. 近くに助けてくれる人がいない
4. 医療機器(人工呼吸器や吸引器)などが作動するか
5. 薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか
6. 自宅で避難していたい人が一人では不安
7. 自宅で避難していたい人が災害情報が入手できるか
8. 自宅で避難していたい人が水や食料が入手できるか
9. 避難所に避難したい人が一人では避難できない
10. 避難所の設備や、必要な支援が受けられるか
11. 避難所でほかの人と一緒に過ごすこと
12. その他()
13. 特に不安なことはない

障害者差別についてお聞きします。

問 33 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 聞いたことはある
3. 知らない

障害者差別解消法とは？

- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や区市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。

問 34 あなたは、どのようなときに、障害を理由に差別されていると感じることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共施設や交通機関を利用するとき
2. 職場や学校にいるとき
3. お店を利用するとき
4. 病院を利用するとき
5. 仕事を探すとき
6. 住む家を探すとき
7. その他()
8. 特にない

→【問 34 で「1.」から「7.」と回答した方にお聞きします。】

問 34-1 差別されていると感じたとき、どこかに相談をしましたか。(家族や友人を除く)(1つに○)

1. 相談した
2. 相談したかったが、できなかった
3. 相談しようと思わなかった

【問 34-1 で「2.」または「3.」と回答した方にお聞きします。】

問 34-2 どこにも相談しなかった(できなかった)のは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談するほどではないと思った
2. 相談すべきことかどうかがわからなかった
3. 相談する人がいなかった
4. 相談しても無駄だと思った
5. 相談したことで仕返しされそうだと思う
6. 自分が我慢すればいいことだと思う
7. その他()

現在の暮らしと今後のことについてお聞きします。

問 35 あなたは、江戸川区での暮らしに満足していますか。(1つに○)

- 1. 満足
- 2. やや満足
- 3. ふつう
- 4. やや不満
- 5. 不満

問 36 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

- 1. 今の家族と暮らしたい
- 2. 新たに家庭を持って暮らしたい
- 3. ひとりで暮らしたい
- 4. グループホームで仲間と暮らしたい
- 5. 仲間と部屋をシェアするなどして暮らしたい
- 6. 障害者入所施設で暮らしたい
- 7. 介護保険施設で暮らしたい
- 8. その他()
- 9. わからない

問 37 今後、区の障害者(児)福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1. いつでも気軽に相談できる窓口
- 2. ピアサポーター(同じ障害者を持っている支援者)による相談などの支援
- 3. 児童の療育や保護者への支援
- 4. 障害の早期発見・早期療育の充実
- 5. 住宅の整備、住宅探しの支援(グループホーム、住宅相談など)
- 6. 介助している家族への支援(緊急時の対応など)
- 7. 自立生活のための訓練などの支援
- 8. 権利擁護・財産管理などの支援
- 9. 日中の居場所の確保
- 10. 小中高生の放課後・休日に利用できるサービス(放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど)
- 11. 就労に関する支援
- 12. 生涯学習・障害スポーツの支援
- 13. 障害者団体への支援
- 14. 障害者が利用しやすい移動支援
- 15. 障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動
- 16. 疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催
- 17. 情報収集がしやすい環境整備
- 18. 地震や台風など災害時の支援
- 19. その他()
- 20. 特にない
- 21. わからない

問 38 区の障害者(児)福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

アンケートは以上です。

ご回答いただきまして、ありがとうございます。

返信用封筒(切手不要)に入れ、**11月13日(水)まで**にお近くのポストにご投函ください。

第6期江戸川区障害福祉計画・第2期江戸川区障害児福祉計画
策定のための基礎調査
(江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査)
結果報告書

令和2年3月

【編集・発行】江戸川区役所 福祉部 障害者福祉課
〒132-8501 江戸川区中央1丁目4番1号
電話 03(5662)0044(直通)
FAX 03(3656)5874
